

bizhub C3850

ユーザーズガイド 応用機能編



もくじ

1 Web Connection を使う

1.1	Web Connection について	1-2
	Web Connection とは	1-2
	動作環境	1-2
1.2	お使いになるために必要な作業	1-3
1.2.1	ネットワーク環境を設定する	1-3
	IP アドレスを割り当てる	1-3
	IP アドレスを確認する	1-3
1.2.2	Web ブラウザーの設定を確認する	1-3
1.3	基本的な使い方	1-4
1.3.1	アクセスのしかた	1-4
1.3.2	Web Connection の画面構成	1-4
1.3.3	ステータス表示	1-6
1.3.4	ログインのしかた	1-7
	ログイン画面について	1-7
	ログインモードについて	1-8
	管理者モードにログインする	1-9
	ユーザーモードにログインする	1-9
1.4	ユーザーモードでできること	1-10
1.4.1	〔システム〕 タブ	1-10
1.4.2	〔ジョブ〕 タブ	1-10
1.4.3	〔プリント〕 タブ	1-11
1.4.4	〔ストレージ〕 タブ	1-11
1.4.5	〔宛先〕 タブ	1-12
1.5	管理者モードでできること	1-13
1.5.1	〔システム〕 タブ	1-13
	〔デバイス情報〕	1-13
	〔カウンタ〕	1-13
	〔オンラインヘルプ〕	1-13
	〔インポート / エクスポート〕 - 〔認証〕	1-14
	〔インポート / エクスポート〕 - 〔アドレス〕	1-14
	〔日付 / 時刻設定〕 - 〔マニュアル設定〕	1-14
	〔日付 / 時刻設定〕 - 〔時間補正設定〕	1-15
	〔日付 / 時刻設定〕 - 〔夏時間設定〕	1-15
	〔マシン設定〕	1-16
	〔ROM バージョン〕	1-17
	〔メンテナンス〕 - 〔設定の初期化〕	1-17
	〔メンテナンス〕 - 〔リセット〕	1-17
	〔通知設定〕 - 〔状態通知設定〕	1-18
	〔通知設定〕 - 〔トータルカウンター通知設定〕	1-19
	〔ジョブログ〕 - 〔ジョブログ設定〕	1-19
	〔ジョブログ〕 - 〔ジョブログの作成〕	1-19
	〔ジョブログ〕 - 〔ジョブログのダウンロード〕	1-19
	〔ジョブログ〕 - 〔ジョブログの消去〕	1-19
	〔発信元登録〕	1-20
	〔ライセンス管理設定〕 - 〔機能有効化〕	1-20
1.5.2	〔セキュリティ〕 タブ	1-20
	〔認証〕 - 〔一般設定〕	1-20
	〔認証〕 - 〔ユーザーリスト〕	1-22
	〔認証〕 - 〔部門リスト〕	1-23
	〔認証〕 - 〔外部サーバーリスト〕	1-24
	〔認証〕 - 〔認証情報の一時保存〕	1-25
	〔認証〕 - 〔Home 宛先有効設定〕	1-25
	〔認証〕 - 〔デフォルト機能制限〕	1-26
	〔認証〕 - 〔パブリックユーザーの登録〕	1-26
	〔認証 & プリント設定〕	1-27

	[認証デバイス設定] - [一般設定]	1-27
	[PKI 設定] - [デバイス証明書]	1-28
	[PKI 設定] - [SSL/TLS 設定]	1-28
	[PKI 設定] - [プロトコル設定]	1-29
	[PKI 設定] - [外部証明書]	1-35
	[PKI 設定] - [証明書検証]	1-35
	[IPsec]	1-36
	[IP アドレスフィルタリング]	1-39
	[IEEE802.1X]	1-40
	[参照許可設定] - [ユーザー操作禁止設定]	1-41
	[オートログアウト]	1-41
	[管理者パスワード]	1-41
	[アドレス帳の参照許可設定] - [参照許可グループリスト]	1-41
1.5.3	[ジョブ] タブ	1-42
	[処理中ジョブ]	1-42
	[処理済ジョブ]	1-42
	[コミュニケーションリスト]	1-42
1.5.4	[プリント] タブ	1-42
	[デフォルト設定] - [一般設定]	1-42
	[デフォルト設定] - [給紙トレイ設定]	1-44
	[デフォルト設定] - [トレイマッピング設定]	1-44
	[デフォルト設定] - [PCL 設定]	1-45
	[デフォルト設定] - [PostScript 設定]	1-46
	[デフォルト設定] - [XPS 設定]	1-47
	[デフォルト設定] - [印刷品質設定]	1-47
	[デフォルト設定] - [OOXML 設定]	1-48
	[デフォルト設定] - [ページレイアウト設定]	1-48
	[デフォルト設定] - [バーコード設定]	1-49
	[フォント/フォーム]	1-49
	[フォント/フォームのダウンロード]	1-49
	[レポート印刷]	1-50
	[ダイレクトプリント]	1-50
1.5.5	[ストレージ] タブ	1-50
	[HDD 送信]	1-50
	[PC-Fax]	1-50
1.5.6	[宛先] タブ	1-50
	[アドレス帳]	1-50
	[グループ]	1-50
	[プログラム]	1-51
	[題名]	1-51
	[本文]	1-51
1.5.7	[ネットワーク] タブ	1-51
	[一般設定] - [ネットワークインターフェース設定]	1-51
	[一般設定] - [Ethernet 設定]	1-51
	[一般設定] - [無線 LAN 設定]	1-52
	[一般設定] - [無線 LAN ステータス]	1-53
	[一般設定] - [無線 LAN 設定 (AP mode)]	1-53
	[一般設定] - [ローカルインターフェース設定]	1-54
	[TCP/IP 設定] - [TCP/IP 設定]	1-54
	[TCP/IP 設定] - [IPv4 設定]	1-55
	[TCP/IP 設定] - [IPv6 設定]	1-55
	[TCP/IP 設定] - [RAW ポート設定]	1-56
	[TCP/IP 設定] - [DNS 設定]	1-56
	[E-mail 設定] - [E-mail 送信 (SMTP)]	1-57
	[E-mail 設定] - [E-mail 受信 (POP)]	1-59
	[E-mail 設定] - [S/MIME]	1-59
	[LDAP 設定] - [LDAP 設定]	1-60
	[LDAP 設定] - [LDAP サーバー登録]	1-60
	[HTTP 設定] - [HTTP サーバー設定]	1-61
	[IPP 設定]	1-61
	[FTP 設定] - [FTP サーバー設定]	1-62
	[FTP 設定] - [FTP 送信設定]	1-62
	[SNMP 設定]	1-63
	[SMB 設定] - [WINS/NetBIOS 設定]	1-65

[SMB 設定] - [SMB クライアント設定]	1-65
[SMB 設定] - [Direct Hosting 設定]	1-65
[Web サービス設定] - [一般設定]	1-66
[Web サービス設定] - [プリンター設定]	1-66
[Web サービス設定] - [スキャナー設定]	1-66
[Bonjour 設定]	1-66
[ネットワーク Fax 設定] - [ネットワーク Fax 機能設定]	1-67
[ネットワーク Fax 設定] - [I-Fax 自機受信能力]	1-67
[ネットワーク Fax 設定] - [I-Fax 拡張設定]	1-67
[WebDAV 設定] - [WebDAV サーバー設定]	1-68
[WebDAV 設定] - [WebDAV クライアント設定]	1-68
[OpenAPI 設定]	1-69
[TCP Socket 設定]	1-70
[LLTD 設定]	1-70
[本体更新設定] - [HTTP プロキシ設定]	1-71
[Web Browser Settings]	1-71
[IWS Settings]	1-71
[SSDP Settings]	1-72

2 本機の使用環境を設定する

2.1	E-mail 送信の使用環境を設定する	2-2
	概要	2-2
	E-mail 送信の基本設定をする	2-3
	SSL/TLS で通信する	2-4
	SMTP 認証を使う	2-4
	POP before SMTP 認証を使う	2-5
	S/MIME を使う	2-6
2.2	SMB 送信の使用環境を設定する	2-7
	概要	2-7
	SMB 送信の基本設定をする	2-8
	WINS サーバーを使う	2-8
	ダイレクトホスティング SMB サービスを使う	2-9
	LLMNR で名前解決する	2-9
	DFS 環境で使う	2-9
2.3	FTP 送信の使用環境を設定する	2-10
	概要	2-10
	FTP 送信の基本設定をする	2-10
	プロキシサーバーを使う	2-10
2.4	WebDAV 送信の使用環境を設定する	2-11
	概要	2-11
	WebDAV 送信の基本設定をする	2-12
	プロキシサーバーを使う	2-12
	SSL で通信する	2-12
2.5	WS スキャン送信の使用環境を設定する	2-13
	概要	2-13
	WS スキャン送信の基本設定をする	2-14
	SSL で通信する	2-14
2.6	WS 印刷の使用環境を設定する	2-15
	概要	2-15
	WS 印刷の基本設定をする	2-16
	SSL で通信する	2-16
2.7	インターネットファクスの使用環境を設定する	2-17
	概要	2-17
	インターネットファクス送受信の基本設定をする	2-18
	ファクスの到着確認をする	2-20
	本機の受信能力を設定する	2-20
	SSL/TLS で通信する	2-21
	SMTP 認証を使う	2-21
	POP before SMTP 認証を使う	2-22
2.8	LDAP サーバーを使って宛先を検索する	2-23
	概要	2-23
	LDAP 検索の基本設定をする	2-24

	SSL で通信する	2-25
2.9	宛先を登録する	2-26
2.9.1	短縮宛先を登録する	2-26
	E-mail 宛先を登録する	2-26
	FTP 宛先を登録する	2-27
	SMB 宛先を登録する	2-28
	WebDAV 宛先を登録する	2-29
	Fax 宛先を登録する	2-30
	I-Fax 宛先を登録する	2-31
2.9.2	グループ宛先を登録する	2-32
2.9.3	プログラム宛先を登録する	2-32
2.10	本体装置認証を導入する	2-34
	概要	2-34
	ユーザー認証の基本設定をする	2-34
2.11	Active Directory 認証を導入する	2-36
	概要	2-36
	Active Directory 認証の基本設定をする	2-36
2.12	部門管理を導入する	2-37
	概要	2-37
	部門管理の基本設定をする	2-37
2.13	本機の証明書を利用する	2-38
2.13.1	本機の証明書を作成して SSL で通信する	2-38
	概要	2-38
	証明書を自己作成する	2-38
	認証局に証明書の発行要求をする	2-39
2.13.2	本機の証明書を管理する	2-40
	証明書をエクスポートする	2-40
	証明書をインポートする	2-40
	証明書を削除する	2-40
2.14	ユーザーごとに参照できる宛先を制限する	2-41
2.14.1	参照できる宛先の制限方法	2-41
2.14.2	参照許可レベルで管理する	2-41
	参照許可レベルとは	2-41
	参照許可レベルを設定する	2-41
2.14.3	参照許可グループで管理する	2-42
	参照許可グループとは	2-42
	参照許可グループを割当て	2-42
2.14.4	参照許可レベルと参照許可グループを組合わせて管理する	2-43
	参照許可レベルと参照許可グループを組合わせる	2-43
	参照許可レベルと参照許可グループを同時に設定する	2-43

3 プリンタードライバーの手動インストール (Windows 環境)

3.1	接続方法を確認する	3-2
	Windows Vista/7/8/8.1/Server 2008/Server 2008 R2/Server 2012/ Server 2012 R2 をお使いの場合	3-2
	Windows Server 2003 をお使いの場合	3-3
3.2	LPR/Port9100 接続でインストールする	3-4
	お使いになるために必要な作業 (管理者向け)	3-4
3.2.1	プリンターを自動検出してインストールする	3-4
	Windows 8/8.1/Server 2012/Server 2012 R2 をお使いの場合	3-4
	Windows Vista/7/Server 2008/Server 2008 R2 をお使いの場合	3-6
3.2.2	新しくポートを作成してインストールする	3-8
	Windows 8/8.1/Server 2012/Server 2012 R2 をお使いの場合	3-8
	Windows Vista/7/Server 2008/Server 2008 R2 をお使いの場合	3-10
	Windows Server 2003 をお使いの場合	3-12
3.3	IPP 接続でインストールする	3-14
	お使いになるために必要な作業 (管理者向け)	3-14
	Windows 8/8.1/Server 2012/Server 2012 R2 をお使いの場合	3-14
	Windows Vista/7/Server 2008/Server 2008 R2 をお使いの場合	3-16
	Windows Server 2003 をお使いの場合	3-18



3.4	Web サービス接続でインストールする	3-19
	Web サービスについて	3-19
	お使いになるために必要な作業（管理者向け）	3-19
	インストールのしかた	3-19
3.5	USB 接続でインストールする	3-20
	Windows Vista/7/8/8.1/Server 2008/Server 2008 R2/Server 2012/ Server 2012 R2 をお使いの場合	3-20
	Windows Server 2003 をお使いの場合	3-20
	プリンタードライバの更新	3-21
3.6	プリンタードライバを手動で削除する	3-23
4	LPR/IPP 接続によるプリンターの追加（Mac OS 環境）	
4.1	LPR 接続で使う	4-2
	お使いになるために必要な作業（管理者向け）	4-2
	Mac OS X 10.4 以降をお使いの場合	4-2
	Mac OS X 10.3 をお使いの場合	4-3
4.2	IPP 接続で使う	4-5
	お使いになるために必要な作業（管理者向け）	4-5
	Mac OS X 10.4 以降をお使いの場合	4-5
	Mac OS X 10.3 をお使いの場合	4-6
5	Linux 環境で印刷する	
5.1	必要なシステム環境	5-2
5.2	印刷の準備	5-3
5.2.1	プリンターを追加する	5-3
5.2.2	プリンターを手動で追加する	5-4
	PPD ファイルを手動インストールする	5-4
	CUPS Administration Web Page からプリンターを追加する	5-4
5.2.3	プリンタードライバの初期設定	5-5
	［インストールされたオプション］	5-5
	［General］	5-5
	［イメージ設定］	5-6
	［テキスト設定］	5-6
	［グラフィックス設定］	5-6
	［シミュレーション］	5-6
5.3	印刷のしかた	5-7
6	認証装置（IC カード認証タイプ）を使う	
6.1	認証装置（IC カード認証タイプ）について	6-2
6.2	お使いになるために必要な作業（管理者向け）	6-3
6.2.1	本機の認証設定をする	6-3
6.2.2	ユーザーの認証情報を登録する	6-4
	Data Administrator について	6-4
	Data Administrator をセットアップする	6-4
	ユーザーの認証情報を登録する	6-6
	ユーザー情報とカード ID を関連付ける	6-8
6.3	本機にログインする	6-9
7	索引	



Web Connection を使う

1 Web Connection を使う

1.1 Web Connection について

Web Connection とは

Web Connection は、本機に内蔵されている、管理用のユーティリティソフトウェアです。

コンピューターから Web ブラウザーを使って、本機のステータス確認、本機の各種設定などが簡単にできます。

宛先の入力やネットワークの設定など、パネルでは面倒な文字入力も、コンピューターから簡単に行えます。

動作環境

項目	仕様
ネットワーク	イーサネット (TCP/IP)
Web ブラウザー	Windows をお使いの場合 ・ Microsoft Internet Explorer 8 以降 ・ Mozilla Firefox 18 以降 Mac OS をお使いの場合 ・ Mozilla Firefox 18 以降 ・ Safari 5 以降 iOS をお使いの場合 ・ Safari 5 以降 Linux をお使いの場合 ・ Mozilla Firefox 18 以降



参考

iPhone/iPod touch をお使いの場合、iPhone/iPod touch に最適化された Web ページを表示します。

1.2 お使いになるために必要な作業

1.2.1 ネットワーク環境を設定する

IP アドレスを割当てる

本機に固定の IP アドレスを用意している場合は、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイのアドレスを、手動で入力します。

操作パネルの [設定メニュー] - [管理者設定] - [ネットワーク設定] - [TCP/IP 設定] - [IPv4 設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[IP アドレス]	IP アドレスを手動設定する場合に、本機に用意した固定 IP アドレスを入力します。
[サブネットマスク]	IP アドレスを手動設定する場合に、サブネットマスクを入力します。
[デフォルトゲートウェイ]	IP アドレスを手動設定する場合に、デフォルトゲートウェイを入力します。
[IP 確定方法自動設定]	IP アドレスを自動設定する場合に、自動取得の方法を選びます。 ・ [DHCP 設定]：初期値は [ON] です。 ・ [BOOTP 設定]：初期値は [OFF] です。 ・ [ARP/PING 設定]：初期値は [OFF] です。 ・ [AUTO IP 設定]：[有効] 固定です。

IP アドレスを確認する

設定情報リストを印刷し、本機に IP アドレスが割当てられていることを確認します。

設定情報リストは、[設定メニュー] - [ユーザー設定] - [プリンター設定] - [レポート出力] - [設定情報リスト] から印刷します。

1.2.2 Web ブラウザーの設定を確認する

お使いの環境でプロキシサーバーを経由してインターネットに接続している場合は、Web ブラウザーのプロキシの設定で、本機を例外として登録してください。

- Internet Explorer をお使いの場合、[ツール] メニューから [インターネット オプション] を選びます。[接続] タブで [LAN の設定] をクリックし、[プロキシサーバー] の [詳細設定] をクリックします。[例外] のテキストボックスに本機の IP アドレスまたはホスト名を入力し、[OK] をクリックします。
- Firefox (Windows) をお使いの場合、[ツール] メニューから [オプション] を選びます。[詳細] メニューの [ネットワーク] タブで [接続設定] をクリックし、[手動でプロキシを設定する] を選びます。[プロキシなしで接続] のテキストボックスに本機の IP アドレスまたはホスト名を入力し、[OK] をクリックします。
- Firefox (Mac OS) をお使いの場合、[Firefox] メニューから [環境設定 ...] を選びます。[詳細] メニューの [ネットワーク] タブで [接続設定 ...] をクリックし、[手動でプロキシを設定する] を選びます。[プロキシなしで接続] のテキストボックスに本機の IP アドレスまたはホスト名を入力し、[OK] をクリックします。



参照

詳しくは、お使いの Web ブラウザーのヘルプをごらんください。

1.3 基本的な使い方

1.3.1 アクセスのしかた

Web Connection へアクセスする方法を説明します。

- 1 Web ブラウザーを起動します。
 - 2 URL のフィールドに、本機の IP アドレスを入力して [Enter] を押します。
 - (例) 本機の IP アドレスが 192.168.1.20 の場合は、「http://192.168.1.20/」と入力します。
SSL 通信を行なっている場合は、「https://192.168.1.20/」と入力します。
 - 本機の IP アドレスの確認方法について詳しくは、1-3 ページをごらんください。
- Web Connection の画面が表示されます。



参考

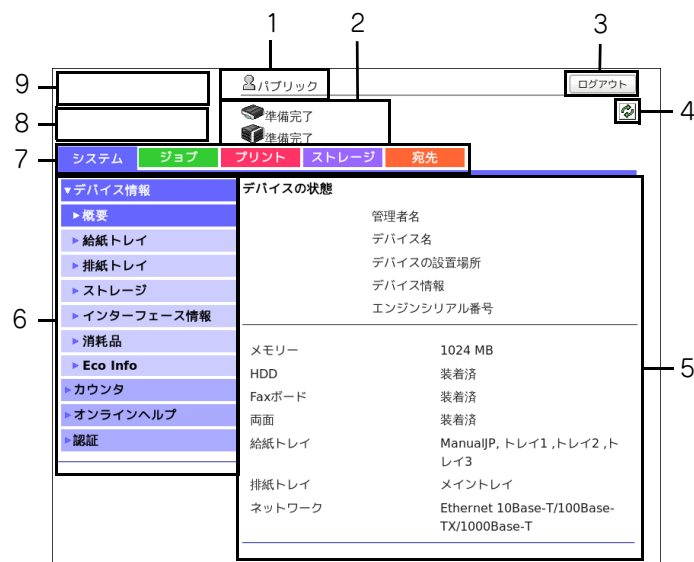
- 名前解決のために WINS サーバーを導入している場合は、本機のホスト名を指定してアクセスできません。本機のホスト名はコンピューター内の hosts ファイル (C:\Windows\System32\drivers\etc\hosts) に設定されており、通常は管理者によって割り当てられています。詳しくは、本機の管理者に確認してください。
- IPv6 環境で、Internet Explorer 8/9 および Internet Explorer 以外の Web ブラウザーをお使いの場合は、IPv6 アドレスを [] で囲んで入力してください。
(例) 本機の IPv6 アドレスが fe80::220:6bff:fe10:2f16 の場合は、
「http://[fe80::220:6bff:fe10:2f16]/」と入力します。

1.3.2 Web Connection の画面構成

Web Connection の画面は、大きく分けて以下の 3 つの部分で構成されます。

- 画面上部：ログインユーザー名や、本機の状態などの情報を表示します。
- 画面左：Web Connection の機能メニューを表示します。
- 画面右：選択したメニューの内容を表示します。

ここでは、[システム] - [デバイス情報] - [概要] の画面を例に、画面の各部を説明します。











No.	項目	説明
1	ログインユーザー名	ログインしているモードと、ユーザー名を表示します。

No.	項目	説明
2	ステータス表示	本機の状態を表示します。 本機のプリンター部分と、スキャナー部分の状態を、それぞれアイコンとメッセージで表示します。詳しくは、1-6 ページをごらんください。
3	[ログアウト]	クリックして、 Web Connection からログアウトします。
4	更新	クリックすると、画面を最新の状態に更新します。
5	情報、設定の表示	画面左のメニューをクリックすると、そのメニューの内容を表示します。
6	メニュー	メニューのカテゴリーをクリックすると、そのカテゴリーのメニュー項目を表示します。
7	メニューのカテゴリー	メニューの項目は、それぞれの内容から、いくつかのカテゴリーに分けられています。
8	Web Connection ロゴマーク	ロゴをクリックすると、 Web Connection のバージョンを表示します。
9	KONICA MINOLTA ロゴマーク	ロゴをクリックすると、KONICA MINOLTA のサイトを表示します (http://www.konicaminolta.com/)。

1.3.3 ステータス表示

本機の現在の状態（ステータス）は、画面上部に常に表示されます。以下のアイコンによって、ステータスの種類を表します。

アイコン	ステータス	説明
 	レディー	本機がオンライン状態で、印刷可能状態または印刷中です。
 	警告	注意が必要ですが、印刷は続行可能です。
 	エラー	次に印刷を行う前に注意が必要です。
 	フェイタルエラー	本機を再起動する必要があります。 再起動してもエラーが消えない場合は、修理が必要です のでサービス実施店にご連絡ください。

1.3.4 ログインのしかた

ログイン画面について

Web Connection にアクセスすると、最初に表示される画面です。ユーザー名などの必要な情報を入力して、Web Connection にログインします。

項目	説明
[言語]	Web Connection を表示する言語を選びます。
[ログイン]	ログインするモードを選びます。ユーザーの種類によって、ログインするモードが異なります。 ログインするモードには、ユーザーモードと管理者モードがあります。詳しくは、1-8 ページをごらんください。

参考

本機の認証設定によって、表示される画面が異なります。また、このログイン画面で入力した情報によって、ログインした後にできる操作も異なります。

ログインモードについて

Web Connection には、複数のログインモードがあり、それぞれのモードで操作できる内容が違います。

Web Connection のログインモードには、本機の設定を行う「管理者モード」と、本機の機能を利用する「ユーザーモード」の二種類があります。

ログインモード	説明
管理者モード	<p>本機の管理者がログインして、本機の設定を行うモードです。 ログインするには、管理者パスワードの入力が必要です。 管理者としてログインしているときは、以下のカテゴリのメニューを利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [システム] ・ [セキュリティ] ・ [ジョブ] ・ [プリント] ・ [ストレージ] ・ [宛先] ・ [ネットワーク]
ユーザーモード	<p>ユーザー（登録ユーザー、パブリックユーザー）がログインするモードです。 本機の状態、ジョブの確認、HDD 内のファイルの活用、ダイレクトプリント、宛先の登録など、本機の機能を利用できます。</p>
[レジスタユーザー]	<p>本機に登録されているユーザーや部門でログインするモードです。 ログインするには、本機で認証設定を有効にして、ユーザーまたは部門を登録する必要があります。 登録ユーザーとしてログインしているときは、以下のカテゴリのメニューを利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [システム] ・ [ジョブ] ・ [プリント] ・ [ストレージ] ・ [宛先]
[パブリックユーザー]	<p>本機に登録されていない、一般のユーザーとしてログインするモードです。 本機でパブリックユーザーの使用が許可されていない場合には、このモードは使えません。</p>



参考

- ユーザー、管理者あわせて最大 100 クライアントが同時に接続できます。また、複数のユーザー、管理者が同時にログインすることができます。
- Web Connection にログインした状態で、一定時間操作が行われなかった場合は、自動的にログアウトします。
- Web Connection のユーザーモードにログインしている間に、本機の操作パネルから認証設定が変更された場合は、自動的にログアウトします。

管理者モードにログインする

管理者モードにログインすると、本機の設定ができます。

- 1 ログイン画面で「管理者」を選び、「ログイン」をクリックします。
- 2 管理者パスワードを入力し、「OK」をクリックします。
管理者モードの画面が表示されます。

ユーザーモードにログインする

登録ユーザーとしてログインする方法と、パブリックユーザーとしてログインする方法があります。

- 1 登録ユーザーとしてログインする場合は、ログイン画面で「レジスタユーザー」を選びます。
→ 一般ユーザーとしてログインする場合は、「パブリックユーザー」を選び、「ログイン」をクリックします。
- 2 ユーザー名とパスワードを入力し、「ログイン」をクリックします。
ユーザーモードの画面が表示されます。



参考

外部の認証サーバーで認証を行っている場合は、サーバーを選びます。

1.4 ユーザーモードでできること

1.4.1 [システム] タブ

表示するには：ユーザーモード - [システム]

本機のシステム構成に関する情報や設定を確認できます。

項目	説明
[デバイス情報]	本機の状態やオプションの装着情報などを確認できます。
[概要]	本機の構成要素、オプションの装着有無などの状態を表示します。
[給紙トレイ]	本機に装着されている給紙トレイの状態と用紙情報を表示します。
[排紙トレイ]	本機に装着されている排紙トレイの状態を表示します。
[ストレージ]	本機に装着されている HDD の容量を表示します。
[インターフェース情報]	本機のネットワーク設定を表示します。
[消耗品]	本機の消耗品の状態を表示します。
[Eco 指標]	全印刷に占めるカラー印刷の割合、両面印刷やページ集約による用紙の節約率、消費電力の推移など、本機のエコ指標を表示します。
[カウンタ]	本機のカウンター情報を確認できます。
[トータルカウンター]	本機でこれまでに印刷した数量を機能別に表示します。
[用紙サイズ別カウンター]	本機でこれまでに印刷した数量を用紙サイズ別に表示します。
[用紙種類別カウンター]	本機でこれまでに印刷した数量を用紙種類別に表示します。
[オンラインヘルプ]	製品に関するサポート情報を確認できます。
[認証]	ログインしているユーザーの認証情報を表示します。登録ユーザーでログインしている場合は、パスワードを変更できます。
[パスワード変更]	現在ログインしているユーザーのパスワードを変更できます。
[登録情報]	現在ログインしているユーザーの登録内容を確認できます。

1.4.2 [ジョブ] タブ

表示するには：ユーザーモード - [ジョブ]

本機で実行中のジョブや、ジョブの履歴を確認できます。

項目	説明
[処理中ジョブ]	本機で現在処理しているプリントジョブ、送信ジョブ、受信ジョブ、保存ジョブを表示します。
[処理済ジョブ]	本機で処理が完了しているプリントジョブ、送信ジョブ、受信ジョブ、保存ジョブを表示します。
[コミュニケーションリスト]	スキャン送信ジョブ、ファクス送信ジョブ、ファクス受信ジョブの通信開始時刻や通信結果を表示します。

1.4.3 [プリント] タブ

表示するには：ユーザーモード - [プリント]

本機のプリンター設定の確認や、レポートの印刷、ダイレクトプリント機能の利用ができます。

項目	説明
[デフォルト設定]	本機のプリンター関連設定の設定値を確認できます。
[一般設定]	プリント機能共通で使用する印刷設定を表示します。
[給紙トレイ設定]	各給紙トレイの用紙設定を表示します。
[トレイマッピング設定]	トレイマッピングに関する設定を表示します。
[PCL 設定]	PCL 印刷に関する設定を表示します。
[PostScript 設定]	PS 印刷に関する設定を表示します。
[XPS 設定]	XPS 印刷に関する設定を表示します。
[印刷品質設定]	画質に関する設定を表示します。
[OOXML 設定]	OOXML 印刷に関する設定を表示します。
[ページレイアウト設定]	ページ割付に関する設定を表示します。
[フォント / フォーム]	本機に保存されているフォント、フォーム、プロファイルの情報を確認できます。
[PCL フォント]	本機に保存されている PCL フォントの一覧を表示します。
[PostScript フォント]	本機に保存されている PS フォントの一覧を表示します。
[フォーム]	本機に保存されているフォームの一覧を表示します。
[カラープロファイル]	本機に保存されているカラープロファイルの一覧を表示します。
[レポート印刷]	各種レポートを印刷します。 印刷したいレポートを選び、[プリント] をクリックします。
[ダイレクトプリント]	コンピューター上のファイルを直接本機に送信して印刷します。 詳しくは、[ユーザーズガイド プリント機能編] をごらんください。

1.4.4 [ストレージ] タブ

表示するには：ユーザーモード - [ストレージ]

本機で実行中のジョブや、ジョブの履歴を確認できます。

項目	説明
[HDD 送信]	HDD 保存機能で保存したデータの確認やダウンロード、削除ができます。 詳しくは、[ユーザーズガイド スキャン機能編] をごらんください。
[PC-Fax]	PC-FAX 受信または強制メモリー受信で保存されたファクス文書の印刷、ダウンロード、削除ができます。 詳しくは、[ユーザーズガイド ファクス機能編] をごらんください。

1.4.5 [宛先] タブ

表示するには：ユーザーモード - [宛先]

よく送信する宛先の登録や、登録内容の編集ができます。

項目	説明
[アドレス帳]	よく送信する宛先を本機に登録できます。また、本機に登録されている宛先の登録内容を確認したり、編集したりできます。 詳しくは、2-26 ページをごらんください。
[グループ]	複数の宛先をまとめて、グループ宛先として登録できます。また、本機に登録されているグループ宛先の登録内容を確認したり、編集したりできます。 詳しくは、2-32 ページをごらんください。
[プログラム]	よく使うオプション設定の組合わせを、1つの呼出しキー（プログラム）として登録できます。また、本機に登録されているプログラムの登録内容を確認したり、編集したりできます。 詳しくは、2-32 ページをごらんください。
[題名]	E-mail 送信時に利用する件名を登録できます。また、本機に登録されている件名の登録内容を確認したり、編集したりできます。
[本文]	E-mail 送信時に利用する本文を登録できます。また、本機に登録されている本文の登録内容を確認したり、編集したりできます。

1.5 管理者モードでできること

1.5.1 [システム] タブ

[デバイス情報]

表示するには：管理者モード - [システム] - [デバイス情報]

本機の状態やオプションの装着情報などを確認できます。

項目	説明
[概要]	本機の構成要素、オプションの装着有無などの状態を表示します。
[給紙トレイ]	本機に装着されている給紙トレイの状態と用紙情報を表示します。
[排紙トレイ]	本機に装着されている排紙トレイの状態を表示します。
[ストレージ]	本機に装着されている HDD の容量を表示します。
[インターフェース情報]	本機のネットワーク設定を表示します。
[消耗品]	本機の消耗品の状態を表示します。
[Eco 指標]	全印刷に占めるカラー印刷の割合、両面印刷やページ集約による用紙の節約率、消費電力の推移など、本機のエコ指標を表示します。

[カウンタ]

表示するには：管理者モード - [システム] - [カウンタ]

本機のカウンター情報を確認できます。

項目	説明
[トータルカウンター]	本機でこれまでに印刷した数量を機能別に表示します。
[用紙サイズ別カウンター]	本機でこれまでに印刷した数量を用紙サイズ別に表示します。
[用紙種類別カウンター]	本機でこれまでに印刷した数量を用紙種類別に表示します。

[オンラインヘルプ]

表示するには：管理者モード - [システム] - [オンラインヘルプ]

製品に関する問い合わせ先や、製品ヘルプの URL など、本機のサポート情報を登録します。

サポート情報を登録すると、Web Connection のユーザーモードの [システム] - [オンラインヘルプ] でユーザーが確認できるようになります。

項目	説明
[お問い合わせ先名称]	本機のお問い合わせ先の名前を入力します（63 バイト以内）。
[お問い合わせ先情報]	本機のお問い合わせ先の電話番号、URL などを入力します（127 バイト以内）。
[製品ヘルプの URL]	本機の製品情報ページの URL を入力します（127 バイト以内）。
[コーポレート URL]	本機の製造元のホームページの URL を入力します（127 バイト以内）。
[消耗品情報]	消耗品の発注先の情報を入力します（127 バイト以内）。
[ユーティリティへのリンク]	デバイス管理ユーティリティの Web サイトの URL を入力します（127 バイト以内）。
[ドライバー URL]	必要に応じて、本機のドライバーを格納してある場所の URL を入力します（127 バイト以内）。 お使用の環境に合わせて、適切な URL を入力してください。

〔インポート / エクスポート〕 - 〔認証〕

表示するには：管理者モード - 〔システム〕 - 〔インポート / エクスポート〕 - 〔認証〕

ユーザー認証／部門管理を導入している場合に、本機に登録されている認証情報のインポートまたはエクスポートができます。

（このメニューは、本機でユーザー認証／部門管理を設定している場合に表示されます。）

項目	説明
〔インポート〕	コンピューター上の認証情報ファイルを本機へインポートします。 〔参照〕をクリックしてインポートするファイルを指定し、〔インポート〕をクリックします。
〔エクスポート〕	本機の認証情報ファイルをコンピューターへエクスポートします。
〔クリアー〕	本機に登録されている認証情報を削除します。



参考

エクスポートしたファイルは編集できません。

〔インポート / エクスポート〕 - 〔アドレス〕

表示するには：管理者モード - 〔システム〕 - 〔インポート / エクスポート〕 - 〔アドレス〕

本機に登録されている宛先情報（短縮宛先、グループ宛先、プログラム宛先）のインポートまたはエクスポートができます。

項目	説明
〔インポート〕	コンピューター上の宛先情報ファイルを本機へインポートします。 〔参照〕をクリックしてインポートするファイルを指定し、〔インポート〕をクリックします。
〔エクスポート〕	本機の宛先情報ファイルをコンピューターへエクスポートします。
〔クリアー〕	本機に登録されている宛先情報を削除します。



参考

エクスポートしたファイルは編集できません。

〔日付 / 時刻設定〕 - 〔マニュアル設定〕

表示するには：管理者モード - 〔システム〕 - 〔日付 / 時刻設定〕 - 〔マニュアル設定〕

本機の日時を、手動で設定します。

項目	説明
〔年〕	年を入力します。
〔月〕	月を入力します。
〔日〕	日を入力します。
〔時〕	時を入力します。
〔分〕	分を入力します。
〔タイムゾーン〕	お使いの環境に合わせて、タイムゾーン（世界標準時からの時差）を選びます。 初期値は〔GMT〕です。

〔日付 / 時刻設定〕 - 〔時間補正設定〕

表示するには：管理者モード - 〔システム〕 - 〔日付 / 時刻設定〕 - 〔時間補正設定〕

NTP（Network Time Protocol）サーバーを利用すると、本機の日時を自動的に調整できます。

利用する NTP サーバーを登録します。また、定期的に NTP サーバーに接続して日時調整を行う場合は、日時調整を行う間隔を指定します。

項目	説明
〔時間補正〕	NTP サーバーを利用して、本機の日時を自動調整するときは、〔有効〕を選びます。 初期値は〔無効〕です。
〔NTP サーバーアドレス〕	NTP サーバーのアドレスを入力します。 次のいずれかのフォーマットで入力します。 <ul style="list-style-type: none">・ ホスト名の入力例：「host.example.com」・ IP アドレス（IPv4）の入力例：「192.168.1.1」・ IP アドレス（IPv6）の入力例：「fe80::220:6bff:fe10:2f16」
〔ポート番号〕	必要に応じて、NTP サーバーのポート番号を変更します。 通常はそのままお使いいただけます。 初期値は〔123〕です。
〔タイムゾーン〕	お使いの環境に合わせて、タイムゾーン（世界標準時からの時差）を選びます。 初期値は〔GMT〕です。
〔補正時間〕	最後に NTP サーバーに接続して時間補正を行った日時を表示します。



参考

タイムゾーンを設定した場合、サーバーから取得した標準時刻にタイムゾーンを加味した時刻を補正時刻として設定します。

〔日付 / 時刻設定〕 - 〔夏時間設定〕

表示するには：管理者モード - 〔システム〕 - 〔日付 / 時刻設定〕 - 〔夏時間設定〕

現在の時刻に対して、サマータイムを設定します。

項目	説明
〔夏時間〕	サマータイムを使うときは、〔有効〕を選びます。 あわせて、サマータイムで調整する時間を入力します（分単位）。 初期値は〔無効〕です。

〔マシン設定〕

表示するには：管理者モード - 〔システム〕 - 〔マシン設定〕 - 〔マシン設定〕

本機の名前、設置場所、本機の管理者の情報など、本機の装置情報を登録します。

項目	説明
〔デバイス名〕	本機の名前を入力します（127 バイト以内）。 ここで設定した名前が、インターネットファクスの件名の一部として使われます。
〔デバイスの設置場所〕	本機の設置場所を入力します（127 バイト以内）。
〔デバイス情報〕	本機の情報を入力します（127 バイト以内）。
〔管理者名〕	本機の管理者の名前を入力します（127 バイト以内）。
〔管理者の E-mail アドレス〕	本機の管理者のメールアドレスを入力します（ASCII 文字 320 バイト以内）。
〔スタートページの印刷〕	本機の電源を入れたときにスタートページを印刷するかどうかを選びます。 初期値は〔オフ〕です。
〔計測単位〕	通常使用する単位系を選びます。 初期値は〔mm〕です。
〔スリープ移行時間〕	本機を操作しなくなってから、スリープモードに自動的に移行するまでの時間を変更します。 初期値は〔1〕分です。
〔低電力移行時間〕	本機を操作しなくなしてから、低電力モードに自動的に移行するまでの時間を変更します。 初期値は〔1〕分です。
〔パワーセーブ移行〕	パワーセーブモード中に、本機がファクスやコンピューターからの印刷ジョブを受信したとき、印刷後にパワーセーブモードに切替えるタイミングを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・〔通常〕：〔低電力移行時間〕または〔スリープ移行時間〕の設定時間で切替えます。 ・〔即時〕：印刷後にすぐにパワーセーブモードに切替えます。 初期値は〔即時〕です。
〔スリープ中の消費電力〕	スリープモード中の消費電力を抑制するかどうかを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・〔有効〕：スリープモード中の消費電力をさらに抑制します。通常は〔有効〕を選びます。 ・〔無効〕：〔有効〕に設定していて、ネットワーク接続時の応答が悪いなどのトラブルがあった場合に選びます。 初期値は〔有効〕です。
〔電源キー設定〕	操作パネルの電源キーを、副電源 OFF キーとして使うか、パワーセーブキーとして使うかを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・〔パワーセーブ〕：電源キーを短く押すと、パワーセーブモード（低電力またはスリープ）に移行します。長く押すと、副電源 OFF 状態に移行します。 ・〔副電源 OFF〕：電源キーを短く押すと、副電源 OFF 状態に移行します。長く押すと、副電源 OFF 状態よりも節電効果の高い ErP オートパワー OFF 状態（主電源を OFF にしたときに近い状態）に移行します。 初期値は〔パワーセーブ〕です。
〔パワーセーブ設定〕	操作パネルの電源キーを押したときに切替えるパワーセーブモードの種類を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・〔低電力〕：低電力モードに切替えます。タッチパネルの表示を消して、消費電力を抑えます。 ・〔スリープ〕：スリープモードに切替えます。低電力モードよりも高い節電効果を得られますが、通常モードへ復帰するまでの時間は、低電力モードから復帰するよりも長くなります。 初期値は〔低電力〕です。
〔個人情報非表示〕	〔ジョブ〕タブ内のドキュメント名を非表示にするかどうかを選びます。 初期値は〔オフ〕です。
〔PDF/A〕	PDF 形式でファイルを保存するとき、PDF/A を有効にするかどうかを選びます。 初期値は〔オフ〕です。

〔ROM バージョン〕

表示するには：管理者モード - 〔システム〕 - 〔ROM バージョン〕 - 〔ROM バージョン〕

本機の ROM バージョンを確認できます。

〔メンテナンス〕 - 〔設定の初期化〕

表示するには：管理者モード - 〔システム〕 - 〔メンテナンス〕 - 〔設定の初期化〕

ネットワーク設定、システム設定を初期化します。

項目	説明
〔システム設定〕	システム設定を初期化します。 実行すると、自動的に本機が再起動します。
〔ネットワーク設定〕	ネットワーク設定を初期化します。 実行すると、自動的に本機が再起動します。
〔全ての設定〕	全設定を初期化します。 実行すると、自動的に本機が再起動します。

〔メンテナンス〕 - 〔リセット〕

表示するには：管理者モード - 〔システム〕 - 〔メンテナンス〕 - 〔リセット〕

コントローラーをリセットします。

〔通知設定〕 - 〔状態通知設定〕

表示するには：管理者モード - 〔システム〕 - 〔通知設定〕 - 〔状態通知設定〕

用紙の補給やトナー交換時期、紙づまりなど、本機で警告が発生したときに、登録したアドレスに通知できます。

項目	説明
〔IP アドレス〕	本機の状態を SNMP の TRAP 機能で通知する場合に、通知先の IP アドレスを指定します。 SNMP の TRAP 機能の設定について詳しくは、1-63 ページをごらんください。
〔通知アドレス〕	IP アドレス (IPv4)、IP アドレス (IPv6)、ホスト名のいずれかを入力します。
〔ポート番号〕	必要に応じて、ポート番号を変更します。 初期値は〔162〕です。
〔コミュニティ名〕	コミュニティ名を入力します。 初期値は〔public〕です。
〔電子メールアドレス〕	本機の状態を E-mail で通知する場合に、通知先のメールアドレスを指定します。 E-mail 環境の設定について詳しくは、2-2 ページをごらんください。
〔通知アドレス〕	通知先のメールアドレスを入力します (ASCII 文字 320 バイト以内)。
〔警告〕	自動通知する項目を選びます。
〔用紙なし〕	トレイの用紙がなくなったときに通知するかどうかを選びます。 初期値は〔有効〕です。
〔紙詰まり〕	紙づまりが発生したときに通知するかどうかを選びます。 初期値は〔有効〕です。
〔メンテナンス〕	定期点検が必要になったときに通知するかどうかを選びます。 初期値は〔有効〕です。
〔トナーなし〕	トナーがなくなったときに通知するかどうかを選びます。 初期値は〔有効〕です。
〔排紙トレイフル〕	排紙トレイが積載オーバーになったときに通知するかどうかを選びます。 初期値は〔有効〕です。
〔定着ユニット終了〕	定着ユニットの交換が必要なときに通知するかどうかを選びます。 初期値は〔有効〕です。
〔オペレーターコール〕	エラーが発生したときに通知するかどうかを選びます。 初期値は〔有効〕です。
〔サービスコール〕	サービスコールが発生したときに通知するかどうかを選びます。 初期値は〔有効〕です。
〔ジョブ完了〕	ジョブが終了したときに通知するかどうかを選びます。 初期値は〔有効〕です。
〔ジョブエラー〕	ジョブが異常終了したときに通知するかどうかを選びます。 初期値は〔有効〕です。

〔通知設定〕 - 〔トータルカウンター通知設定〕

表示するには：管理者モード - 〔システム〕 - 〔通知設定〕 - 〔トータルカウンター通知設定〕

本機で管理しているカウンター情報を、登録したメールアドレスに、定期的に通知できます。本機の使用状況の把握に役立ちます。

項目	説明
〔モデル名〕	通知メールに記載するモデル名を入力します（ASCII 文字 20 バイト以内）。
〔スケジュール設定〕	通知するスケジュールを、日、週、月のいずれかで設定します。 スケジュールは、2 件まで登録して、使い分けることができます。
〔通知先登録〕	通知先のメールアドレスを入力します。 それぞれの通知先に対して、通知するスケジュールを選びます。



参考

設定完了後、〔送信実行〕をクリックすると、登録したメールアドレスにテスト通知を行えます。

〔ジョブログ〕 - 〔ジョブログ設定〕

表示するには：管理者モード - 〔システム〕 - 〔ジョブログ〕 - 〔ジョブログ設定〕

ジョブログの取得に関する設定をします。

項目	説明
〔ジョブログ〕	ジョブログを取得するかどうかを選びます。 初期値は〔無効〕です。
〔課金ログ〕	課金ログを取得するかどうかを選びます。ユーザーや部門ごとに、用紙の使用量に関する情報を取得できます。 初期値は〔有効〕です。
〔集計ログ〕	集計ログを取得するかどうかを選びます。用紙の使用量や、用紙をどれだけ削減して印刷しているかなどの情報を取得できます。 初期値は〔有効〕です。
〔監査ログ〕	監査ログを取得するかどうかを選びます。ユーザーの操作やジョブ履歴を取得できます。不正行為や情報の漏洩を、後から追跡できます。 初期値は〔有効〕です。
〔上書き設定〕	ハードディスクの使用領域がいっぱいになり、新しいジョブログが保存できないとき、古いジョブログへの上書きを許可するかどうかを選びます。 初期値は〔上書きしない〕です。

〔ジョブログ〕 - 〔ジョブログの作成〕

表示するには：管理者モード - 〔システム〕 - 〔ジョブログ〕 - 〔ジョブログの作成〕

装置内のログ情報からジョブログファイルを作成します。



参考

ジョブログファイルの作成後、一度もダウンロードされていないジョブログファイルが存在する場合は、現在のジョブログファイルを削除し、新しくジョブログファイルの作成を行うかどうかの確認画面が表示されます。

〔ジョブログ〕 - 〔ジョブログのダウンロード〕

表示するには：管理者モード - 〔システム〕 - 〔ジョブログ〕 - 〔ジョブログのダウンロード〕

〔ジョブログの作成〕で作成したジョブログファイルをダウンロードします。

〔ジョブログ〕 - 〔ジョブログの消去〕

表示するには：管理者モード - 〔システム〕 - 〔ジョブログ〕 - 〔ジョブログの消去〕

装置内のログ情報を消去します。

〔発信元登録〕

表示するには：管理者モード - [システム] - [発信元登録] - [発信元登録]

ファクスを送信するときに、発信元情報として印字する本機の名前や会社名（発信元名）を入力します（30 バイト以内）。

〔ライセンス管理設定〕 - 〔機能有効化〕

表示するには：管理者モード - [システム] - [ライセンス管理設定] - [機能有効化]

ライセンス管理サーバーから取得した機能コードとライセンスコードを本機に登録して、拡張機能を有効化します。

1.5.2 〔セキュリティ〕 タブ

〔認証〕 - 〔一般設定〕

表示するには：管理者モード - [セキュリティ] - [認証] - [一般設定]

ユーザー認証、部門認証に関する設定をします。

項目	説明
〔ユーザー認証〕	ユーザー認証を行うかどうかを選びます。 ・ [デバイス]：本機の認証機能を利用する場合に選びます。 ・ [外部サーバー]：外部の認証サーバーを利用する場合に選びます。 初期値は [オフ] です。
〔パブリック許可〕	パブリックユーザー（登録されていないユーザー）の使用を許可するかどうかを選びます。 ・ [許可]：本機の認証機能を利用する場合に選びます。パブリックユーザーが本機を使うには、ログイン画面で [パブリックユーザー] を押し、本機にログインします。 ・ [許可する（ログインなし）]：パブリックユーザーは、本機へログインすることなく、本機を使えます。パブリックユーザーが多数存在する環境でお使いの場合は、ログイン操作が不要となるため便利です。 ・ [制限]：パブリックユーザーの使用を許可しません。 初期値は [許可] です。
〔チケット保持期間（Active Directory）〕	Active Directory で認証を行う場合に、Kerberos 認証チケットを保持する時間を変更します。 初期値は [600] 分です。
〔部門認証〕	部門認証を行うかどうかを選びます。 初期値は [オフ] です。
〔部門認証方法〕	部門認証の方法を選びます。部門管理だけを行う場合に設定します。 初期値は [アカウント名とパスワード] です。
〔ユーザー認証 / 部門認証連動〕	ユーザー認証と部門管理を組合わせて利用する場合は、ユーザー認証と部門管理を連動するかどうかを選びます。 初期値は [連動する] です。
〔ユーザーカウンター割当て数〕	ユーザー認証と部門管理を組合わせて利用する場合は、ユーザーに割当てるカウンターの数を入力します。 初期値は [500] です。
〔認証なしプリント〕	認証情報のない印刷ジョブ（プリンタードライバーで、ユーザー認証や部門管理を正しく設定しないまま印刷指示したジョブ）を許可するかどうかを選びます。 ・ [許可]：受信したジョブをそのまま印刷します。 ・ [制限]：受信したジョブを削除します。 初期値は [制限] です。
〔カウンタ〕	[リセット] をクリックすると、全ユーザー／全部門のカウンターをリセットします。

**参照**

ユーザー認証（本体装置認証）の設定方法について詳しくは、2-34 ページをごらんください。

ユーザー認証（Active Directory）の設定方法について詳しくは、2-36 ページをごらんください。

部門認証の設定方法について詳しくは、2-37 ページをごらんください。

〔認証〕 - 〔ユーザーリスト〕

表示するには：管理者モード - 〔セキュリティ〕 - 〔認証〕 - 〔ユーザーリスト〕

（このメニューは、管理者モード - 〔セキュリティ〕 - 〔認証〕 - 〔一般設定〕 - 〔ユーザー認証〕で〔デバイス〕または〔外部サーバー〕を選んだ場合に表示されます。）

本機に登録されているユーザーの一覧を表示します。ユーザーの登録や編集、削除ができます。

ユーザーを登録、編集する場合は、次の情報を設定します。

項目	説明
〔番号〕	ユーザーの登録番号です。空いている小さい数字から自動的に登録されます。
〔ユーザー認証名〕	本機にログインするときのユーザーの名前を入力します（半角 64 文字／全角 32 文字以内）。 名前は重複して設定することはできません。また、〔Public〕を設定することはできません。
〔外部サーバー名〕	外部サーバー認証を導入している場合に、認証を行うサーバーの名前を表示します。
〔E-mail アドレス〕	ユーザーのメールアドレスを入力します（ASCII 文字 320 バイト以内）。
〔パスワード〕	本機にログインするときのパスワードを入力します（スペースと"を除く 64 バイト以内）。 パスワードを入力（変更）する場合は、〔パスワードの変更〕にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
〔部門番号〕	ユーザー認証と部門管理を連動させる場合は、ユーザーの所属部門を部門の登録番号で指定します。
〔機能許可〕	ユーザーが使える機能を制限します。 <ul style="list-style-type: none"> ・〔コピー〕：コピー機能の使用を許可するかどうかを選びます。初期値は〔許可〕です。 ・〔ネットワーク送信〕：ネットワーク送信機能の使用を許可するかどうかを選びます。初期値は〔許可〕です。 ・〔HDD 送信〕：本機の HDD への保存を許可するかどうかを選びます。初期値は〔許可〕です。 ・〔USB メモリー送信〕：USB メモリーへの保存を許可するかどうかを選びます。初期値は〔許可〕です。 ・〔Fax〕：ファクス、インターネットファクス機能の使用を許可するかどうかを選びます。初期値は〔許可〕です。 ・〔プリント〕：プリント動作を許可するかどうかを選びます。初期値は〔許可〕です。 ・〔手動宛先入力〕：宛先の直接入力を許可するかどうかを選びます。初期値は〔許可〕です。 ・〔Web ブラウザー〕：Web ブラウザーの使用を許可するかどうかを選びます。初期値は〔許可〕です。
〔出力許可（プリント）〕	カラー印刷とモノクロ印刷をそれぞれ許可するかどうかを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・〔カラー〕：カラー印刷を許可するかどうかを選びます。〔エコノミープリントのみ〕を選ぶと、〔トナー節約〕を設定した印刷だけを許可します。初期値は〔許可〕です。 ・〔ブラック〕：モノクロ印刷を許可するかどうかを選びます。初期値は〔許可〕です。
〔出力許可（スキャン）〕	カラースキャンを許可するかどうかを選びます。 初期値は〔許可〕です。
〔上限設定〕	印刷できる枚数の上限を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・〔合計〕：カラー印刷とモノクロ印刷の合計で上限を管理するときは、チェックをつけてから、上限値を入力します。 ・〔カラー〕：カラー印刷の上限を管理するときは、チェックをつけてから、上限値を入力します。 ・〔ブラック〕：モノクロ印刷の上限を管理するときは、チェックをつけてから、上限値を入力します。
〔カウンタ〕	〔リセット〕をクリックすると、ユーザーのカウンターをリセットします。
〔認証装置設定〕	認証装置に関する情報が登録されているかどうかを表示します。
〔宛先制限〕	必要に応じて、ユーザーが参照できる宛先を制限します。 詳しくは、2-41 ページをごらんください。

〔認証〕 - 〔部門リスト〕

表示するには：管理者モード - 〔セキュリティ〕 - 〔認証〕 - 〔部門リスト〕

（このメニューは、管理者モード - 〔セキュリティ〕 - 〔認証〕 - 〔一般設定〕 - 〔部門認証〕 で〔オン〕を選んだ場合に表示されます。）

本機に登録されている部門の一覧を表示します。部門の登録や編集、削除ができます。

部門を登録、編集する場合は、次の情報を設定します。

項目	説明
〔番号〕	部門の登録番号です。空いている小さい数字から自動的に登録されます。
〔アカウント名〕	本機にログインするときの部門の名前を入力します（スペースと"を除くASCII文字8バイト以内）。 名前は重複して設定することはできません。
〔パスワード〕	本機にログインするときのパスワードを入力します（スペースと"を除くASCII文字8バイト以内）。 パスワードを入力（変更）する場合は、〔パスワードの変更〕にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
〔出力許可（プリント）〕	カラー印刷とモノクロ印刷をそれぞれ許可するかどうかを選びます。 <ul style="list-style-type: none">・〔カラー〕：カラー印刷を許可するかどうかを選びます。〔エコノミープリントのみ〕を選ぶと、〔トナー節約〕を設定した印刷だけを許可します。初期値は〔許可〕です。・〔ブラック〕：モノクロ印刷を許可するかどうかを選びます。初期値は〔許可〕です。
〔出力許可（スキャン）〕	カラースキャンを許可するかどうかを選びます。 初期値は〔許可〕です。
〔上限設定〕	印刷できる枚数の上限を設定します。 <ul style="list-style-type: none">・〔合計〕：カラー印刷とモノクロ印刷の合計で上限を管理するときは、チェックをつけてから、上限値を入力します。・〔カラー〕：カラー印刷の上限を管理するときは、チェックをつけてから、上限値を入力します。・〔ブラック〕：モノクロ印刷の上限を管理するときは、チェックをつけてから、上限値を入力します。
〔カウンタ〕	〔リセット〕をクリックすると、部門のカウンターをリセットします。

〔認証〕 - 〔外部サーバーリスト〕

表示するには：管理者モード - 〔セキュリティ〕 - 〔認証〕 - 〔外部サーバーリスト〕

（このメニューは、管理者モード - 〔セキュリティ〕 - 〔認証〕 - 〔一般設定〕 - 〔ユーザー認証〕で〔外部サーバー〕を選んだ場合に表示されます。）

本機に登録されている外部の認証サーバーの一覧を表示します。認証サーバーの登録や編集、削除ができます。

外部の認証サーバーを登録する場合は、認証サーバーの種類に応じて、次の情報を設定します。

〔Active Directory〕を選んだ場合

項目	説明
〔番号〕	認証サーバーの登録番号です。
〔名称〕	お使いの認証サーバーの名前を入力します（ASCII 文字 32 バイト以内）。
〔サーバー種別〕	認証サーバーの種類を表示します。
〔デフォルトドメイン名〕	お使いの認証サーバーのデフォルトドメイン名を入力します（ASCII 文字 64 バイト以内）。

〔NTLM〕を選んだ場合

項目	説明
〔番号〕	認証サーバーの登録番号です。
〔名称〕	お使いの認証サーバーの名前を入力します（ASCII 文字 32 バイト以内）。
〔サーバー種別〕	認証サーバーの種類を〔NTLMv1〕または〔NTLMv2〕から選びます。初期値は〔NTLMv1〕です。
〔デフォルトドメイン名〕	お使いの認証サーバーのデフォルトドメイン名を入力します（ASCII 文字 64 バイト以内）。

〔NDS〕を選んだ場合

項目	説明
〔番号〕	認証サーバーの登録番号です。
〔名称〕	お使いの認証サーバーの名前を入力します（ASCII 文字 32 バイト以内）。
〔サーバー種別〕	認証サーバーの種類を選びます。〔NDS over TCP/IP〕のみ対応しています。
〔デフォルトツリー〕	デフォルト NDS ツリーの名前を入力します（ASCII 文字 63 バイト以内）。
〔デフォルトコンテキスト〕	デフォルト NDS コンテキストの名前を入力します（ASCII 文字 191 バイト以内）。

[LDAP] を選んだ場合

項目	説明
[番号]	認証サーバーの登録番号です。
[名称]	お使いの認証サーバーの名前を入力します（ASCII 文字 32 バイト以内）。
[サーバー種別]	認証サーバーの種類を表示します。
[サーバーアドレス]	お使いの LDAP サーバーのアドレスを入力します。 次のいずれかのフォーマットで入力します。 ・ ホスト名の入力例：「host.example.com」 ・ IP アドレス（IPv4）の入力例：「192.168.1.1」 ・ IP アドレス（IPv6）の入力例：「fe80::220:6bff:fe10:2f16」
[ポート番号]	必要に応じて、LDAP サーバーのポート番号を変更します。 初期値は [389] です。
[SSL]	SSL で通信するかどうかを選びます。 初期値は [無効] です。
[ポート番号 (SSL)]	必要に応じて、SSL 通信用のポート番号を変更します。 初期値は [636] です。
[サーチベース]	ユーザーを検索するときの、検索の起点を指定します（ASCII 文字 255 バイト以内）。 入力した起点から下のツリー構造も含めて検索します。 入力例：「cn=users,dc=example,dc=com」
[タイムアウト]	必要に応じて、LDAP サーバーとの通信のタイムアウト時間を変更します。 初期値は [60] 秒です。
[認証方法]	LDAP サーバーへログインするときの、認証方式を選びます。 お使いの LDAP サーバーで採用している認証方式に合わせて選びます。 初期値は [Digest-MD5] です。
[検索属性]	ユーザーアカウントの検索で使う、検索属性を入力します。 初期値は [uid] です。

[認証] - [認証情報の一時保存]

表示するには：管理者モード - [セキュリティ] - [認証] - [認証情報の一時保存]

外部の認証サーバーがダウンした場合に備えて、認証情報を本体に一時保存する場合は、[有効] を選びます。初期値は [有効] です。

必要に応じて、[再接続設定] で、認証サーバーへの再接続を行う時間を変更します。

- [ログイン毎に再接続]：本機での認証時に認証サーバーへ接続します。本機での認証時に認証サーバーがダウンしている場合は、認証サーバーがダウンしていることを確認してから、本体に一時保存した認証情報を使ってログインします。
- [再接続間隔を設定]：[再接続間隔] で設定した時間に従って、認証サーバーへ接続し、認証サーバーの状況を確認します。認証サーバーがダウンしている場合は、本体に一時保存した認証情報を使ってログインします。

[認証] - [Home 宛先有効設定]

表示するには：管理者モード - [セキュリティ] - [認証] - [Home 宛先有効設定]

Scan to Home 機能を有効にするかどうかを選びます。

初期値は [無効] です。

〔認証〕 - 〔デフォルト機能制限〕

表示するには：管理者モード - 〔セキュリティ〕 - 〔認証〕 - 〔デフォルト機能制限〕

（このメニューは、管理者モード - 〔セキュリティ〕 - 〔認証〕 - 〔一般設定〕 - 〔ユーザー認証〕で〔外部サーバー〕を選んだ場合に表示されます。）

外部の認証サーバーを利用するときの、ユーザーの機能制限の初期値を設定します。

はじめて本機にログインしたユーザーは、ここで設定した内容に従って、使える機能が制限されます。

項目	説明
〔コピー〕	コピー機能の使用を許可するかどうかを選びます。 初期値は〔許可〕です。
〔ネットワーク送信〕	ネットワーク送信機能の使用を許可するかどうかを選びます。 初期値は〔許可〕です。
〔HDD 送信〕	本機のHDDへの保存を許可するかどうかを選びます。 初期値は〔許可〕です。
〔USB メモリー送信〕	USB メモリーへの保存を許可するかどうかを選びます。 初期値は〔許可〕です。
〔Fax〕	ファクス、インターネットファクス機能の使用を許可するかどうかを選びます。 初期値は〔許可〕です。
〔プリント〕	プリント動作を許可するかどうかを選びます。 初期値は〔許可〕です。
〔手動宛先入力〕	宛先の直接入力を許可するかどうかを選びます。 初期値は〔許可〕です。
〔Web ブラウザー〕	Web ブラウザーの使用を許可するかどうかを選びます。 初期値は〔許可〕です。

〔認証〕 - 〔パブリックユーザーの登録〕

表示するには：管理者モード - 〔セキュリティ〕 - 〔認証〕 - 〔パブリックユーザーの登録〕

（このメニューは、管理者モード - 〔セキュリティ〕 - 〔認証〕 - 〔一般設定〕 - 〔パブリック許可〕で、パブリックユーザーを許可した場合に表示されます。）

パブリックユーザーが使える機能を制限します。

項目	説明
〔機能許可〕	ユーザーが使える機能を制限します。 <ul style="list-style-type: none"> ・〔コピー〕：コピー機能の使用を許可するかどうかを選びます。初期値は〔許可〕です。 ・〔ネットワーク送信〕：ネットワーク送信機能の使用を許可するかどうかを選びます。初期値は〔許可〕です。 ・〔HDD 送信〕：本機のHDDへの保存を許可するかどうかを選びます。初期値は〔許可〕です。 ・〔USB メモリー送信〕：USB メモリーへの保存を許可するかどうかを選びます。初期値は〔許可〕です。 ・〔Fax〕：ファクス、インターネットファクス機能の使用を許可するかどうかを選びます。初期値は〔許可〕です。 ・〔プリント〕：プリント動作を許可するかどうかを選びます。初期値は〔許可〕です。 ・〔手動宛先入力〕：宛先の直接入力を許可するかどうかを選びます。初期値は〔許可〕です。 ・〔Web ブラウザー〕：Web ブラウザーの使用を許可するかどうかを選びます。初期値は〔許可〕です。
〔出力許可（プリント）〕	カラー印刷とモノクロ印刷をそれぞれ許可するかどうかを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・〔カラー〕：カラー印刷を許可するかどうかを選びます。〔エコノミープリントのみ〕を選ぶと、〔トナー節約〕を設定した印刷だけを許可します。初期値は〔許可〕です。 ・〔ブラック〕：モノクロ印刷を許可するかどうかを選びます。初期値は〔許可〕です。
〔出力許可（スキャン）〕	カラースキャンを許可するかどうかを選びます。 初期値は〔許可〕です。

項目	説明
[宛先制限]	必要に応じて、ユーザーが参照できる宛先を制限します。 詳しくは、2-41 ページをごらんください。

[認証&プリント設定]

表示するには：管理者モード - [セキュリティ] - [認証&プリント設定] - [認証&プリント設定]

(このメニューは、管理者モード - [セキュリティ] - [認証] - [一般設定] - [ユーザー認証] で [デバイス] または [外部サーバー] を選んだ場合に表示されます。)

認証 & プリント機能の動作を設定します。

項目	説明
[認証&プリント]	プリンタードライバーから通常印刷したジョブを、認証&プリントジョブとして扱うかどうかを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [有効]：通常印刷したジョブを、認証&プリントジョブとして扱います。 ・ [無効]：認証&プリントが設定されたジョブだけを認証&プリントジョブとして扱います。 初期値は [無効] です。
[パブリックユーザー]	パブリックユーザーのジョブを受信したときの処理方法を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [即時印刷]：HDD に保存せずに、そのまま印刷します。 ・ [保存]：HDD に保存します。 初期値は [保存] です。
[基本動作選択]	ログイン画面で認証したあとの動作の初期値を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [印刷開始]：認証&プリントジョブがある場合は、本機へログインせずに認証&プリントジョブを印刷します。また、認証&プリントジョブがない場合は、本機へログインします。 ・ [初期画面を表示]：本機へログインします。認証 & プリントジョブは印刷しません。 初期値は [印刷開始] です。

[認証デバイス設定] - [一般設定]

表示するには：管理者モード - [セキュリティ] - [認証デバイス設定] - [一般設定]

(このメニューは、オプションの認証装置 AU-201 を装着している場合に表示されます。)

IC カード認証に関する設定をします。

項目	説明
[認証タイプ]	本機へのログインのしかたを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [カード認証]：IC カードを置くだけでログインします。 ・ [カード認証 + パスワード]：IC カードを置き、パスワードを入力することでログインします。 初期値は [なし] です。



参考

このメニューを変更した場合は、本機に保存されているカード情報は消去されます。

〔PKI 設定〕 - 〔デバイス証明書〕

表示するには：管理者モード - 〔セキュリティ〕 - 〔PKI 設定〕 - 〔デバイス証明書〕

本機の証明書を新しく自己作成したり、CA 局（認証局）から発行された証明書をインストールしたりします。

詳しくは、2-38 ページをごらんください。

〔PKI 設定〕 - 〔SSL/TLS 設定〕

表示するには：管理者モード - 〔セキュリティ〕 - 〔PKI 設定〕 - 〔SSL/TLS 設定〕

SSL 通信を有効にするかどうかを選びます。また、SSL の暗号化強度を選びます。

項目	説明
〔SSL/TLS〕	SSL 通信を有効にするかどうかを選びます。 初期値は〔無効〕です。
〔暗号化の強度〕	SSL の暗号強度を選びます。お使いの環境に合わせて選んでください。 初期値は〔AES-256, 3DES, RC4-128〕です。
〔SSL/TLS Version〕	使用する SSL のバージョンを選びます。お使いの環境に合わせて選んでください。

[PKI 設定] - [プロトコル設定]

表示するには：管理者モード - [セキュリティ] - [PKI 設定] - [プロトコル設定]

本機は、複数の証明書を管理し、用途（プロトコル）に応じて使い分けることができます。プロトコルに対して使う証明書を選びます。

[IEEE802.1X] の場合

項目	説明
[プロトコル]	[IEEE802.1X]
[証明書検証設定]	<p>証明書を検証する場合は、証明書の検証を行う項目を選びます。それぞれの項目で [有効] を選ぶと、その項目について、証明書の確認を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [有効期間]：証明書が有効期限内かどうかを確認します。初期値は [有効] です。 ・ [CN]：証明書の CN（Common Name）が、サーバーのアドレスと一致しているかどうかを確認します。初期値は [無効] です。 ・ [チェーン]：証明書のチェーン（証明書のパス）に問題がないかどうかを確認します。チェーンの確認は、本機で管理している外部証明書を参照して行います。初期値は [無効] です。
[デバイス証明書]	使用する証明書を選びます。

[S/MIME] の場合

項目	説明
[プロトコル]	[S/MIME]
[証明書検証設定]	<p>証明書を検証する場合は、証明書の検証を行う項目を選びます。それぞれの項目で [有効] を選ぶと、その項目について、証明書の確認を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [有効期間]：証明書が有効期限内かどうかを確認します。初期値は [有効] です。 ・ [チェーン]：証明書のチェーン（証明書のパス）に問題がないかどうかを確認します。チェーンの確認は、本機で管理している外部証明書を参照して行います。初期値は [無効] です。 ・ [鍵使用方法]：証明書の発行者が承認した使用用途に沿って、証明書が使われているかどうかを確認します。初期値は [無効] です。 ・ [CRL 期限確認]：証明書が失効していないかどうかを CRL（Certificate Revocation List）で確認します。初期値は [無効] です。 ・ [OCSP 期限確認]：証明書が失効していないかどうかを OCSP（Online Certificate Status Protocol）サービスで確認します。初期値は [無効] です。
[デバイス証明書]	使用する証明書を選びます。

[HTTP サーバー] の場合

項目	説明
[プロトコル]	[HTTP サーバー]
[デバイス証明書]	使用する証明書を選びます。

[E-mail 送信 (SMTP)] の場合

項目	説明
[プロトコル]	[E-mail 送信 (SMTP)]
[証明書検証設定]	<p>証明書を検証する場合は、証明書の検証を行う項目を選びます。それぞれの項目で [有効] を選ぶと、その項目について、証明書の確認を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [有効期間]：証明書が有効期限内かどうかを確認します。初期値は [有効] です。 ・ [CN]：証明書の CN (Common Name) が、サーバーのアドレスと一致しているかどうかを確認します。初期値は [無効] です。 ・ [チェーン]：証明書のチェーン (証明書のパス) に問題がないかどうかを確認します。チェーンの確認は、本機で管理している外部証明書を参照して行います。初期値は [無効] です。 ・ [鍵使用方法]：証明書の発行者が承認した使用用途に沿って、証明書が使われているかどうかを確認します。初期値は [無効] です。 ・ [CRL 期限確認]：証明書が失効していないかどうかを CRL (Certificate Revocation List) で確認します。初期値は [無効] です。 ・ [OCSP 期限確認]：証明書が失効していないかどうかを OCSP (Online Certificate Status Protocol) サービスで確認します。初期値は [無効] です。
[デバイス証明書]	使用する証明書を選びます。

[E-mail 受信 (POP)] の場合

項目	説明
[プロトコル]	[E-mail 受信 (POP)]
[証明書検証設定]	<p>証明書を検証する場合は、証明書の検証を行う項目を選びます。それぞれの項目で [有効] を選ぶと、その項目について、証明書の確認を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [有効期間]：証明書が有効期限内かどうかを確認します。初期値は [有効] です。 ・ [CN]：証明書の CN (Common Name) が、サーバーのアドレスと一致しているかどうかを確認します。初期値は [無効] です。 ・ [チェーン]：証明書のチェーン (証明書のパス) に問題がないかどうかを確認します。チェーンの確認は、本機で管理している外部証明書を参照して行います。初期値は [無効] です。 ・ [鍵使用方法]：証明書の発行者が承認した使用用途に沿って、証明書が使われているかどうかを確認します。初期値は [無効] です。 ・ [CRL 期限確認]：証明書が失効していないかどうかを CRL (Certificate Revocation List) で確認します。初期値は [無効] です。 ・ [OCSP 期限確認]：証明書が失効していないかどうかを OCSP (Online Certificate Status Protocol) サービスで確認します。初期値は [無効] です。
[デバイス証明書]	使用する証明書を選びます。

[TCP Socket] の場合

項目	説明
[プロトコル]	[TCP Socket]
[デバイス証明書]	使用する証明書を選びます。

[LDAP] の場合

項目	説明
[プロトコル]	[LDAP]
[証明書検証設定]	<p>証明書を検証する場合は、証明書の検証を行う項目を選びます。それぞれの項目で [有効] を選ぶと、その項目について、証明書の確認を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [有効期間]：証明書が有効期限内かどうかを確認します。 初期値は [有効] です。 ・ [CN]：証明書の CN (Common Name) が、サーバーのアドレスと一致しているかどうかを確認します。 初期値は [無効] です。 ・ [チェーン]：証明書のチェーン（証明書のパス）に問題がないかどうかを確認します。チェーンの確認は、本機で管理している外部証明書を参照して行います。 初期値は [無効] です。 ・ [鍵使用方法]：証明書の発行者が承認した使用用途に沿って、証明書が使われているかどうかを確認します。 初期値は [無効] です。 ・ [CRL 期限確認]：証明書が失効していないかどうかを CRL (Certificate Revocation List) で確認します。 初期値は [無効] です。 ・ [OCSP 期限確認]：証明書が失効していないかどうかを OCSP (Online Certificate Status Protocol) サービスで確認します。 初期値は [無効] です。
[デバイス証明書]	使用する証明書を選びます。

[WebDAV クライアント設定] の場合

項目	説明
[プロトコル]	[WebDAV クライアント設定]
[証明書検証設定]	<p>証明書を検証する場合は、証明書の検証を行う項目を選びます。それぞれの項目で [有効] を選ぶと、その項目について、証明書の確認を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [有効期間]：証明書が有効期限内かどうかを確認します。 初期値は [有効] です。 ・ [CN]：証明書の CN (Common Name) が、サーバーのアドレスと一致しているかどうかを確認します。 初期値は [無効] です。 ・ [チェーン]：証明書のチェーン（証明書のパス）に問題がないかどうかを確認します。チェーンの確認は、本機で管理している外部証明書を参照して行います。 初期値は [無効] です。 ・ [鍵使用方法]：証明書の発行者が承認した使用用途に沿って、証明書が使われているかどうかを確認します。 初期値は [無効] です。 ・ [CRL 期限確認]：証明書が失効していないかどうかを CRL (Certificate Revocation List) で確認します。 初期値は [無効] です。 ・ [OCSP 期限確認]：証明書が失効していないかどうかを OCSP (Online Certificate Status Protocol) サービスで確認します。 初期値は [無効] です。
[デバイス証明書]	使用する証明書を選びます。

[OpenAPI] の場合

項目	説明
[プロトコル]	[OpenAPI]
[証明書検証設定]	<p>証明書を検証する場合は、証明書の検証を行う項目を選びます。それぞれの項目で [有効] を選ぶと、その項目について、証明書の確認を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [有効期間]：証明書が有効期限内かどうかを確認します。 初期値は [有効] です。 ・ [CN]：証明書の CN (Common Name) が、サーバーのアドレスと一致しているかどうかを確認します。 初期値は [無効] です。 ・ [チェーン]：証明書のチェーン（証明書のパス）に問題がないかどうかを確認します。チェーンの確認は、本機で管理している外部証明書を参照して行います。 初期値は [無効] です。 ・ [鍵使用方法]：証明書の発行者が承認した使用用途に沿って、証明書が使われているかどうかを確認します。 初期値は [無効] です。 ・ [CRL 期限確認]：証明書が失効していないかどうかを CRL (Certificate Revocation List) で確認します。 初期値は [無効] です。 ・ [OCSP 期限確認]：証明書が失効していないかどうかを OCSP (Online Certificate Status Protocol) サービスで確認します。 初期値は [無効] です。 ・ [クライアント証明書]：本機に接続するクライアントに対して、証明書を要求するかどうかを選びます。 初期値は [無効] です。
[デバイス証明書]	使用する証明書を選びます。

[Web サービス] の場合

項目	説明
[プロトコル]	[Web サービス]
[証明書検証設定]	<p>証明書を検証する場合は、証明書の検証を行う項目を選びます。それぞれの項目で [有効] を選ぶと、その項目について、証明書の確認を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [有効期間]：証明書が有効期限内かどうかを確認します。 初期値は [有効] です。 ・ [チェーン]：証明書のチェーン（証明書のパス）に問題がないかどうかを確認します。チェーンの確認は、本機で管理している外部証明書を参照して行います。 初期値は [無効] です。 ・ [鍵使用方法]：証明書の発行者が承認した使用用途に沿って、証明書が使われているかどうかを確認します。 初期値は [無効] です。 ・ [CRL 期限確認]：証明書が失効していないかどうかを CRL (Certificate Revocation List) で確認します。 初期値は [無効] です。 ・ [OCSP 期限確認]：証明書が失効していないかどうかを OCSP (Online Certificate Status Protocol) サービスで確認します。 初期値は [無効] です。 ・ [クライアント証明書]：本機に接続するクライアントに対して、証明書を要求するかどうかを選びます。 初期値は [無効] です。
[デバイス証明書]	使用する証明書を選びます。

[IPsec] の場合

項目	説明
[プロトコル]	[IPsec]
[証明書検証設定]	<p>証明書を検証する場合は、証明書の検証を行う項目を選びます。それぞれの項目で [有効] を選ぶと、その項目について、証明書の確認を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [有効期間]：証明書が有効期限内かどうかを確認します。 初期値は [有効] です。 ・ [チェーン]：証明書のチェーン（証明書のパス）に問題がないかどうかを確認します。チェーンの確認は、本機で管理している外部証明書を参照して行います。 初期値は [無効] です。 ・ [鍵使用方法]：証明書の発行者が承認した使用用途に沿って、証明書が使われているかどうかを確認します。 初期値は [無効] です。 ・ [CRL 期限確認]：証明書が失効していないかどうかを CRL (Certificate Revocation List) で確認します。 初期値は [無効] です。 ・ [OCSP 期限確認]：証明書が失効していないかどうかを OCSP (Online Certificate Status Protocol) サービスで確認します。 初期値は [無効] です。
[デバイス証明書]	使用する証明書を選びます。

[ThinPrint] の場合

項目	説明
[プロトコル]	[ThinPrint]
[証明書検証設定]	<p>証明書を検証する場合は、証明書の検証を行う項目を選びます。それぞれの項目で [有効] を選ぶと、その項目について、証明書の確認を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [有効期間]：証明書が有効期限内かどうかを確認します。 初期値は [有効] です。 ・ [CN]：証明書の CN (Common Name) が、サーバーのアドレスと一致しているかどうかを確認します。 初期値は [無効] です。 ・ [チェーン]：証明書のチェーン（証明書のパス）に問題がないかどうかを確認します。チェーンの確認は、本機で管理している外部証明書を参照して行います。 初期値は [無効] です。 ・ [鍵使用方法]：証明書の発行者が承認した使用用途に沿って、証明書が使われているかどうかを確認します。 初期値は [無効] です。 ・ [CRL 期限確認]：証明書が失効していないかどうかを CRL (Certificate Revocation List) で確認します。 初期値は [無効] です。 ・ [OCSP 期限確認]：証明書が失効していないかどうかを OCSP (Online Certificate Status Protocol) サービスで確認します。 初期値は [無効] です。
[デバイス証明書]	使用する証明書を選びます。



参考

ThinPrint 機能を使うには、オプションの i-Option LK-111 が必要です。

[HTTP クライアント] の場合

項目	説明
[プロトコル]	[HTTP クライアント]
[証明書検証設定]	<p>証明書を検証する場合は、証明書の検証を行う項目を選びます。それぞれの項目で [有効] を選ぶと、その項目について、証明書の確認を行います。</p> <ul style="list-style-type: none">• [有効期間]：証明書が有効期限内かどうかを確認します。 初期値は [有効] です。• [CN]：証明書の CN (Common Name) が、サーバーのアドレスと一致しているかどうかを確認します。 初期値は [無効] です。• [チェーン]：証明書のチェーン（証明書のパス）に問題がないかどうかを確認します。チェーンの確認は、本機で管理している外部証明書を参照して行います。 初期値は [無効] です。• [鍵使用方法]：証明書の発行者が承認した使用用途に沿って、証明書が使われているかどうかを確認します。 初期値は [無効] です。• [CRL 期限確認]：証明書が失効していないかどうかを CRL (Certificate Revocation List) で確認します。 初期値は [無効] です。• [OCSP 期限確認]：証明書が失効していないかどうかを OCSP (Online Certificate Status Protocol) サービスで確認します。 初期値は [無効] です。
[デバイス証明書]	使用する証明書を選びます。

〔PKI 設定〕 - 〔外部証明書〕

表示するには：管理者モード - 〔セキュリティ〕 - 〔PKI 設定〕 - 〔外部証明書〕

本機に登録されている外部証明書の一覧を表示します。

〔新規登録〕をクリックすると、新しい外部証明書を本機に登録できます。

項目	説明
〔証明書種別〕	新しく登録する外部証明書の種類を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 〔信頼されたルート証明局〕：証明書を発行した CA の証明書を登録します。 ・ 〔信頼された中間証明局〕：信頼する CA の中間認証局の証明書を登録します。 ・ 〔信頼された証明書〕：信頼する証明書を個別に登録します。 ・ 〔信頼されていない証明書〕：信頼しない証明書を個別に登録します。
〔ファイル〕	〔参照〕をクリックして、登録する外部証明書の場所を指定します。

〔PKI 設定〕 - 〔証明書検証〕

表示するには：管理者モード - 〔セキュリティ〕 - 〔PKI 設定〕 - 〔証明書検証〕

通信相手の証明書の信頼性（有効期限、CN、鍵使用法など）を検証するための設定ができます。

項目	説明
〔証明書検証設定〕	証明書検証に関する設定をします。
〔証明書検証〕	通信相手の証明書の信頼性を検証するかどうかを選びます。 初期値は〔有効〕です。
〔タイムアウト〕	証明書失効確認のタイムアウト時間を変更します。 初期値は〔30〕秒です。
〔OCSP サービス〕	OCSP サービスを使うかどうかを選びます。 OCSP (Online Certificate Status Protocol) サービスを利用すると、証明書が失効していないかどうかをオンラインで確認できます。 初期値は〔無効〕です。
〔URL〕	OCSP サービスを使う場合は、OCSP サービスの URL を入力します（511 バイト以内）。 〔URL〕が空欄の場合は、証明書に埋込まれた OCSP サービスの URL を使います。
〔プロキシ設定〕	失効確認を行うときに、プロキシサーバーを経由させる場合は、お使いのプロキシサーバーを登録します。
〔プロキシサーバーアドレス〕	お使いのプロキシサーバーのアドレスを入力します。 次のいずれかのフォーマットで入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ホスト名の入力例：「host.example.com」 ・ IP アドレス (IPv4) の入力例：「192.168.1.1」 ・ IP アドレス (IPv6) の入力例：「fe80::220:6bff:fe10:2f16」
〔プロキシサーバーのポート番号〕	必要に応じて、プロキシサーバーのポート番号を変更します。 初期値は〔8080〕です。
〔ユーザー認証名〕	プロキシサーバーへログインするための、ユーザー名を入力します（ASCII 文字 63 バイト以内）。
〔パスワード〕	パスワードを入力します（ASCII 文字 63 バイト以内）。 パスワードを入力（変更）する場合は、〔パスワードの変更〕にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
〔プロキシを使用しないドメイン〕	必要に応じて、プロキシサーバーを使わないアドレスを入力します。 次のいずれかのフォーマットで入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ホスト名の入力例：「host.example.com」 ・ IP アドレス (IPv4) の入力例：「192.168.1.1」 ・ IP アドレス (IPv6) の入力例：「fe80::220:6bff:fe10:2f16」

[IPsec]

IPsec は、暗号化技術を利用して、IP パケット単位でデータの改ざんやデータの漏洩を防止する技術です。

お使いの環境で、IPsec を導入している場合に設定します。

- 1 管理者モードの [セキュリティ] - [IPsec] - [IPsec] で、[IPsec 設定] の [編集] をクリックします。

[IPsec 設定] 画面が表示されます。

- 2 [IPsec 設定] 画面の [IKEv1] または [IKEv2] で [編集] をクリックし、次の設定をします。

項目	説明
[暗号化アルゴリズム]	通信に使う共通鍵の生成で使う、暗号化アルゴリズムを選びます。
[認証アルゴリズム]	通信に使う共通鍵の生成で使う、認証アルゴリズムを選びます。
[暗号鍵有効時間]	通信の暗号化で使う共通鍵を、安全に生成するために、共通鍵の有効時間を設定します。 有効時間が経過すると、新しい鍵が生成されるため、セキュリティを確保できます。 初期値は [28800] 秒です。
[Diffie-Hellman グループ]	Diffie-Hellman グループを選びます。 初期値は [グループ 2] です。
[ネゴシエーションモード]	通信の暗号化で使う共通鍵を、安全に生成する方法を選びます。 [IPsec 設定] 画面で [IKEv1] を選択した場合に設定します。 初期値は [メインモード] です。

- 3 [IPsec 設定] 画面の [SA] で [編集] をクリックし、SA (Security Association) を登録します。

→ [SA] は 10 グループまで登録できます。

項目	説明
[名称]	SA 設定の名前を入力します (全角/半角 10 文字以内)。
[カプセル化モード]	IPsec の動作モードを選びます。 初期値は [トランスポートモード] です。
[セキュリティプロトコル]	セキュリティプロトコルを選びます。 初期値は [AH] です。
[鍵交換方式]	通信の暗号化に使う共通鍵を安全に生成するときの、鍵交換方式を選びます。 初期値は [IKEv1] です。
[トンネルエンドポイント]	通信相手先 IPsec ゲートウェイの IP アドレスを入力します。 [カプセル化モード] で [トンネル] を選んだ場合に入力します。
[IKE 設定]	この SA で使う、IKE の設定をします。 [鍵交換方式] で [IKEv1] または [IKEv2] を選んだ場合に設定します。

項目	説明
[認証方法]	認証方式を選びます。 初期値は「プレ共有キー」です。
[Replay Detection]	リプレイ攻撃からの防御を行うかどうかを選びます。 初期値は「無効」です。
[ESN]	[Replay Detection] で「有効」を選んだ場合は、IPsec 通信時に拡張シーケンス番号を適用するかどうかを選びます。 初期値は「無効」です。
[ESP 暗号化アルゴリズム]	[セキュリティプロトコル] で [ESP] を選んだ場合は、ESP 暗号化アルゴリズムを設定します。
[ESP 認証アルゴリズム]	[セキュリティプロトコル] で [ESP] を選んだ場合は、ESP 認証アルゴリズムを設定します。
[AH 認証アルゴリズム]	[セキュリティプロトコル] で [AH] を選んだ場合は、AH 認証アルゴリズムを設定します。
[パーフェクトフォワードセキュリティ]	IKE の強度を上げたい場合にチェックをつけます。 チェックをつけると、通信にかかる時間が長くなります。 [IPsec 設定] 画面で [IKEv2] を選択した場合に設定します。
[Diffie-Hellman グループ]	Diffie-Hellman グループを選びます。 初期値は「グループ 2」です。
[確立後の破棄時間]	通信の暗号化に使う共通鍵の有効時間を入力します。 初期値は「3600」秒です。
[マニュアルキー設定]	IKE による自動鍵交換に対応していない機器を使う場合に、それぞれのパラメーターを、手動で設定します。 [鍵交換方式] で [マニュアルキー] を選んだ場合に設定します。
[暗号化アルゴリズム]	[セキュリティプロトコル] で [ESP] を選んだ場合は、暗号化に使うアルゴリズムを選びます。 [暗号化アルゴリズム] として [AES_CBC] を選んだ場合は、[鍵長] を指定します。
[認証アルゴリズム]	認証に使うアルゴリズムを選びます。 [認証アルゴリズム] として [SHA2] を選んだ場合は、[鍵長] を指定します。
[SA インデックス]	IPsec ヘッダーに追加する、SA の識別情報 (Security Parameter Index) を指定します。 送信用、受信用に別の識別情報を指定できます。
[暗号化用共通鍵]	暗号化に使う共通鍵を指定します。 送信用、受信用に別の共通鍵を指定できます。
[認証用共通鍵]	認証に使う共通鍵を指定します。 送信用、受信用に別の共通鍵を指定できます。

4 [IPsec 設定] 画面の [通信相手先] で [編集] をクリックし、本機の通信相手を登録します。

→ [通信相手先] は 10 件まで登録できます。

項目	説明
[名称]	通信相手先の名前を入力します (全角/半角 10 文字以内)。
[IP アドレス指定]	通信相手先のアドレスの指定方法を選びます。選んだ指定方法に合わせて、通信相手先の IP アドレスを指定します。
[プレ共有キー文字列]	通信の相手と共有するプレ共有キー文字列を入力します (ASCII 文字 128 バイト以内)。 HEX コードで入力する場合は、[HEX フォーマット] にチェックをつけてから入力します。 通信相手と同じ文字列を設定します。
[Key-ID 文字列]	Pre-Shared Key に指定する、Key-ID を入力します (ASCII 文字 128 バイト以内)。

- 5 [IPsec 設定] 画面の [プロトコル指定設定] で [編集] をクリックし、IPsec 通信を行うプロトコルを指定します。

→ [プロトコル指定設定] は 10 項目まで登録できます。

項目	説明
[名称]	プロトコルの設定の名前を入力します（全角／半角 10 文字以内）。
[プロトコル識別]	IPsec 通信を行うプロトコルを選びます。
[ポート番号]	[プロトコル識別] で [TCP] または [UDP] を選んだ場合は、IPsec 通信を行うポート番号を指定します。

- 6 [適用] をクリックして、[IPsec 設定] 画面を閉じます。

- 7 管理者モードの [セキュリティ] - [IPsec] - [IPsec] の [一般設定] で、次の設定をします。

項目	説明
[IPsec]	IPsec を有効にするかどうかを選びます。 初期値は [無効] です。
[Dead Peer Detection]	通信相手から一定期間内に応答がない場合に、通信相手との SA を削除します。 応答がない通信相手に対して、生存確認の情報を送信するまでの時間を選びます。 初期値は [60] です。
[Cookie]	サービス妨害攻撃に対して、Cookie を使った防御を有効にするかどうかを選びます。 初期値は [無効] です。
[ICMP 通過]	ICMP (Internet Control Message Protocol) に、IPsec を適用するかどうを選びます。 ICMP に IPsec を適用せず、ICMP パケットを通過させるには [有効] を選びます。 初期値は [有効] です。
[ICMPv6 通過]	ICMPv6 (Internet Control Message Protocol for IPv6) に、IPsec を適用するかどうを選びます。 ICMPv6 に IPsec を適用せず、ICMPv6 パケットを通過させるには、[有効] を選びます。 初期値は [有効] です。
[Default Action]	IPsec 通信が有効なときに、[IPsec ポリシー] に合致する設定がなかった場合の動作を選びます。 [IPsec ポリシー] の設定に合致しない IP パケットを破棄したい場合は、[破棄] を選びます。 初期値は [通過] です。

- 8 [IPsec] 画面の [IPsec ポリシー] で [編集] をクリックし、次の設定をします。

項目	説明
[名称]	IPsec ポリシーの名前を入力します（全角／半角 10 文字以内）。
[通信相手先]	通信相手の設定を選びます。 [IPsec 設定] 画面の [通信相手先] で登録した設定から選びます。
[プロトコル指定設定]	プロトコルを選びます。 [IPsec 設定] 画面の [プロトコル指定設定] で登録した設定から選びます。
[SA]	通信相手の設定を選びます。 [IPsec 設定] 画面の [SA] で登録した設定から選びます。
[通信方向]	IPsec の通信方向を選びます。
[Action]	[通信相手先]、[プロトコル指定設定]、[通信方向] に合致した IP パケットに対する動作を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [保護]：条件に合致した IP パケットを保護します。 ・ [通過]：条件に合致した IP パケットを保護しません。 ・ [破棄]：条件に合致した IP パケットを破棄します。 ・ [拒否]：条件に合致した IP パケットを拒否します。

- 9 管理者モードの〔セキュリティ〕 - 〔IPsec〕 - 〔通信確認〕で、設定した内容で、通信相手先に正しく接続できることを確認します。

→ 〔IP アドレス〕に通信相手先の IP アドレスを入力し、〔接続確認〕をクリックします。

〔IP アドレスフィルタリング〕

表示するには：管理者モード - 〔セキュリティ〕 - 〔IP アドレスフィルタリング〕

本機へのアクセスを許可する IP アドレスと、拒否する IP アドレスを指定できます。

項目	説明
〔許可アドレス〕	アクセスを許可する IP アドレスを指定する場合は、〔有効〕を選びます。あわせて、アクセスを許可する IP アドレスの範囲を入力します。 1 つの IP アドレスからのアクセスを許可する場合は、片方だけの入力でも設定できます。 ・ 入力例：「192.168.1.1」 初期値は〔無効〕です。
〔拒否アドレス〕	アクセスを拒否する IP アドレスを指定する場合は、〔有効〕を選びます。あわせて、IP アドレスの範囲を入力します。 1 つの IP アドレスからのアクセスを拒否する場合は、片方だけの入力でも設定できます。 ・ 入力例：「192.168.1.1」 初期値は〔無効〕です。
〔除外プロトコル〕	IP アドレスフィルタリングによるアクセス制限から除外するプロトコルにチェックをつけます。 初期値は〔OFF〕（チェックなし）です。

参考

- IP アドレスフィルタリングは、IPv6 環境には対応していません。
- 簡易 IP フィルタリング機能を有効にしている場合、IP アドレスフィルタリングは設定できません。

[IEEE802.1X]

表示するには：管理者モード - [セキュリティ] - [IEEE802.1X]

IEEE802.1X 認証を利用すると、管理者が許可した機器だけが LAN 環境へ接続できます。

お使いの環境で、IEEE802.1X 認証を導入している場合に設定します。

項目	説明
[IEEE802.1X]	IEEE802.1X 認証を使うときは、[有効] を選びます。 初期値は [無効] です。
[EAP タイプ]	EAP 認証方式を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [サーバーの規格に従う]：認証サーバーが提供する EAP タイプで認証します。認証サーバーが提供する EAP タイプに合わせて、本機で必要なサブリカントの設定をしてください。 ・ [なし] は選ばないでください。 初期値は [なし] です。
[ユーザー ID]	ユーザー ID を入力します (ASCII 文字 128 バイト以内)。 ユーザー ID は、すべての EAP タイプで使います。
[パスワード]	パスワードを入力します (ASCII 文字 128 バイト以内)。 パスワードは、[EAP-TLS] 以外の EAP タイプで使います。 パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードの変更] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
[TTLS 匿名]	[EAP タイプ] で [EAP-TTLS] または [サーバーの規格に従う] を選んだ場合は、EAP-TTLS の認証で使う anonymous 名を入力します (ASCII 文字 128 バイト以内)。 初期値は [anonymous] です。
[TTLS 認証タイプ]	[EAP タイプ] で [EAP-TTLS] または [サーバーの規格に従う] を選んだ場合は、EAP-TTLS の内部認証プロトコルを選びます。 初期値は [MS-CHAPv2] です。
[クライアント証明書送信]	必要に応じて、本機の証明書を使って、認証情報を暗号化するかどうかを選びます。 次の条件を満たす場合に設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 本機に証明書が登録されている ・ [EAP タイプ] で [EAP-TTLS]、[PEAP]、[サーバーの規格に従う] のいずれかを選んでる
[サーバー ID]	証明書の CN を検証する場合は、サーバー ID を入力します (ASCII 文字 64 バイト以内)。
[暗号化の強度]	[EAP タイプ] で [EAP-TLS]、[EAP-TTLS]、[PEAP]、[サーバーの規格に従う] のいずれかを選んだ場合は、必要に応じて、TLS で暗号化するときの、暗号強度を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [中間]：56 bit 超の鍵長で通信 ・ [上部]：128 bit 超の鍵長で通信 初期値は [中間] です。
[ネットワーク停止]	必要に応じて、認証を開始してから、ネットワーク通信を停止するまでの、猶予時間を設定します。 認証を開始してから、ここで指定した時間内に、認証に成功しない場合は、すべてのネットワークの通信を停止します。 猶予時間を設定するには、[ネットワーク停止] を [有効] に設定し、[制限時間] に猶予時間 (秒) を入力します。 ネットワーク通信の停止後に再度認証させたい場合は、本機を再起動してください。 初期値は [無効] です。

〔参照許可設定〕 - 〔ユーザー操作禁止設定〕

表示するには：管理者モード - 〔セキュリティ〕 - 〔参照許可設定〕 - 〔ユーザー操作禁止設定〕

ユーザーの操作を禁止する機能を設定します。

項目	説明
〔登録宛先変更〕	ユーザーに対して、宛先の登録や変更を許可するかどうかを選びます。 初期値は〔許可〕です。

〔オートログアウト〕

表示するには：管理者モード - 〔セキュリティ〕 - 〔オートログアウト〕 - 〔オートログアウト〕

Web Connection にログインして、一定時間操作が行われなかったときは自動的にログアウトしますが、必要に応じて、自動的にログアウトするまでの時間を変更できます。

項目	説明
〔管理者モードログアウト時間〕	管理者モードから自動的にログアウトするまでの時間を選びます。 初期値は〔10〕分です。
〔ユーザーモードログアウト時間〕	ユーザーモードから自動的にログアウトするまでの時間を選びます。 初期値は〔60〕分です。

〔管理者パスワード〕

表示するには：管理者モード - 〔セキュリティ〕 - 〔管理者パスワード〕 - 〔管理者パスワード〕

（このメニューは、管理者モード - 〔セキュリティ〕 - 〔PKI 設定〕 - 〔SSL/TLS 設定〕で、〔SSL/TLS〕を〔有効〕に設定し、HTTPS 接続している場合に表示されます。）

Web Connection から、本機の管理者パスワードを変更できます。

項目	説明
〔現在のパスワード〕	現在の管理者パスワードを入力します（8 文字以内）。
〔新しいパスワード〕	新しい管理者パスワードを入力します（8 文字以内）。
〔新しいパスワードの再入力〕	確認のため、新しい管理者パスワードを再入力します（8 文字以内）。



参考

〔パスワード規約〕を有効に設定している場合、〔パスワード規約〕で設定した最小文字数未満のパスワードは設定できません。

〔アドレス帳の参照許可設定〕 - 〔参照許可グループリスト〕

表示するには：管理者モード - 〔セキュリティ〕 - 〔アドレス帳の参照許可設定〕 - 〔参照許可グループリスト〕

〔編集〕をクリックして、参照許可グループを登録します。

項目	説明
〔番号〕	参照許可グループの登録番号を表示します。
〔参照許可グループ名〕	参照許可グループの名前を入力します（半角 24 文字／全角 12 文字以内）。
〔参照許可レベル〕	参照許可レベルと参照許可グループを組合わせて登録宛先を管理するときは、参照許可グループの参照許可レベルを選びます。



参照

参照許可グループには、参照許可レベルを設定できます。登録宛先に対して、参照許可レベルが設定された参照許可グループを割当てることで、参照許可レベルと、参照許可グループを組合わせて管理できます。詳しくは、2-41 ページをごらんください。

1.5.3 [ジョブ] タブ

[処理中ジョブ]

表示するには：管理者モード - [ジョブ] - [処理中ジョブ]

本機で現在処理しているプリントジョブ、送信ジョブ、受信ジョブ、保存ジョブを表示します。

項目	説明
[番号]	ジョブの ID 番号を表示します。
[ユーザー名]	ジョブのユーザー名を表示します。
[ドキュメント名]	ジョブの名前を表示します。
[ステータス]	ジョブの現在の状況を表示します。
[登録時刻]	ジョブの登録時刻を表示します。
[削除]	チェックをつけたジョブを削除します。

[処理済ジョブ]

表示するには：管理者モード - [ジョブ] - [処理済ジョブ]

本機で処理が完了しているプリントジョブ、送信ジョブ、受信ジョブ、保存ジョブを表示します。

項目	説明
[番号]	ジョブの ID 番号を表示します。
[ユーザー名]	ジョブのユーザー名を表示します。
[ドキュメント名]	ジョブの名前を表示します。
[結果]	ジョブの実行結果を表示します。
[詳細]	ジョブの詳細情報を表示します。

[コミュニケーションリスト]

表示するには：管理者モード - [ジョブ] - [コミュニケーションリスト]

スキャン送信ジョブ、ファクス送信ジョブ、ファクス受信ジョブの通信開始時刻や通信結果を表示します。

項目	説明
[番号]	通信 ID を表示します。
[宛先]	通信した宛先を表示します。
[開始時刻]	ジョブの送信開始時刻を表示します。
[結果]	ジョブの実行結果を表示します。
[詳細]	ジョブの詳細情報を表示します。

1.5.4 [プリント] タブ

[デフォルト設定] - [一般設定]

表示するには：管理者モード - [プリント] - [デフォルト設定] - [一般設定]

印刷に使用する用紙や給紙トレイの設定や、プリンタードライバーから指定がない場合の印刷条件に関する設定をします。

項目	説明
[PDL]	ページ記述言語 (Page Description Language) を選びます。[自動] を選ぶと、PCL と PS を自動で切替えます。初期値は [自動] です。

項目	説明
[給紙トレイ]	印刷する用紙の給紙トレイを選びます。 初期値は [トレイ 1] です。
[両面]	複数ページのデータを印刷するときに、用紙の両面に印刷するかどうかを選びます。 初期値は [オフ] です。
[開き方向 / とじ方向]	両面印刷するときの、とじ方向を選びます。 初期値は [左開き / とじ] です。
[排紙トレイ]	優先的に排紙するトレイを表示します。
[部数]	印刷部数を入力します。 初期値は [1] です。
[用紙サイズ]	印刷する用紙のサイズを選びます。 初期値は [A4] です。
[幅] / [長さ]	[用紙サイズ] で [カスタム] を選んだ場合に、用紙の幅と長さを入力します。
[用紙種類]	印刷する用紙の種類を選びます。 初期値は [普通紙] です。
[部単位印刷]	複数部を印刷するときに、部単位で印刷するかどうかを選びます。 初期値は [オフ] です。
[自動継続]	プリントジョブの用紙サイズおよび用紙種類と、給紙トレイの用紙サイズおよび用紙種類とが異なる場合に、印刷を継続するかどうかを選びます。 初期値は [オフ] です。
[保存ジョブタイムアウト]	HDD 内にプリントジョブを保持する時間を設定します。 初期値は [無効] です。
[モノクロページ]	カラー印刷時におけるモノクロページの印刷方法を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [自動] : 先頭ページに合わせて印刷します。 ・ [モノクロページ] : ページごとにモノクロかどうかを判別して印刷します。 ・ [カラーページ] : モノクロページをカラーページとして印刷します。 初期値は [自動] です。
[原稿セット方向]	印刷する画像の向きを選びます。 初期値は [縦] です。
[小さめ印刷]	PDF、PPML、OOXML (docx、xlsx、pptx) ファイルをダイレクト印刷するときに、ページ全体を少し縮小して印刷するかどうかを選びます。原稿の端の画像が欠けないように印刷したいときに設定します。 初期値は [オフ] です。
[TIFF 画像用紙設定]	TIFF、JPEG、PDF 形式のファイルをダイレクト印刷するときに使用する用紙の決定方法を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [自動] : 画像サイズに適合するサイズの用紙に印刷します。 ・ [優先用紙サイズ] : 優先して使用するサイズの用紙に印刷します。 初期値は [優先用紙サイズ] です。

〔デフォルト設定〕 - 〔給紙トレイ設定〕

表示するには：管理者モード - 〔プリント〕 - 〔デフォルト設定〕 - 〔給紙トレイ設定〕

給紙トレイに関する設定をします。プリンタードライバーから指定がない場合は、この設定に従って動作します。

項目	説明
〔手差し〕	手差しトレイにセットした用紙のサイズと種類を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 〔用紙サイズ〕：定形サイズ of 用紙をセットした場合に、セットした用紙のサイズを選びます。 ・ 〔幅〕 / 〔長さ〕：〔用紙サイズ〕で〔カスタム〕を選んだ場合に、セットした用紙の幅と長さを入力します。 ・ 〔用紙種類〕：セットした用紙の種類を選びます。
〔トレイ 1〕	トレイ 1 にセットした用紙のサイズと種類を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 〔用紙サイズ〕：定形サイズ of 用紙をセットした場合に、セットした用紙のサイズを選びます。 ・ 〔用紙種類〕：セットした用紙の種類を選びます。
〔トレイ 2〕	トレイ 2 にセットした用紙のサイズと種類を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 〔用紙サイズ〕：セットした用紙のサイズを表示します。 ・ 〔用紙種類〕：セットした用紙の種類を選びます。
〔トレイ 3〕	トレイ 3 にセットした用紙のサイズと種類を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 〔用紙サイズ〕：セットした用紙のサイズを表示します。 ・ 〔用紙種類〕：セットした用紙の種類を選びます。
〔自動トレイ切り替え〕	印刷中に給紙トレイの用紙がなくなったとき、同じサイズ、同じ方向、同じ種類の用紙がセットされている給紙トレイへの自動切換えを有効にするかどうかを選びます。 初期値は〔有効〕です。



参考

〔トレイ 2〕、〔トレイ 3〕は、オプションのペーパーフィーダーユニットを装着している場合に利用できません。

〔デフォルト設定〕 - 〔トレイマッピング設定〕

表示するには：管理者モード - 〔プリント〕 - 〔デフォルト設定〕 - 〔トレイマッピング設定〕

他社のプリンタードライバーからプリントジョブを受信した場合、どの給紙トレイを使用して印刷するかを設定します。

項目	説明
〔トレイマッピングモード〕	トレイマッピングを有効にするかどうかを選びます。 初期値は〔オフ〕です。
〔論理トレイ 0〕～〔論理トレイ 9〕	論理トレイ 0～9 を物理トレイに割当てます。

〔デフォルト設定〕 - 〔PCL 設定〕

表示するには：管理者モード - 〔プリント〕 - 〔デフォルト設定〕 - 〔PCL 設定〕

PCL 印刷に関する設定をします。

項目	説明
〔PCL 設定〕	PCL 印刷設定の初期値を設定します。
〔フォント番号〕	デフォルトフォントを設定します。表示されるフォント番号は PCL フォントリストに対応しています。 初期値は〔0〕です。
〔シンボルセット〕	使用するフォントシンボルセットを選びます。 初期値は〔PC-8〕です。
〔1 ページあたりの行数〕	テキストデータを印刷するときの、1 ページに印刷するライン数を入力します。 初期値は〔60〕です。
〔フォントのポイントサイズ〕	プロポーションアルフォント（文字ごとに幅が異なるフォント）のフォントサイズを入力します（単位：ポイント）。 初期値は〔12.00〕です。
〔フォントのピッチサイズ〕	固定幅フォント（文字ごとの幅が等しいフォント）の幅を入力します（単位：ピッチ）。 初期値は〔10.00〕です。
〔CR/LF マッピング〕	テキストデータを印刷するとき、改行コードを置換えるかどうかを選びます。改行コードを置換える場合は、置換え方法を選びます。 初期値は〔CR=CR LF=LF〕です。
〔印刷品質設定〕	PCL 印刷の画質を調整します。
〔コントラスト調整〕	印刷画像のコントラストを調整します。 初期値は〔0〕です。
〔イメージ印刷〕	RGB のイメージデータの処理方法を選びます。 ・〔ソース〕：入力 RGB の色空間を指定します。初期値は〔sRGB〕です。 ・〔特性〕：入力 RGB からデバイス CMYK への変換特性を指定します。初期値は〔写真調〕です。 ・〔グレー再現〕：黒、グレーの印刷方法を指定します。初期値は〔4 色 (CMYK) トナー〕です。
〔テキスト印刷〕	RGB の文字データの処理方法を選びます。 ・〔ソース〕：入力 RGB の色空間を指定します。初期値は〔sRGB〕です。 ・〔特性〕：入力 RGB からデバイス CMYK への変換特性を指定します。初期値は〔鮮やか〕です。 ・〔グレー再現〕：黒、グレーの印刷方法を指定します。初期値は〔全て黒 (K) トナー〕です。
〔グラフィックス印刷〕	RGB のグラフィックデータの処理方法を選びます。 ・〔ソース〕：入力 RGB の色空間を指定します。初期値は〔sRGB〕です。 ・〔特性〕：入力 RGB からデバイス CMYK への変換特性を指定します。初期値は〔鮮やか〕です。 ・〔グレー再現〕：黒、グレーの印刷方法を指定します。初期値は〔全て黒 (K) トナー〕です。

〔デフォルト設定〕 - 〔PostScript 設定〕

表示するには：管理者モード - 〔プリント〕 - 〔デフォルト設定〕 - 〔PostScript 設定〕

PostScript 印刷に関する設定をします。

項目	説明
〔PostScript 設定〕	PostScript 印刷設定の初期値を設定します。
〔印刷待ちタイムアウト〕	PS エラーと判断してタイムアウトするまでの時間を設定します。 〔0〕 を選ぶと、タイムアウトしません。 初期値は〔0〕 秒です。
〔PS プロトコル〕	PS データの通信で使用するプロトコルを選びます。 〔自動〕 を選ぶと、適切なプロトコルを PS プリントジョブから自動的に決定します。 初期値は〔自動〕 です。
〔PS エラーの印刷〕	PS のラスタライズ中にエラーが発生した場合、エラー情報を印刷するかどうかを選びます。 初期値は〔オフ〕 です。
〔自動トラッピング〕	自動トラッピングを有効にするかどうかを選びます。 自動トラッピングを有効にすると、絵柄の周囲に白い隙間が出ないように隣合う色を重ねて印刷します。 初期値は〔オフ〕 です。
〔ブラックオーバープリント〕	ブラックオーバープリントを有効にするかどうかを選びます。 ブラックオーバープリントを有効にすると、黒い文字や図形の周囲に白い隙間が出ないように隣合う色に黒を重ねて印刷します。 ・〔テキスト〕：文字部分のみ隣合う色に黒を重ねて印刷します。 ・〔テキストとグラフィック〕：文字部分と図形部分の両方で、隣合う色に黒を重ねて印刷します。 初期値は〔オフ〕 です。
〔印刷品質設定〕	PostScript 印刷の画質を調整します。
〔イメージ印刷〕	RGB のイメージデータの処理方法を選びます。 ・〔RGB ソース〕：入力 RGB の色空間を指定します。初期値は〔sRGB〕です。 ・〔RGB 特性〕：入力 RGB からデバイス CMYK への変換特性を指定します。初期値は〔写真調〕です。 ・〔RGB グレー再現〕：黒、グレーの印刷方法を指定します。初期値は〔4 色 (CMYK) トナー〕です。 ・〔出力プロファイル〕：出力プロファイルを指定します。初期値は〔自動〕です。
〔テキスト印刷〕	RGB の文字データの処理方法を選びます。 ・〔RGB ソース〕：入力 RGB の色空間を指定します。初期値は〔sRGB〕です。 ・〔RGB 特性〕：入力 RGB からデバイス CMYK への変換特性を指定します。初期値は〔鮮やか〕です。 ・〔RGB グレー再現〕：黒、グレーの印刷方法を指定します。初期値は〔全黒 (K) トナー〕です。 ・〔出力プロファイル〕：出力プロファイルを指定します。初期値は〔自動〕です。
〔グラフィックス印刷〕	RGB のグラフィックデータの処理方法を選びます。 ・〔RGB ソース〕：入力 RGB の色空間を指定します。初期値は〔sRGB〕です。 ・〔RGB 特性〕：入力 RGB からデバイス CMYK への変換特性を指定します。初期値は〔鮮やか〕です。 ・〔RGB グレー再現〕：黒、グレーの印刷方法を指定します。初期値は〔全黒 (K) トナー〕です。 ・〔出力プロファイル〕：出力プロファイルを指定します。初期値は〔自動〕です。
〔シミュレーション〕	シミュレーションに関する設定をします。 ・〔シミュレーションプロファイル〕：入力 CMYK のシミュレーションプロファイルを選びます。初期値は〔なし〕です。 ・〔特性〕：シミュレーションを実施するときの変換特性を指定します。初期値は〔相対色〕です。 ・〔CMYK グレー再現〕：シミュレーションを実施するときの CMYK 入力データにおける K 版の印刷方法を指定します。初期値は〔4 色 (CMYK) トナー〕です。

〔デフォルト設定〕 - 〔XPS 設定〕

表示するには：管理者モード - 〔プリント〕 - 〔デフォルト設定〕 - 〔XPS 設定〕

XPS ファイルをダイレクト印刷するときに、デジタル署名の検証や、エラー情報の印刷を行うかどうかを設定します。

項目	説明
〔電子署名〕	デジタル署名が付加された XPS ファイルを印刷するときに、デジタル署名を検証するかどうかを選びます。 〔有効〕を選ぶと、署名が無効なときは印刷しません。 初期値は〔無効〕です。
〔XPS エラープリント〕	XPS ファイルの印刷中にエラーが発生した場合、エラー情報を印刷するかどうかを選びます。 初期値は〔オン〕です。

〔デフォルト設定〕 - 〔印刷品質設定〕

表示するには：管理者モード - 〔プリント〕 - 〔デフォルト設定〕 - 〔印刷品質設定〕

印刷画像の画質を調整します。

項目	説明
〔印刷品質設定〕	画質設定の初期値を設定します。
〔カラーモード〕	カラーで印刷するか、グレースケールで印刷するかを選びます。 初期値は〔カラー〕です。
〔カラーセパレーション〕	色分解を有効にするかどうかを選びます。色分解を有効にすると、1 ページを CMYK の色要素に分割して黒で 4 ページ印刷します。 初期値は〔オフ〕です。
〔明るさ調整〕	印刷画像の明るさを調整します。 初期値は〔0〕です。
〔スクリーン〕	〔イメージ印刷〕、〔テキスト印刷〕、〔グラフィックス印刷〕のカテゴリごとに、ハーフトーンの処理方法を選びます。 ・ 〔高精細〕：高精密に中間色を再現します。 ・ 〔精細〕：詳細に中間色を再現します。 ・ 〔スムーズ〕：なめらかに中間色を再現します。 初期値は以下の通りです。 ・ 〔イメージ印刷〕：〔精細〕 ・ 〔テキスト印刷〕：〔高精細〕 ・ 〔グラフィックス印刷〕：〔精細〕
〔エッジ強調〕	〔イメージ印刷〕、〔テキスト印刷〕、〔グラフィックス印刷〕のカテゴリごとに、エッジ部分を強調するかどうかを選びます。 初期値は以下の通りです。 ・ 〔イメージ印刷〕：〔オフ〕 ・ 〔テキスト印刷〕：〔オン〕 ・ 〔グラフィックス印刷〕：〔オン〕
〔エッジ強度〕	エッジ部分を強調する場合に、エッジ部分を強調する度合いを選びます。 初期値は〔中間部〕です。
〔エコノミー印刷モード〕	印刷濃度を調整し、トナー消費量を節約した印刷を行うかどうかを選びます。 初期値は〔オフ〕です。
〔階調補正〕	印刷画質を調整します。
〔濃度補正〕	濃度補正を有効にするかどうかを選びます。 初期値は〔オン〕です。
〔シアン濃度〕	シアンのハイライト部、中間部、シャドウ部の濃度を調整します。 初期値はすべて〔0〕です。
〔マゼンタ濃度〕	マゼンタのハイライト部、中間部、シャドウ部の濃度を調整します。 初期値はすべて〔0〕です。
〔イエロー濃度〕	イエローのハイライト部、中間部、シャドウ部の濃度を調整します。 初期値はすべて〔0〕です。
〔ブラック濃度〕	ブラックのハイライト部、中間部、シャドウ部の濃度を調整します。 初期値はすべて〔0〕です。

〔デフォルト設定〕 - 〔OOXML 設定〕

表示するには：管理者モード - 〔プリント〕 - 〔デフォルト設定〕 - 〔OOXML 設定〕

OOXML (docx、xlsx、pptx) ファイルをダイレクト印刷するときの、印刷設定の初期値を設定します。

項目	説明
〔印刷モード〕	OOXML (docx、xlsx、pptx) ファイルをダイレクト印刷するときに、画質を優先するか、速度を優先するかを選びます。 初期値は〔速度優先〕です。
〔シート / ブック印刷〕	Excel ファイルを印刷するときに、現在選んでいるシートを印刷するか、ブック全体を印刷するかを選びます。 初期値は〔現在のシート〕です。
〔用紙サイズ〕	OOXML (docx、xlsx、pptx) ファイルを印刷する用紙のサイズを選びます。 初期値は〔自動〕です。
〔用紙種類〕	OOXML (docx、xlsx、pptx) ファイルを印刷する用紙の種類を選びます。 初期値は〔普通紙〕です。

〔デフォルト設定〕 - 〔ページレイアウト設定〕

表示するには：管理者モード - 〔プリント〕 - 〔デフォルト設定〕 - 〔ページレイアウト設定〕

ダイレクト印刷するときの、ページ割付設定の初期値を設定します。

項目	説明
〔レイアウト設定〕	複数のページを 1 枚の用紙に縮小して印刷するときは、〔有効〕を選びます。 初期値は〔無効〕です。
〔行〕	1 枚の用紙の横方向に割付けるページ数を入力します。 初期値は〔1〕です。
〔列〕	1 枚の用紙の縦方向に割付けるページ数を入力します。 初期値は〔1〕です。
〔集約順〕	ページの配置のしかたを選びます。 初期値は〔横順〕です。
〔集約方向〕	ページを配置する方向を選びます。 初期値は〔左上から右下〕です。
〔ページ間隔〕	行方向と列方向のページの間隔を入力します。 初期値はすべて〔0〕mm です。
〔ページ余白〕	上下左右のページの余白を入力します。 初期値はすべて〔0〕mm です。
〔ページ倍率〕	倍率を自動で調整するか、任意の倍率を指定してページを拡大または縮小するかを選びます。 初期値は〔自動〕です。
〔ページ枠〕	ページ間に境界線を印字するかどうかを選びます。 初期値は〔無効〕です。

〔デフォルト設定〕 - 〔バーコード設定〕

表示するには：管理者モード - 〔プリント〕 - 〔デフォルト設定〕 - 〔バーコード設定〕

バーコードフォントに関する設定をします。

項目	説明
〔バーコード線幅〕	バーコードフォントの線幅を設定します。 初期値は〔0〕です。
〔バーコードスペース幅〕	バーコードフォントのスペース幅を設定します。 初期値は〔0〕です。



参考

バーコードフォントを使うには、オプションの i-Option LK-106 が必要です。

〔フォント/フォーム〕

表示するには：管理者モード - 〔プリント〕 - 〔フォント/フォーム〕

本機に保存されているフォント、フォーム、プロファイルの情報を確認できます。

項目	説明
〔PCL フォント〕	本機に保存されている PCL フォントの一覧を表示します。
〔PostScript フォント〕	本機に保存されている PS フォントの一覧を表示します。
〔フォーム〕	本機に保存されているフォームの一覧を表示します。
〔カラープロファイル〕	本機に保存されているカラープロファイルの一覧を表示します。

〔フォント/フォームのダウンロード〕

表示するには：管理者モード - 〔プリント〕 - 〔フォント/フォームのダウンロード〕

本機の HDD に保存されているフォント、フォーム、プロファイルの管理を行います。

項目	説明
〔PostScript フォント〕	PostScript フォントの管理を行います。
〔PostScript フォントのダウンロード〕	PostScript フォントを本機の HDD にダウンロードします。 保存場所とダウンロードするフォントを指定し、〔ダウンロード〕をクリックします。
〔PostScript フォントの削除〕	本機の HDD に保存されている PostScript フォントを削除します。 PostScript フォントの一覧で、削除するフォントにチェックをつけ、〔削除〕をクリックします。
〔フォーム〕	フォームの管理を行います。
〔フォームのダウンロード〕	フォームを本機の HDD にダウンロードします。 保存場所とダウンロードするフォームを指定し、〔ダウンロード〕をクリックします。
〔フォームの削除〕	本機の HDD に保存されているフォームを削除します。 フォームの一覧で、削除するフォームにチェックをつけ、〔削除〕をクリックします。
〔カラープロファイル〕	カラープロファイルの管理を行います。
〔カラープロファイルのダウンロード〕	カラープロファイルを本機の HDD にダウンロードします。 保存場所とカラープロファイルを指定し、〔ダウンロード〕をクリックします。 HDD には 20 個までカラープロファイルをダウンロードできます。
〔カラープロファイルの削除〕	本機の HDD に保存されているカラープロファイルを削除します。 カラープロファイルの一覧で、削除するカラープロファイルにチェックをつけ、〔削除〕をクリックします。

〔レポート印刷〕

表示するには：管理者モード - 〔プリント〕 - 〔レポート印刷〕 - 〔レポート印刷〕

各種レポートを印刷します。印刷したいレポートを選び、〔プリント〕をクリックします。

項目	説明
〔設定リストページ〕	本機の情報と設定内容が記載されたリストを印刷します。
〔PCL フォントページ〕	PCL フォントリストを印刷します。
〔PostScript フォントページ〕	PostScript フォントリストを印刷します。
〔統計ページ〕	印刷枚数などの統計情報が記載されたリストを印刷します。
〔ディレクトリーリストページ〕	HDD のディレクトリーの一覧を印刷します。

〔ダイレクトプリント〕

表示するには：管理者モード - 〔プリント〕 - 〔ダイレクトプリント〕 - 〔ダイレクトプリント〕

コンピューター上のファイルを直接本機に送信して印刷します。

詳しくは、〔ユーザーズガイド プリント機能編〕の4章「プリンタードライバーを使わずに印刷する」をご覧ください。

1.5.5 〔ストレージ〕タブ

〔HDD 送信〕

表示するには：管理者モード - 〔ストレージ〕 - 〔HDD 送信〕

HDD 保存機能で保存したデータの確認やダウンロード、削除ができます。

詳しくは、〔ユーザーズガイド スキャン機能編〕の6章「本機のHDDに保存する（HDD 保存）」をご覧ください。

〔PC-Fax〕

表示するには：管理者モード - 〔ストレージ〕 - 〔PC-Fax〕

PC-FAX 受信または強制メモリー受信で保存されたファクス文書の印刷、ダウンロード、削除ができます。

詳しくは、〔ユーザーズガイド ファクス機能編〕の6章「こんな受信のしかたがあります」をご覧ください。

1.5.6 〔宛先〕タブ

〔アドレス帳〕

表示するには：管理者モード - 〔宛先〕 - 〔アドレス帳〕 - 〔アドレス帳一覧〕

よく送信する宛先を本機に登録できます。また、本機に登録されている宛先の登録内容を確認したり、編集したりできます。

宛先を登録する場合は、〔新規登録〕をクリックします。登録内容について詳しくは、2-26 ページをご覧ください。

〔グループ〕

表示するには：管理者モード - 〔宛先〕 - 〔グループ〕 - 〔グループ一覧〕

複数の宛先をまとめて、グループ宛先として登録できます。また、本機に登録されているグループ宛先の登録内容を確認したり、編集したりできます。

グループ宛先を登録する場合は、〔新規登録〕をクリックします。登録内容について詳しくは、2-32 ページをご覧ください。

〔プログラム〕

表示するには：管理者モード - 〔宛先〕 - 〔プログラム〕 - 〔プログラム一覧〕

よく使うオプション設定の組合わせを、1つの呼出しキー（プログラム）として登録できます。また、本機に登録されているプログラムの登録内容を確認したり、編集したりできます。

プログラムを登録する場合は、〔編集〕をクリックします。登録内容について詳しくは、2-32 ページをご覧ください。

〔題名〕

表示するには：管理者モード - 〔宛先〕 - 〔題名〕 - 〔題名一覧〕

E-mail 送信時に利用する件名を登録できます。また、本機に登録されている件名の登録内容を確認したり、編集したりできます。

件名を登録する場合は、〔編集〕をクリックし、登録する件名を入力します（半角 64 文字／全角 32 文字以内）。



参考

- 件名は 10 件まで登録して、送信前に選べます。
- 件名の一覧で〔デフォルト E-mail〕を選択することで、E-mail 送信時に使用する件名の初期値を指定できます。

〔本文〕

表示するには：管理者モード - 〔宛先〕 - 〔本文〕 - 〔本文一覧〕

E-mail 送信時に利用する本文を登録できます。また、本機に登録されている本文の登録内容を確認したり、編集したりできます。

本文を登録する場合は、〔編集〕をクリックし、登録する本文を入力します（半角 256 文字／全角 128 文字以内）。



参考

- 本文は 10 件まで登録して、送信前に選べます。
- 本文の一覧で〔デフォルト E-mail〕を選択することで、E-mail 送信時に使用する本文の初期値を指定できます。

1.5.7 〔ネットワーク〕タブ

〔一般設定〕 - 〔ネットワークインターフェース設定〕

表示するには：管理者モード - 〔ネットワーク〕 - 〔一般設定〕 - 〔ネットワークインターフェース設定〕

（このメニューは、オプションのネットワークカードを装着している場合に表示されます。）

接続するネットワークの種類を選びます。

項目	説明
〔ネットワーク種別〕	本機が接続するネットワークの種類を選びます。 初期値は〔Ethernet〕です。

〔一般設定〕 - 〔Ethernet 設定〕

表示するには：管理者モード - 〔ネットワーク〕 - 〔一般設定〕 - 〔Ethernet 設定〕

（このメニューは、管理者モード - 〔ネットワーク〕 - 〔一般設定〕 - 〔ネットワークインターフェース設定〕 - 〔ネットワーク種別〕で〔Ethernet〕を選んだ場合に表示されます。）

ネットワーク速度の設定と、MAC アドレスの確認を行います。

項目	説明
〔ネットワーク速度〕	お使いの環境に合わせて、ネットワークの速度を選びます。 初期値は〔自動〕です。

項目	説明
[MAC アドレス]	本機のネットワークインターフェースカードの MAC アドレスを表示します。

[一般設定] - [無線 LAN 設定]

表示するには：管理者モード - [ネットワーク] - [一般設定] - [無線 LAN 設定]

(このメニューは、管理者モード - [ネットワーク] - [一般設定] - [ネットワークインターフェース設定] - [ネットワーク種別] で [無線 LAN] を選んだ場合に表示されます。)

本機を無線 LAN 環境に接続するための設定を手動で行います。

項目	説明
[SSID]	本機が接続するアクセスポイントの SSID を入力します (ASCII 文字 32 バイト以内)。
[Authentication/Encryption Algorithm]	認証または暗号化に使用するアルゴリズムを選びます。 初期値は [なし] です。
[WEP Key]	[Authentication/Encryption Algorithm] で [WEP] を選んだ場合に、WEP キーの設定を行います。 <ul style="list-style-type: none">• [Key Input Method] : WEP キーの入力方法を選びます。初期値は [Text 5 Characters] です。• [Select Key] : [WEP Key 1] ~ [WEP Key 4] で登録した WEP キーのうち、どのキーを使用するかを選びます。初期値は [1] です。• [WEP Key 1] ~ [WEP Key 4] : WEP キーを入力します。
[Pass Phrase Input Method]	[Authentication/Encryption Algorithm] で [WEP] 以外のアルゴリズムを選んだ場合に、パスフレーズ入力方式を選びます。 初期値は [Text 8-63 Characters] です。
[パスフレーズ]	[Authentication/Encryption Algorithm] で [WEP] 以外のアルゴリズムを選んだ場合に、パスフレーズを入力します (ASCII 文字 64 バイト以内)。
[2040COEX 有効設定]	40MHz を使用して高速通信を試みる場合は [有効] を選びます。 初期値は [無効] です。

〔一般設定〕 - 〔無線 LAN ステータス〕

表示するには：管理者モード - 〔ネットワーク〕 - 〔一般設定〕 - 〔無線 LAN ステータス〕

(このメニューは、管理者モード - 〔ネットワーク〕 - 〔一般設定〕 - 〔ネットワークインターフェース設定〕 - 〔ネットワーク種別〕 で〔無線 LAN〕を選んだ場合に表示されます。)

無線 LAN 環境の通信状態を確認できます。

項目	説明
〔ステータス〕	接続状態を表示します。
〔SSID〕	SSID を表示します。
〔速度〕	通信速度を表示します。
〔Authentication/Encryption Algorithm〕	設定されているアルゴリズムを表示します。
〔電波強度〕	電波強度を表示します。
〔MAC アドレス〕	本機の MAC アドレスを表示します。

〔一般設定〕 - 〔無線 LAN 設定 (AP mode)〕

表示するには：管理者モード - 〔ネットワーク〕 - 〔一般設定〕 - 〔無線 LAN 設定 (AP mode)〕

(このメニューは、管理者モード - 〔ネットワーク〕 - 〔一般設定〕 - 〔ネットワークインターフェース設定〕 - 〔ネットワーク種別〕 で〔Ethernet+ 無線 LAN(AP mode)〕を選んだ場合に表示されます。)

本機をアクセスポイントモードで無線 LAN 環境に接続するための設定を、手動で行います。

項目	説明
〔SSID〕	本機をアクセスポイントして使用するときの SSID を入力します (ASCII 文字 32 バイト以内)。
〔Authentication/Encryption Algorithm〕	認証または暗号化に使用するアルゴリズムを選びます。 初期値は〔None〕です。
〔WEP Key〕	〔Authentication/Encryption Algorithm〕で〔WEP〕を選んだ場合に、WEP キーの設定を行います。 ・〔Key Input Method〕：WEP キーの入力方法を選びます。初期値は〔Text 5 Characters〕です。 ・〔Select Key〕：〔WEP Key 1〕～〔WEP Key 4〕で登録した WEP キーのうち、どのキーを使用するかを選びます。初期値は〔1〕です。 ・〔WEP Key 1〕～〔WEP Key 4〕：WEP キーを入力します。
〔Pass Phrase Input Method〕	〔Authentication/Encryption Algorithm〕で〔WEP〕以外のアルゴリズムを選んだ場合に、パスフレーズ入力方式を選びます。 初期値は〔Text 8-63 Characters〕です。
〔パスフレーズ〕	〔Authentication/Encryption Algorithm〕で〔WEP〕以外のアルゴリズムを選んだ場合に、パスフレーズを入力します (ASCII 文字 64 バイト以内)。
〔Pass Phrase Automatic Renewal〕	パスフレーズを自動的に更新するかどうかを設定します。 初期値は〔有効〕です。
〔Renewal Period〕	パスフレーズの更新間隔を指定します。 初期値は〔60〕分です。
〔2040COEX 有効設定〕	40MHz を使用して高速通信を試みる場合は〔有効〕を選びます。 初期値は〔無効〕です。
〔Wireless Channel〕	無線 LAN のチャンネルを設定します。 初期値は〔Auto〕です。
〔ANY Connection〕	ANY 接続を許可するかどうかを選びます。 初期値は〔有効〕です。
〔DHCP Server〕	IP アドレスを自動取得するかどうかを選びます。 初期値は〔有効〕です。

項目	説明
[IPv4 Lease Address]	[DHCP Server] で [有効] を選んだ場合に、DHCP サーバーがリースする IPv4 アドレスの範囲を設定します。 ・ [Start Address] : 先頭の IP アドレスを入力します。 ・ [End Address] : 最終の IP アドレスを入力します。
[サブネットマスク]	[DHCP Server] で [有効] を選んだ場合に、サブネットマスクを入力します。
[Lease Period]	[DHCP Server] で [有効] を選んだ場合に、リースする期間を指定します。 初期値は [4294967295] 秒です。
[TCP/IP 設定]	TCP/IP を使用して本機を無線ネットワークに接続するための設定をします。
[IPv4 設定]	本機で IPv4 を使用して無線ネットワークに接続する場合に、IPv4 の設定をします。 ・ [IP Address] : 本機に用意した固定 IP アドレスを入力します。 ・ [サブネットマスク] : サブネットマスクを入力します。
[IPv6 設定]	本機で IPv6 を使用して無線ネットワークに接続する場合に、IPv6 の設定を表示します。 ・ [リンクローカルアドレス] : リンクローカルアドレスを表示します。リンクローカルアドレスは、本機の MAC アドレスから自動的に設定されます。

[一般設定] - [ローカルインターフェース設定]

表示するには：管理者モード - [ネットワーク] - [一般設定] - [ローカルインターフェース設定]

本機とコンピューターとの通信のタイムアウト時間を変更します。

項目	説明
[I/O タイムアウト]	本機とコンピューターを USB 接続している場合に、通信のタイムアウト時間を変更します。 初期値は [60] 秒です。

[TCP/IP 設定] - [TCP/IP 設定]

表示するには：管理者モード - [ネットワーク] - [TCP/IP 設定] - [TCP/IP 設定]

TCP/IP に関する設定を行います。

項目	説明
[TCP/IP]	TCP/IP を使うかどうかを選びます。 初期値は [有効] です。
[LPD]	LPD (Line Printer Daemon) を使うかどうかを選びます。 初期値は [有効] です。
[SLP]	SLP (Service Location Protocol) を使うかどうかを選びます。 初期値は [有効] です。
[LLMNR]	LLMNR (Link-local Multicast Name Resolution) を使うかどうかを選びます。 初期値は [有効] です。

[TCP/IP 設定] - [IPv4 設定]

表示するには：管理者モード - [ネットワーク] - [TCP/IP 設定] - [IPv4 設定]

本機に IP アドレス (IPv4) を割当てます。

項目	説明
[IP アドレス設定方法]	IP アドレスを自動設定する場合に、自動取得の方法を選びます。 <ul style="list-style-type: none">・ [DHCP]：初期値は [ON] (チェックあり) です。・ [BootP]：初期値は [OFF] (チェックなし) です。・ [ARP/PING]：初期値は [OFF] (チェックなし) です。・ [Auto IP]：[ON] (チェックあり) 固定です。
[IP アドレス]	IP アドレスを手動設定する場合に、固定の IP アドレスを入力します。
[サブネットマスク]	IP アドレスを手動設定する場合に、サブネットマスクを入力します。
[デフォルトゲートウェイ]	IP アドレスを手動設定する場合に、デフォルトゲートウェイを入力します。
[ドメイン名自動取得]	DHCP などをお使いの場合に、ドメイン名を自動で取得するかどうかを選びます。 初期値は [有効] です。
[DNS サーバー自動取得]	DNS サーバーのアドレスを自動で取得するかどうかを選びます。 初期値は [有効] です。

[TCP/IP 設定] - [IPv6 設定]

表示するには：管理者モード - [ネットワーク] - [TCP/IP 設定] - [IPv6 設定]

本機に IP アドレス (IPv6) を割当てます。

項目	説明
[IPv6]	IPv6 を使うかどうかを選びます。 初期値は [有効] です。
[自動設定]	本機の IPv6 グローバルアドレスを自動で割当てかどうかを選びます。 初期値は [有効] です。
[リンクローカルアドレス]	本機の MAC アドレスから自動的に設定されたリンクローカルアドレスを表示します。
[グローバルアドレス]	IPv6 アドレスを手動設定する場合に、IPv6 グローバルアドレスを入力します。
[ゲートウェイアドレス]	IPv6 アドレスを手動設定する場合に、ゲートウェイアドレスを入力します。
[DHCPv6]	DHCPv6 によって IPv6 グローバルアドレスを自動で割当てかどうかを選びます。 初期値は [有効] です。
[DNS サーバー自動取得]	DNS サーバーのアドレスを自動で取得するかどうかを選びます。 DHCPv6 をお使いの場合は、DNS サーバーのアドレスを自動的に設定できます。 初期値は [有効] です。
[検索ドメイン名の自動取得]	DHCP などをお使いの場合に、ドメイン名を自動で取得するかどうかを選びます。 初期値は [有効] です。
[NTP サーバーの自動取得]	IPv6 環境でお使いの場合は、NTP サーバーのアドレスを、DHCPv6 によって自動で設定するかどうかを選びます。 初期値は [有効] です。

[TCP/IP 設定] - [RAW ポート設定]

表示するには：管理者モード - [ネットワーク] - [TCP/IP 設定] - [RAW ポート設定]

Port9100 印刷で使う RAW ポートの番号を設定します。

項目	説明
[RAW ポート]	RAW ポートを使うかどうかを選びます。 初期値は [有効] です。
[RAW ポート番号]	必要に応じて、RAW ポートの番号を変更します。 初期値は [9100] です。
[双方向]	RAW ポートの双方向通信を有効にするかどうかを選びます。 初期値は [無効] です。

[TCP/IP 設定] - [DNS 設定]

表示するには：管理者モード - [ネットワーク] - [TCP/IP 設定] - [DNS 設定]

DNS サーバーをお使いの場合に、DNS に関する設定をします。

項目	説明
[ホスト名]	本機のホスト名を入力します（ASCII 文字 63 バイト以内、記号は - のみ使用可能）。 お使いの DNS サーバーが Dynamic DNS 機能をサポートしていない場合は、本機のホスト名を DNS サーバーに登録する必要があります。
[ドメイン名]	デフォルトドメイン名を自動で取得しない場合は、本機のデフォルトドメイン名を入力します（ASCII 文字 63 バイト以内、記号は - . のみ使用可能）。
[DNS サーバーアドレス (IPv4)]	お使いの DNS サーバーのアドレス (IPv4) を入力します。3 つまで登録できます。
[DNS サーバーアドレス (IPv6)]	お使いの DNS サーバーのアドレス (IPv6) を入力します。3 つまで登録できます。
[検索ドメイン名]	検索ドメイン名を自動で取得しない場合は、本機の検索ドメイン名を入力します（ASCII 文字 251 バイト以内、記号は - . のみ使用可能）。
[ダイナミック DNS]	Dynamic DNS 機能を有効にするかどうかを選びます。 お使いの DNS サーバーが Dynamic DNS 機能をサポートしている場合に [有効] を選ぶと、設定したホスト名を DNS サーバーに自動で登録したり、変更内容を自動で更新したりできます。 初期値は [無効] です。

[E-mail 設定] - [E-mail 送信 (SMTP)]

表示するには：管理者モード - [ネットワーク] - [E-mail 設定] - [E-mail 送信 (SMTP)]

本機の E-mail 送信機能に関する設定をします。

項目	説明
[E-mail 送信 (SMTP)]	本機から E-mail を送信するための設定をします。
[E-mail 送信 (SMTP)]	本機から E-mail を送信するかどうかを選びます。 初期値は [有効] です。
[E-mail 送信]	E-mail 送信機能を使うかどうかを選びます。 スキャンした原稿データを E-mail の添付ファイルとして送信できます。 初期値は [有効] です。
[E-mail 通知]	E-mail 通知機能を使うかどうかを選びます。 用紙の補給やトナー交換時期、紙づまりなど、本機で警告が発生したときに、登録したメールアドレスに通知できます。 初期値は [有効] です。
[トータルカウンター通知]	トータルカウンター通知機能を使うかどうかを選びます。 本機で管理しているカウンター情報を、登録したメールアドレスに送信できます。 初期値は [有効] です。
[SMTP サーバー自動取得]	DNS サーバーをお使いの場合に、メールサーバー (SMTP) のアドレスを自動で取得するかどうかを選びます。 初期値は [無効] です。
[SMTP サーバーアドレス]	お使いのメールサーバー (SMTP) のアドレスを入力します。 次のいずれかのフォーマットで入力します。 ・ ホスト名の入力例：「host.example.com」 ・ IP アドレス (IPv4) の入力例：「192.168.1.1」 ・ IP アドレス (IPv6) の入力例：「fe80::220:6bff:fe10:2f16」 ☐ ひとこと [SMTP サーバーアドレス] を設定する場合、[デバイスの E-mail アドレス] の入力が必要です。
[ポート番号]	必要に応じて、メールサーバー (SMTP) のポート番号を変更します。 初期値は [25] です。
[SSL/TLS]	メールサーバー (SMTP) との通信の暗号化方法を選びます。 お使いの環境に合わせて [有効] または [TLS 開始] を選びます。 初期値は [無効] です。
[ポート番号 (SSL)]	必要に応じて、SSL 通信用のポート番号を変更します。 [SSL/TLS] で [有効] を選んだ場合に設定します。 初期値は [465] です。
[接続タイムアウト]	必要に応じて、メールサーバー (SMTP) との通信のタイムアウト時間を変更します。 初期値は [60 秒] です。
[管理者の E-mail アドレス]	管理者のメールアドレスを表示します。
[デバイスの E-mail アドレス]	本機のメールアドレスを入力します (ASCII 文字 320 バイト以内)。
[最大メールサイズ]	E-mail の最大サイズを制限するかどうかを選びます。 初期値は [制限なし] です。
[サーバー容量]	[最大メールサイズ] で [制限] を選んだ場合に、メールサーバー (SMTP) が許容する E-mail の最大サイズを入力します。 ここで指定したサイズを超えた E-mail は、破棄されます。
[バイナリー分割]	大きなサイズの E-mail を送信するとき、E-mail を分割するかどうかを選びます。 メールサーバー側で、送信できる E-mail の最大容量が制限されている場合に設定します。 初期値は [オフ] です。
[メール分割サイズ]	[バイナリー分割] で [オン] を選んだ場合に、E-mail を分割するサイズを入力します。 初期値は [500] KB です。

項目	説明
[POP Before SMTP]	お使いの環境で、E-mail 送信時に POP before SMTP 認証を使っている場合に設定します。
[POP Before SMTP]	POP before SMTP を使うかどうかを選びます。 お使いの環境で、E-mail 送信時に POP before SMTP 認証を使っている場合に設定します。 初期値は [無効] です。
[POP Before SMTP 時間]	必要に応じて、POP 認証してから E-mail 送信を開始するまでの待ち時間を変更します。 初期値は [5] 秒です。
[SMTP 認証]	お使いの環境で、E-mail 送信時に SMTP 認証を使っている場合に設定します
[SMTP 認証]	SMTP 認証を使うかどうかを選びます。 初期値は [無効] です。
[アカウント]	[SMTP 認証] で [有効] を選んだ場合に、SMTP 認証のユーザー ID を入力します (255 バイト以内)。
[パスワード]	[SMTP 認証] で [有効] を選んだ場合に、パスワードを入力します (128 バイト以内)。 パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードの変更] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
[ドメイン名]	[SMTP 認証] で [有効] を選んだ場合に、SMTP 認証のドメイン名 (realm) を入力します (ASCII 文字 255 バイト以内)。 SMTP 認証の認証方式が、Digest-MD5 の場合に設定します。

[E-mail 設定] - [E-mail 受信 (POP)]

表示するには：管理者モード - [ネットワーク] - [E-mail 設定] - [E-mail 受信 (POP)]

本機の E-mail 受信機能に関する設定をします。

項目	説明
[E-mail 受信 (POP)]	本機で E-mail を受信するかどうかを選びます。 初期値は [有効] です。
[POP サーバーアドレス]	お使いのメールサーバー (POP) のアドレスを入力します。 次のいずれかのフォーマットで入力します。 ・ ホスト名の入力例：「host.example.com」 ・ IP アドレス (IPv4) の入力例：「192.168.1.1」 ・ IP アドレス (IPv6) の入力例：「fe80::220:6bff:fe10:2f16」
[ポート番号]	必要に応じて、メールサーバー (POP) のポート番号を変更します。 初期値は [110] です。
[SSL/TLS]	メールサーバー (POP) との通信に SSL を使うかどうかを選びます。 初期値は [無効] です。
[ポート番号 (SSL)]	必要に応じて、SSL 通信用のポート番号を変更します。 初期値は [995] です。
[ログイン名]	メールサーバー (POP) で E-mail を受信するときのログイン名を入力します (ASCII 文字 63 バイト以内)。
[パスワード]	パスワードを入力します (ASCII 文字 15 バイト以内)。 パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードの変更] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
[接続タイムアウト]	必要に応じて、メールサーバー (POP) との通信のタイムアウト時間を変更します。 初期値は [60 秒] です。
[APOP 認証]	メールサーバー (POP) にログインするときに APOP 認証を有効にするかどうかを選びます。 お使いの環境で、APOP をお使いの場合に設定します。 初期値は [無効] です。
[自動受信チェック]	本機からメールサーバー (POP) に定期的に接続して、E-mail の到着の有無の問い合わせをするかどうかを選びます。 初期値は [無効] です。
[受信間隔]	[自動受信チェック] で [有効] を選んだ場合に、メールサーバー (POP) に接続する間隔を設定します。 初期値は [15] 分です。

[E-mail 設定] - [S/MIME]

表示するには：管理者モード - [ネットワーク] - [E-mail 設定] - [S/MIME]

本機で S/MIME を使うための設定をします。

項目	説明
[S/MIME]	S/MIME を使うかどうかを選びます。 初期値は [無効] です。
[電子署名]	E-mail 送信時にデジタル署名を付加する場合は、デジタル署名を付加する方法を選びます。 ・ [署名を追加しない]：デジタル署名を付加しません。 ・ [常に署名を追加する]：常にデジタル署名を付加します。E-mail を送信する前に特別な設定をしなくても、自動的にデジタル署名が付加されます。 ・ [送信時に選択する]：デジタル署名を付加するかどうかを、E-mail を送信する前にユーザーに選ばせます。 初期値は [署名を追加しない] です。
[E-mail 本文の暗号化方式]	E-mail の本文の暗号化方式を選びます。 初期値は [3DES] です。
[署名タイプ]	E-mail 送信時にデジタル署名を付加する場合は、デジタル署名の認証方式を選びます。 初期値は [SHA-1] です。

[LDAP 設定] - [LDAP 設定]

表示するには：管理者モード - [ネットワーク] - [LDAP 設定] - [LDAP 設定]

LDAP サーバーから宛先を検索できるように設定します。

項目	説明
[LDAP]	宛先検索に LDAP サーバーを使うかどうかを選びます。 初期値は「無効」です。

[LDAP 設定] - [LDAP サーバー登録]

表示するには：管理者モード - [ネットワーク] - [LDAP 設定] - [LDAP サーバー登録]

宛先検索に利用する LDAP サーバーを登録します。

項目	説明
[LDAP サーバー登録]	宛先検索に利用する LDAP サーバーを登録します。
[サーバーアドレス]	LDAP サーバーのアドレスを入力します。 次のいずれかのフォーマットで入力します。 ・ ホスト名の入力例：「host.example.com」 ・ IP アドレス (IPv4) の入力例：「192.168.1.1」 ・ IP アドレス (IPv6) の入力例：「fe80::220:6bff:fe10:2f16」
[ポート番号]	必要に応じて、LDAP サーバーのポート番号を変更します。 初期値は「389」です。
[SSL/TLS]	LDAP サーバーとの通信に SSL を使うかどうかを選びます。 初期値は「無効」です。
[ポート番号 (SSL)]	必要に応じて、SSL 通信用のポート番号を変更します。 初期値は「636」です。
[サーチベース]	認証するユーザーを検索するときの、検索の起点を指定します (ASCII 文字 255 バイト以内)。 入力した起点から下のツリー構造も含めて検索します。 入力例：「cn=users,dc=example,dc=com」
[タイムアウト]	必要に応じて、LDAP サーバーとの通信のタイムアウト時間を変更します。 初期値は「60」秒です。
[最大検索数]	必要に応じて、検索結果として表示する宛先の最大数を変更します。 初期値は「100」件です。
[認証方法]	LDAP サーバーへログインするときの、認証方式を選びます。 お使いの LDAP サーバーで採用している認証方式に合わせて選びます。 初期値は「anonymous」です。
[ログイン名]	LDAP サーバーへログインして、宛先の検索が行えるログイン名を入力します (255 バイト以内)。
[パスワード]	パスワードを入力します (128 バイト以内)。 パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードの変更] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
[ドメイン名]	LDAP サーバーへログインするためのドメイン名を入力します (ASCII 文字 64 バイト以内)。 [認証方法] で [GSS-SPNEGO] を選んだ場合は、Active Directory のドメイン名を入力します。
[サーバー認証方式選択]	LDAP サーバーの認証方式を選びます。 ・ [設定値]：[ログイン名]、[パスワード]、[ドメイン名] の設定値を使います。 ・ [Dynamic 認証]：LDAP 検索をするときに、ユーザー名とパスワードが要求されます。 初期値は「設定値」です。
[Referral の使用]	必要に応じて、referral 機能を使うかどうかを選びます。 LDAP サーバーの環境に応じて設定してください。 初期値は「オン」です。
[検索条件]	LDAP 検索をするときに指定する属性を選びます。[名称] (cn) と [ニックネーム] (displayName) で切換えることができます。 初期値は「名称」です。

項目	説明
[検索詳細の初期設定]	LDAP 検索を実行する条件を指定します。 初期値はすべて [OR] です。

[HTTP 設定] - [HTTP サーバー設定]

表示するには：管理者モード - [ネットワーク] - [HTTP 設定] - [HTTP サーバー設定]

本機の HTTP サーバー機能に関する設定をします。

項目	説明
[HTTP サーバー]	本機を HTTP サーバーとして使うかどうかを選びます。 [無効] を選ぶと、Web Connection が利用できなくなります。 初期値は [有効] です。
[ポート番号]	必要に応じて、HTTP サーバーのポート番号を変更します。 初期値は [80] です。
[SSL/TLS]	HTTP サーバーとの通信に SSL を使うかどうかを選びます。 初期値は [無効] です。
[ポート番号 (SSL)]	必要に応じて、SSL 通信用のポート番号を変更します。 初期値は [443] です。

[IPP 設定]

表示するには：管理者モード - [ネットワーク] - [IPP 設定] - [IPP 設定]

IPP 印刷の使用環境を設定します。

項目	説明
[IPP 印刷]	IPP 印刷を使うかどうかを選びます。 初期値は [有効] です。
[IPP ジョブの受信]	IPP ジョブの受信を有効にするかどうかを選びます。 初期値は [有効] です。
[プリンター名]	必要に応じて、本機のプリンター名を入力します (127 バイト以内)。
[プリンターの場所]	必要に応じて、本機の設置場所を入力します (127 バイト以内)。
[プリンターの情報]	必要に応じて、本機のプリンター情報を入力します (127 バイト以内)。
[プリンター URI]	IPP を利用してプリントできるプリンターの URI を表示します。
[サポートする操作]	IPP による次の操作を許可するかどうかを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [ジョブのプリント]：印刷ジョブを許可します。 ・ [ジョブの確認]：有効ジョブの確認を許可します。 ・ [ジョブのキャンセル]：ジョブのキャンセルを許可します。 ・ [ジョブ属性の取得]：ジョブ属性の取得を許可します。 ・ [ジョブの取得]：ジョブ属性の一覧の取得を許可します。 ・ [プリンター属性の取得]：プリンター属性の取得を許可します。 初期値はすべて [ON] (チェックあり) です。
[IPP 認証]	IPP 認証の認証方式を選びます。 初期値は [要求ユーザー名] です。
[ユーザー認証名]	ユーザー名を入力します (：を除く ASCII 文字 20 バイト以内)。 [IPP 認証] で、[ベーシック認証] または [ダイジェスト認証] を選んだ場合に入力します。
[パスワード]	パスワードを入力します (ASCII 文字 20 バイト以内)。 パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードの変更] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。 [IPP 認証] で、[ベーシック認証] または [ダイジェスト認証] を選んだ場合に入力します。
[領域]	ドメイン (realm) を入力します (ASCII 文字 127 バイト以内)。 [IPP 認証] で [ダイジェスト認証] を選んだ場合に入力します。

〔FTP 設定〕 - 〔FTP サーバー設定〕

表示するには：管理者モード - 〔ネットワーク〕 - 〔FTP 設定〕 - 〔FTP サーバー設定〕

本機の FTP サーバー機能を使って通信するアプリケーションソフトウェアを利用する場合に、本機の FTP サーバー機能を設定します。

項目	説明
〔FTP サーバー〕	本機の FTP サーバー機能を使うかどうかを選びます。 初期値は〔無効〕です。
〔ポート番号〕	必要に応じて、FTP サーバーのポート番号を変更します。 初期値は〔21〕です。
〔使用禁止コマンド〕	本機の FTP サーバー機能を使うときに、FTP クライアントからの受信を拒否するコマンドを選びます。 FTP クライアントから本機に対して、PORT/EPRT コマンドまたは PASV/EPSV コマンドが送信されたとき、エラーを返すように設定できます。 初期値は〔許可〕です。
〔PORT コマンドセキュリティ強化〕	FTP バウンスアタックに対する、本機のセキュリティを有効にするかどうかを選びます。〔使用禁止コマンド〕で〔PORT/EPRT〕を選んだ場合は設定できません。 FTP クライアントから PORT/EPRT コマンドが送信されてきたときに、次の条件を両方を満たす場合だけ、データコネクションを確立します。 <ul style="list-style-type: none">・ 1024 未満のポート番号が指定されていない・ コマンドで指定された IP アドレスが、制御コネクションを確立したときに指定された IP アドレスと同じ 初期値は〔有効〕です。

〔FTP 設定〕 - 〔FTP 送信設定〕

表示するには：管理者モード - 〔ネットワーク〕 - 〔FTP 設定〕 - 〔FTP 送信設定〕

本機で FTP 送信機能を使うための設定をします。

項目	説明
〔FTP 送信〕	本機の FTP 送信機能を使うかどうかを選びます。 スキャンした原稿データを FTP サーバーへ送信できます。 初期値は〔有効〕です。
〔接続タイムアウト〕	必要に応じて、FTP サーバーとの通信のタイムアウト時間を変更します。 初期値は〔60〕秒です。
〔プロキシサーバーアドレス〕	プロキシサーバー経由で FTP サーバーにアクセスする場合は、プロキシサーバーのアドレスを入力します。 次のいずれかのフォーマットで入力します。 <ul style="list-style-type: none">・ ホスト名の入力例：「host.example.com」・ IP アドレス (IPv4) の入力例：「192.168.1.1」・ IP アドレス (IPv6) の入力例：「fe80::220:6bff:fe10:2f16」
〔プロキシサーバーのポート番号〕	必要に応じて、プロキシサーバーのポート番号を変更します。 初期値は〔21〕です。

[SNMP 設定]

表示するには：管理者モード - [ネットワーク] - [SNMP 設定] - [SNMP 設定]

SNMP (Simple Network Management Protocol) を使って、本機の情報の取得や監視をするための設定をします。

項目	説明
[SNMP 設定]	SNMP に関する設定をします。
[SNMP]	SNMP を使うかどうかを選びます。 初期値は [有効] です。
[SNMP v1/v2c (IP)]	SNMP v1 または SNMP v2 を使うかどうかを選びます。 初期値は [有効] です。
[SNMP v3 (IP)]	SNMP v3 を使うかどうかを選びます。 初期値は [有効] です。
[UDP ポート]	必要に応じて、UDP ポート番号を変更します。 初期値は [161] です。
[SNMP v1/v2c 設定]	SNMP v1/v2c に関する設定をします。
[リードコミュニティー名]	読取り専用のコミュニティー名を入力します (スペース ¥ ' " # を除く ASCII 文字 15 バイト以内)。 初期値は [public] です。
[ライト]	読み書きを許可するかどうかを選びます。 初期値は [有効] です。
[ライトコミュニティー名]	[ライト] で [有効] を選んだ場合に、読み書き可能なコミュニティー名を入力します (スペース ¥ ' " # を除く ASCII 文字 15 バイト以内)。 初期値は [private] です。

項目	説明
[SNMP v3 設定]	SNMP v3 に関する設定をします。
[コンテキスト名]	コンテキスト名を入力します（スペース ¥ ' " # を除く ASCII 文字 63 バイト以内）。
[開示]	検出用ユーザーを許可するかどうかを選びます。 初期値は [有効] です。
[開示ユーザー名]	[開示] で [有効] を選んだ場合に、検出用ユーザー名を入力します（スペース ¥ ' " # を除く ASCII 文字 32 バイト以内）。 初期値は [public] です。
[リードユーザー名]	読取り専用のユーザー名を入力します（スペース ¥ ' " # を除く ASCII 文字 32 バイト以内）。 初期値は [initial] です。
[セキュリティレベル]	読取り専用ユーザーのセキュリティレベルを選びます。 初期値は [認証パスワード / プライバシーパスワード] です。
[auth-password]	読取り専用ユーザーの認証パスワードを入力します（スペース ¥ ' " # を除く ASCII 文字 8 バイト以上、32 バイト以内）。 パスワードを入力（変更）する場合は、[パスワードの変更] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
[priv-password]	読取り専用ユーザーのプライバシーパスワードを入力します（スペース ¥ ' " # を除く ASCII 文字 8 バイト以上、32 バイト以内）。 パスワードを入力（変更）する場合は、[パスワードの変更] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
[ライトユーザー名]	読み書き可能ユーザーのユーザー名を入力します（スペース ¥ ' " # を除く ASCII 文字 32 バイト以内）。 初期値は [restrict] です。
[セキュリティレベル]	読み書き可能ユーザーのセキュリティレベルを選びます。 初期値は [認証パスワード / プライバシーパスワード] です。
[auth-password]	読み書き可能ユーザーの認証パスワードを入力します（スペース ¥ ' " # を除く ASCII 文字 8 バイト以上、32 バイト以内）。 パスワードを入力（変更）する場合は、[パスワードの変更] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
[priv-password]	読み書き可能ユーザーのプライバシーパスワードを入力します（スペース ¥ ' " # を除く ASCII 文字 8 バイト以上、32 バイト以内）。 パスワードを入力（変更）する場合は、[パスワードの変更] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
[暗号化アルゴリズム]	暗号化アルゴリズムを選びます。 初期値は [DES] です。
[認証方法]	認証アルゴリズムを選びます。 初期値は [MD5] です。
[TRAP 設定]	SNMP の TRAP 機能に関する設定をします。
[許可設定]	SNMP の TRAP 機能を使った本機の状態の通知を許可するかどうかを選びます。 初期値は [有効] です。
[認証失敗時の TRAP 設定]	認証失敗時に TRAP 送信を行うかどうかを選びます。 初期値は [無効] です。

[SMB 設定] - [WINS/NetBIOS 設定]

表示するには：管理者モード - [ネットワーク] - [SMB 設定] - [WINS/NetBIOS 設定]

名前解決のために WINS サーバーを導入している場合に、WINS サーバーを登録します。

項目	説明
[WINS/NetBIOS]	WINS サーバーを使うかどうかを選びます。 初期値は [有効] です。
[WINS 自動復帰]	WINS サーバーのアドレスを自動で取得するかどうかを選びます。 DHCP などが有効の場合に設定します。 初期値は [有効] です。
[WINS サーバーアドレス 1] [WINS サーバーアドレス 2]	WINS サーバーのアドレスを手動で指定する場合に、WINS サーバーのアドレスを入力します。 次のフォーマットで入力します。 ・ 入力例：「192.168.1.1」
[ノードタイプ]	名前解決の方法を選びます。 ・ [B ノード]：ブロードキャストで問い合わせます。 ・ [P ノード]：WINS サーバーに問い合わせます。 ・ [M ノード]：ブロードキャスト、WINS サーバーの順に問い合わせます。 ・ [H ノード]：WINS サーバー、ブロードキャストの順に問い合わせます。 初期値は [H ノード] です。

[SMB 設定] - [SMB クライアント設定]

表示するには：管理者モード - [ネットワーク] - [SMB 設定] - [SMB クライアント設定]

本機の SMB クライアント機能を使うための設定をします。

項目	説明
[SMB クライアント]	本機の SMB クライアント機能を使うかどうかを選びます。 スキャンした原稿データをコンピューターの共有フォルダーへ送信できます。 初期値は [有効] です。
[認証]	お使いの環境に合わせて、SMB 送信時の認証方式を選びます。 ・ [NTLM v1]：NTLM v1 認証を行います。NT ドメイン環境でお使いの場合に選びます。 ・ [NTLM v2]：NTLM v2 認証を行います。NT ドメイン環境でお使いの場合に選びます。 ・ [NTLM v1/v2]：NTLMv2 認証に失敗した場合に NTLMv1 認証を行います。NT ドメイン環境でお使いの場合に選びます。 ・ [Kerberos]：Kerberos 認証を行います。Active Directory ドメイン環境でお使いの場合に選びます。 ・ [Kerberos, NTLM v1/v2]：Kerberos 認証に失敗したら NTLMv2 認証を行い、NTLMv2 認証に失敗したら NTLMv1 認証を行います。Active Directory ドメインと NT ドメインの混在環境でお使いの場合に選びます。 初期値は [NTLM v1] です。
[DFS]	分散ファイルシステム (DFS、Distributed File System) を導入している場合に、DFS を使うかどうかを選びます。 初期値は [有効] です。
[デフォルトドメイン名]	SMB 送信時に宛先のホスト名に付加するデフォルトドメイン名を入力します (ASCII 文字 64 バイト以内)。 SMB 送信時に宛先のドメイン名がユーザーにより指定されていない場合は、ここで指定したドメイン名が付加されます。認証サーバーとして Active Directory をお使いの場合は入力不要です。

[SMB 設定] - [Direct Hosting 設定]

表示するには：管理者モード - [ネットワーク] - [SMB 設定] - [Direct Hosting 設定]

ダイレクトホスティング SMB サービスを有効にするかどうかを選びます。有効にすると、IP アドレス (IPv4/IPv6) またはホスト名で、通信先を指定できます。

初期値は [有効] です。

〔Web サービス設定〕 - 〔一般設定〕

表示するには：管理者モード - 〔ネットワーク〕 - 〔Web サービス設定〕 - 〔一般設定〕

Web サービスを使って本機を検出するための設定をします。

項目	説明
〔Friendly Name〕	コンピューターから Web サービスを使って探索したときに表示する本機の名前を入力します（127 バイト以内）。
〔安全モード〕	Web サービス通信に SSL を使うかどうかを選びます。 初期値は〔無効〕です。

〔Web サービス設定〕 - 〔プリンター設定〕

表示するには：管理者モード - 〔ネットワーク〕 - 〔Web サービス設定〕 - 〔プリンター設定〕

Web サービスを使って印刷するための設定をします。

項目	説明
〔プリント機能〕	WS 印刷機能を使うかどうかを選びます。 初期値は〔有効〕です。
〔プリンター名〕	WS プリンターとして使うときの、本機の名前を入力します（! ¥ , を除く 127 バイト以内）。
〔プリンターの場所〕	必要に応じて、プリンター設置場所を入力します（127 バイト以内）。
〔プリンターの情報〕	必要に応じて、プリンター情報を入力します（127 バイト以内）。

〔Web サービス設定〕 - 〔スキャナー設定〕

表示するには：管理者モード - 〔ネットワーク〕 - 〔Web サービス設定〕 - 〔スキャナー設定〕

Web サービスを使ってスキャンするための設定をします。

項目	説明
〔スキャン機能〕	WS スキャン送信機能を使うかどうかを選びます。 初期値は〔有効〕です。
〔スキャナー名〕	WS スキャナーとして使うときの、本機の名前を入力します（127 バイト以内）。
〔スキャナーの場所〕	必要に応じて、スキャナー設置場所を入力します（127 バイト以内）。
〔スキャナーの情報〕	必要に応じて、スキャナー情報を入力します（127 バイト以内）。
〔接続タイムアウト〕	必要に応じて、コンピューターとの通信のタイムアウト時間を変更します。 初期値は〔120〕秒です。

〔Bonjour 設定〕

表示するには：管理者モード - 〔ネットワーク〕 - 〔Bonjour 設定〕 - 〔Bonjour 設定〕

Mac OS 環境でお使いの場合に、Bonjour の使用環境を設定します。

項目	説明
〔Bonjour〕	Bonjour を使うかどうかを選びます。 初期値は〔有効〕です。
〔プリンター名〕	接続機器名として表示する Bonjour 名を入力します（63 バイト以内）。
〔優先プロトコル〕	Bonjour で優先的に接続するプロトコルを選びます。 初期値は〔RAW ポート〕です。

〔ネットワーク Fax 設定〕 - 〔ネットワーク Fax 機能設定〕

表示するには：管理者モード - 〔ネットワーク〕 - 〔ネットワーク Fax 設定〕 - 〔ネットワーク Fax 機能設定〕

インターネットファクスを使うかどうかを選びます。

初期値は〔有効〕です。

〔ネットワーク Fax 設定〕 - 〔I-Fax 自機受信能力〕

表示するには：管理者モード - 〔ネットワーク〕 - 〔ネットワーク Fax 設定〕 - 〔I-Fax 自機受信能力〕

インターネットファクス機能をお使いの場合、本機が MDN 応答を返すときに、本機の受信能力を通知します。必要に応じて、MDN 応答で通知する本機の受信能力を変更します。

項目	説明
〔圧縮方式〕	本機が受信できる圧縮形式を変更します。
〔用紙サイズ〕	本機が受信できる用紙サイズを表示します。
〔解像度〕	本機が受信できる解像度を変更します。

〔ネットワーク Fax 設定〕 - 〔I-Fax 拡張設定〕

表示するには：管理者モード - 〔ネットワーク〕 - 〔ネットワーク Fax 設定〕 - 〔I-Fax 拡張設定〕

インターネットファクス機能をお使いの場合に、本機から送信したファクスの到着確認（MDN/DSN）に関する設定をします。

項目	説明
〔MDN 要求〕	送信先に対して、ファクスの受信結果を要求（MDN 要求）するかどうかを選びます。 MDN 要求をする場合、送信先がファクスを受信すると、応答メッセージが返ってきて、送信先が受信したことを確認できます。 また、送信先から応答メッセージを受信することで、送信先の受信能力情報を取得することもできます。宛先に登録されている送信先からの応答メッセージを受信した場合は、取得した受信能力情報が上書き登録されます。 初期値は〔オン〕です。
〔DSN 要求〕	送信先のメールサーバーに対して、ファクスの到着結果を要求（DSN 要求）するかどうかを選びます。 〔MDN 要求〕で〔オン〕を選んだ場合は、MDN 要求を優先します。 初期値は〔オフ〕です。
〔MDN 応答〕	送信元から本機に対して、ファクスの受信結果の要求（MDN 要求）があった場合に、応答メッセージを返すかどうかを選びます。 初期値は〔オン〕です。
〔MDN/DSN 応答監視設定〕	本機から MDN 要求または DSN 要求をしたときの送信先からの応答の待ち時間を設定する場合は、チェックをつけます。 必要に応じて、〔監視時間〕で、送信先からの応答の待ち時間を変更します。 待ち時間を過ぎて受信した応答メッセージは無視されます。 初期値は〔ON〕（チェックあり）です。

〔WebDAV 設定〕 - 〔WebDAV サーバー設定〕

表示するには：管理者モード - 〔ネットワーク〕 - 〔WebDAV 設定〕 - 〔WebDAV サーバー設定〕

本機の WebDAV サーバー機能を使うための設定をします。

本機を WebDAV サーバーとして使うと、WebDAV クライアントとして動作するアプリケーションと本機を連携させることができます。

項目	説明
〔WebDAV Server〕	本機の WebDAV サーバー機能を使うかどうかを選びます。 初期値は〔有効〕です。
〔SSL/TLS〕	通信に SSL を使うかどうかを選びます。 ・ 〔Non-SSL Only〕：非 SSL 通信だけを許可します。 ・ 〔SSL Only〕：SSL 通信だけを許可します。 ・ 〔SSL/Non-SSL〕：SSL 通信と非 SSL 通信の両方を許可します。 初期値は〔Non-SSL Only〕です。
〔Access Rights Settings〕	本機の WebDAV サーバーへのアクセスを制限するパスワードを設定します (ASCII 文字 64 バイト以内)。 〔Initial Password〕を押すと、パスワードを初期値に戻すことができます。 初期値は〔sysadm〕です。

〔WebDAV 設定〕 - 〔WebDAV クライアント設定〕

表示するには：管理者モード - 〔ネットワーク〕 - 〔WebDAV 設定〕 - 〔WebDAV クライアント設定〕

本機の WebDAV クライアント機能を使うための設定をします。

項目	説明
〔WebDAV クライアント設定〕	本機の WebDAV クライアント機能を使うかどうかを選びます。 スキャンした原稿データを WebDAV サーバーへ送信できます。 初期値は〔有効〕です。
〔プロキシ〕	プロキシサーバー経由で WebDAV サーバーにアクセスする場合は、お使いのプロキシサーバーを登録します。
〔プロキシサーバーアドレス〕	プロキシサーバー経由で WebDAV サーバーにアクセスする場合は、プロキシサーバーのアドレスを入力します。 次のいずれかのフォーマットで入力します。 ・ ホスト名の入力例：〔host.example.com〕 ・ IP アドレス (IPv4) の入力例：〔192.168.1.1〕 ・ IP アドレス (IPv6) の入力例：〔fe80::220:6bff:fe10:2f16〕
〔プロキシサーバーのポート番号〕	必要に応じて、プロキシサーバーのポート番号を変更します。 初期値は〔8080〕です。
〔プロキシサーバーのユーザー名〕	プロキシサーバーへログインするためのユーザー名を入力します (ASCII 文字 63 バイト以内)。
〔プロキシサーバーのパスワード〕	パスワードを入力します (ASCII 文字 63 バイト以内)。 パスワードを入力 (変更) する場合は、〔パスワードの変更〕にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
〔接続タイムアウト〕	必要に応じて、WebDAV サーバーとの通信のタイムアウト時間を変更します。 初期値は〔60〕秒です。
〔認証〕	お使いの環境に合わせて、WebDAV 送信時の認証方式を選びます。
〔ドメイン名〕	WebDAV 送信時に宛先のホスト名に付加するデフォルトドメイン名を入力します (ASCII 文字 64 バイト以内)。

[OpenAPI 設定]

表示するには：管理者モード - [ネットワーク] - [OpenAPI 設定] - [OpenAPI 設定]

OpenAPI を介して本機と通信するアプリケーションソフトウェアを利用する場合に、本機の OpenAPI 設定をします。

項目	説明
[OpenAPI]	本機で OpenAPI を使うかどうかを選びます。 初期値は [有効] です。
[OpenAPI External]	外部のアプリケーションソフトウェアと OpenAPI を介して連携するかどうかを選びます。 初期値は [有効] です。
[ポート番号]	必要に応じて、OpenAPI 通信のポート番号を変更します。 初期値は [50001] です。
[SSL/TLS]	OpenAPI を介した通信に SSL を使うかどうかを選びます。 本機の証明書が登録されている場合に設定できます。 初期値は [非 SSL のみ可] です。
[ポート番号 (SSL/TLS)]	必要に応じて、SSL 通信用のポート番号を変更します。 初期値は [50003] です。
[認証]	OpenAPI を介したアクセスがあったときに、認証するかどうかを選びます。 認証する場合は、[ログイン名] と [パスワード] を入力します。 初期値は [オフ] です。
[ログイン名]	OpenAPI 認証で使用するログイン名を入力します（記号を除く ASCII 文字 8 バイト以内）。
[パスワード]	OpenAPI 認証で使用するパスワードを入力します（記号を除く ASCII 文字 8 バイト以内）。 パスワードを入力（変更）する場合は、[パスワードの変更] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
[プロキシ]	本機と OpenAPI を使用した他のシステムを連携させたい場合に、必要なプロキシサーバーの設定をします。
[プロキシサーバーアドレス]	プロキシサーバーのアドレスを入力します。 次のいずれかのフォーマットで入力します。 ・ ホスト名の入力例：「host.example.com」 ・ IP アドレス (IPv4) の入力例：「192.168.1.1」 ・ IP アドレス (IPv6) の入力例：「fe80::220:6bff:fe10:2f16」
[プロキシサーバーのポート番号 (HTTP)]	必要に応じて、HTTP で使用するプロキシサーバーのポート番号を変更します。 初期値は [8080] です。
[プロキシサーバーのポート番号 (HTTPS)]	必要に応じて、HTTPS で使用するプロキシサーバーのポート番号を変更します。 初期値は [8080] です。
[プロキシサーバーのポート番号 (FTP)]	必要に応じて、FTP で使用するプロキシサーバーのポート番号を変更します。 初期値は [21] です。
[プロキシサーバーのユーザー名]	プロキシサーバーへログインするためのユーザー名を入力します（ASCII 文字 63 バイト以内）。
[プロキシサーバーのパスワード]	パスワードを入力します（ASCII 文字 63 バイト以内）。 パスワードを入力（変更）する場合は、[パスワードの変更] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。

項目	説明
[指定アプリ初期起動設定]	OpenAPI アプリケーションをお使いの場合に、OpenAPI アプリケーションの起動に関する設定をします。
[指定アプリ初期起動]	本機を起動したときに、あらかじめ指定した OpenAPI アプリケーションだけを起動するかどうかを選びます。 初期値は「無効」です。 <div> <div></div> <div>ひとこと</div> </div> [起動アプリケーション設定] で OpenAPI アプリケーションを選択している場合に設定を変更できます。
[起動アプリケーション設定]	この機能を使用する場合に、起動する OpenAPI アプリケーションを指定します。 初期値は「無し」です。
[MFP 基本機能使用設定]	この機能を使用する場合に、本機の基本機能の使用を許可するかどうかを選びます。 初期値は「制限」です。

[TCP Socket 設定]

表示するには：管理者モード - [ネットワーク] - [TCP Socket 設定] - [TCP Socket 設定]

TCP Socket の使用環境を設定します。

設定	説明
[TCP Socket]	本機で TCP Socket を使うかどうかを選びます。 初期値は「有効」です。
[ポート番号]	必要に応じて、TCP Socket のポート番号を変更します。 初期値は「59158」です。
[SSL/TLS]	TCP Socket を介した通信に SSL を使うかどうかを選びます。 本機の証明書が登録されている場合に設定できます。 初期値は「非 SSL のみ可」です。 <div> <div></div> <div>ひとこと</div> </div> [セキュリティ] - [PKI 設定] - [SSL/TLS 設定] - [SSL/TLS] が「有効」に設定されている場合に設定を変更できます。
[ポート番号 (SSL/TLS)]	必要に応じて、SSL 通信用のポート番号を変更します。 初期値は「59159」です。

[LLTD 設定]

表示するには：管理者モード - [ネットワーク] - [LLTD 設定] - [LLTD 設定]

LLTD (Link Layer Topology Discovery) を使うかどうかを選びます。

LLTD を使うと、Vista 以降の Windows コンピューター (Windows Vista/7/8/8.1/Server 2008/Server 2008 R2/Server 2012/Server 2012 R2) をお使いの場合に、本機をネットワークマップに表示できます。

初期値は「有効」です。

[本体更新設定] - [HTTP プロキシ設定]

表示するには：管理者モード - [ネットワーク] - [本体更新設定] - [HTTP プロキシ設定]

(このメニューを表示するには、サービスエンジニアによる設定が必要です。詳しくは、サービス実施店にお問い合わせください。)

HTTP 経由でファームウェアをダウンロードして本体の更新を行う場合に、HTTP で使用するプロキシの設定をします。

設定	説明
[プロキシサーバーアドレス]	プロキシサーバーのアドレスを入力します。 次のいずれかのフォーマットで入力します。 ・ ホスト名の入力例：「host.example.com」 ・ IP アドレス (IPv4) の入力例：「192.168.1.1」 ・ IP アドレス (IPv6) の入力例：「fe80::220:6bff:fe10:2f16」
[プロキシサーバーのポート番号]	必要に応じて、プロキシサーバーのポート番号を変更します。 初期値は [80] です。
[プロキシ認証]	プロキシ認証を使うかどうかを選びます。 [有効] を選んだ場合は、次の設定をします。初期値は [無効] です。 ・ [プロキシサーバーのユーザー名]：プロキシサーバーにログインするための、ユーザー名を入力します (ASCII 文字 63 バイト以内)。 ・ [プロキシサーバーのパスワード]：パスワードを入力します (ASCII 文字 63 バイト以内)。

[Web Browser Settings]

表示するには：管理者モード - [ネットワーク] - [Web Browser Settings] - [Web Browser Settings]

(このメニューは、オプションの i-Option LK-101 v3 を装着している場合に表示されます。)

本機の Web ブラウザー機能を有効にするかどうかを選びます。

初期値は [有効] です。

[IWS Settings]

表示するには：管理者モード - [ネットワーク] - [IWS Settings] - [IWS Settings]

(このメニューを表示するには、サービスエンジニアによる設定が必要です。詳しくは、サービス実施店にお問い合わせください。)

本機で IWS (Internal Web Server) 機能を有効にすると、本機に Web ページコンテンツを転送し、Web サーバーとして利用できます。

Web ページコンテンツは WebDAV を使って本機に転送します。お使いの環境に合わせて、静的なコンテンツのほか、スクリプトを使った動的なコンテンツも利用できます。

設定	説明
[IWS Settings]	IWS を使用するかどうかを選びます。 初期値は [無効] です。
[Port Number (Web Server)]	必要に応じて、本機にアップロードした Web ページコンテンツにアクセスするときのポート番号を変更します。 初期値は [8090] です。
[Port Number (Application Installation)]	必要に応じて、本機の動的コンテンツが使用するポート番号を変更します。 初期値は [8091] です。
[Connect IWS Apps to Network]	本機にアップロードした Web ページコンテンツがスクリプトなどの動的コンテンツを含む場合に、動的コンテンツの外部へのアクセスを許可するかどうかを選びます。 初期値は [有効] です。

[SSDP Settings]

表示するには：管理者モード - [ネットワーク] - [SSDP Settings] - [SSDP Settings]

SSDP(Simple Service Discovery Protocol) を使うかどうかを選びます。

SSDP を使うと、本機が提供可能なサービスを、ネットワーク上のソフトウェアや他のサービスが探索できるようになります。また、本機でサービスが開始したことを通知できます。

OpenAPI などのサービスを利用するときに設定します。

設定	説明
[SSDP]	SSDP を使うかどうかを選びます。 初期値は [有効] です。

2

本機の使用環境を設定する



2 本機の使用環境を設定する

2.1 E-mail 送信の使用環境を設定する

概要

E-mail 送信は、本機で読込んだ原稿データを、E-mail の添付ファイルとして送信する機能です。

本機では、S/MIME や SSL/TLS などの暗号化や、POP before SMTP 認証などにも対応しており、セキュリティへの対策もできます。

E-mail 送信を使う場合は、次の手順で設定してください。

- 1 本機の IP アドレスの設定など、ネットワークに接続して使うための設定をする
→ 設定のしかたは、1-3 ページをごらんください。
- 2 E-mail 送信の基本設定をする
→ 設定のしかたは、2-3 ページをごらんください。
- 3 お使いの環境に応じて、次のオプション設定をする

目的	参照先
メールサーバーと SSL/TLS で通信したい	2-4 ページ
E-mail 送信時に SMTP 認証を使いたい	2-4 ページ
E-mail 送信時に POP before SMTP 認証を使いたい	2-5 ページ
S/MIME でメールを暗号化し、デジタル署名を追加したい	2-6 ページ

E-mail 送信の基本設定をする

メールサーバー（SMTP）のアドレスと、本機のメールアドレスを登録します。

管理者モードの [ネットワーク] - [E-mail 設定] - [E-mail 送信（SMTP）] で、次の設定をします。

設定	説明
[E-mail 送信（SMTP）]	E-mail を送信するときは、[有効] を選びます。 初期値は [有効] です。
[E-mail 送信]	スキャン送信を使うときは、[有効] を選びます。 初期値は [有効] です。
[SMTP サーバーアドレス]	お使いのメールサーバー（SMTP）のアドレスを入力します。 次のいずれかのフォーマットで入力します。 ・ ホスト名の入力例：「host.example.com」 ・ IP アドレス（IPv4）の入力例：「192.168.1.1」 ・ IP アドレス（IPv6）の入力例：「fe80::220:6bff:fe10:2f16」
[ポート番号]	必要に応じて、メールサーバー（SMTP）のポート番号を変更します。 通常はそのままお使いいただけます。 初期値は [25] です。
[接続タイムアウト]	必要に応じて、メールサーバー（SMTP）との通信のタイムアウト時間を変更します。 初期値は [60 秒] です。
[デバイスの E-mail アドレス]	本機のメールアドレスを入力します（ASCII 文字 320 バイト以内）。 ここで入力したメールアドレスが、本機から送信する E-mail の発信元アドレス（From アドレス）となります。
[最大メールサイズ]	お使いの環境で、送信メールのサイズを制限している場合は、[制限] を選びます。 初期値は [制限なし] です。
[サーバー容量]	[最大メールサイズ] で [制限] を選んだ場合は、添付ファイルを含めた、E-mail の最大サイズを入力します。 ここで指定したサイズを超えた E-mail は、破棄されます。 E-mail を分割するために [バイナリー分割] を設定した場合は、この設定は無効です。
[バイナリー分割]	E-mail を分割する場合はチェックをつけます。[メール分割サイズ] の容量に従って E-mail を分割します。メールサーバー側で設定された最大容量を超える E-mail を送信することがある場合に設定します。 分割された E-mail を読むには、受信するメールソフトに、分割された E-mail の復元機能が必要です。復元機能がないメールソフトでは、分割された E-mail を読めない可能性があります。 初期値は [オフ] です。
[メール分割サイズ]	E-mail を分割するサイズを入力します。[バイナリ分割] を有効にした場合に設定します。 初期値は [500] KB です。



参考

- 発信元アドレスは、必要に応じて、E-mail の送信前に操作パネルから変更できます。
- ユーザー認証を導入している場合は、ログインしたユーザーのメールアドレスが、発信元アドレスとなります。

SSL/TLS で通信する

本機とメールサーバー（SMTP）との通信を、SSL/TLS で暗号化します。本機は、SMTP over SSL と Start TLS に対応しています。

お使いの環境で、メールサーバーとの通信を SSL/TLS で暗号化している場合に設定します。

管理者モードの [ネットワーク] - [E-mail 設定] - [E-mail 送信 (SMTP)] で、次の設定をします。

設定	説明
[SSL/TLS]	メールサーバー（SMTP）との通信の暗号化方法を選びます。 お使いの環境に合わせて、[有効] または [TLS 開始] を選びます。 初期値は [無効] です。
[ポート番号 (SSL)]	[SSL/TLS] で [有効] を選んだ場合に、必要に応じて、SSL 通信用のポート番号を変更します。 通常はそのままお使いいただけます。 初期値は [465] です。

SMTP 認証を使う

お使いの環境で、E-mail 送信時に SMTP 認証を使っている場合に設定します。

SMTP 認証を使うと、E-mail 送信するときに、本機からユーザー ID とパスワードを送信して認証を行います。

SMTP 認証を使うには、本機で SMTP 認証を有効にします。あわせて、認証に必要な情報を入力します。

管理者モードの [ネットワーク] - [E-mail 設定] - [E-mail 送信 (SMTP)] で、次の設定をします。

設定	説明
[SMTP 認証]	SMTP 認証を使うときは、[有効] を選びます。 初期値は [無効] です。
[アカウント]	[SMTP 認証] で [有効] を選んだ場合に、SMTP 認証のユーザー ID を入力します (255 バイト以内)。
[パスワード]	[SMTP 認証] で [有効] を選んだ場合に、パスワードを入力します (128 バイト以内)。 パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードの変更] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
[ドメイン名]	[SMTP 認証] で [有効] を選んだ場合に、SMTP 認証のドメイン名 (realm) を入力します (ASCII 文字 255 バイト以内)。 SMTP 認証の認証方式が、Digest-MD5 の場合に設定します。

POP before SMTP 認証を使う

お使いの環境で、E-mail 送信時に POP before SMTP 認証を使っている場合に設定します。

POP before SMTP 認証は、E-mail を送信する前に、メールサーバー（POP）で POP 認証を行い、認証に成功した場合のみ E-mail 送信の許可を与える、送信者認証機能です。

POP before SMTP 認証を使うには、本機で POP before SMTP を有効にします。あわせて、認証に使うメールサーバー（POP）への接続設定を行います。

- 1 管理者モードの [ネットワーク] - [E-mail 設定] - [E-mail 送信 (SMTP)] で、次の設定をします。

設定	説明
[POP Before SMTP]	POP before SMTP を使うときは、[有効] を選びます。 初期値は [無効] です。
[POP Before SMTP 時間]	必要に応じて、POP 認証してから E-mail 送信を開始するまでの待ち時間を変更します。 お使いの環境によっては、POP 認証後、E-mail 送信が許可されるまでに時間がかかることがあります。その場合、設定時間が短すぎると、E-mail を送信できないことがあります。 初期値は [5] 秒です。

- 2 管理者モードの [ネットワーク] - [E-mail 設定] - [E-mail 受信 (POP)] で、次の設定をします。

設定	説明
[E-mail 受信 (POP)]	POP before SMTP を使うときは、[有効] を選びます。 初期値は [有効] です。
[POP サーバーアドレス]	お使いのメールサーバー（POP）のアドレスを入力します。 次のいずれかのフォーマットで入力します。 ・ ホスト名の入力例：「host.example.com」 ・ IP アドレス (IPv4) の入力例：「192.168.1.1」 ・ IP アドレス (IPv6) の入力例：「fe80::220:6bff:fe10:2f16」
[ポート番号]	必要に応じて、メールサーバー（POP）のポート番号を変更します。 通常はそのままお使いいただけます。 初期値は [110] です。
[ログイン名]	メールサーバー（POP）で E-mail を受信するときのログイン名を入力します（ASCII 文字 63 バイト以内）。
[パスワード]	パスワードを入力します（ASCII 文字 15 バイト以内）。 パスワードを入力（変更）する場合は、[パスワードの変更] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
[接続タイムアウト]	必要に応じて、メールサーバー（POP）との通信のタイムアウト時間を変更します。 初期値は [60 秒] です。

- 3 お使いの環境に応じて、POP over SSL、APOP の設定をします。管理者モードの [ネットワーク] - [E-mail 設定] - [E-mail 受信 (POP)] で、次の設定をします。

設定	説明
[SSL/TLS]	メールサーバー（POP）との通信を SSL で暗号化する場合は、[有効] を選びます。 初期値は [無効] です。
[ポート番号 (SSL)]	必要に応じて、SSL 通信用のポート番号を変更します。 通常はそのままお使いいただけます。 初期値は [995] です。
[APOP 認証]	お使いのメールサーバー（POP）で APOP をお使いの場合は、[有効] を選びます。 初期値は [無効] です。

S/MIME を使う

S/MIME は、E-mail の暗号化方式の一つです。E-mail の暗号化、デジタル署名の付加ができ、E-mail の盗聴や送信者のなりすましなどのリスクを回避できます。

S/MIME を使うには、本機に証明書を登録します。また、本機で S/MIME を有効にします。

- 1 E-mail の暗号化に使う証明書を、E-mail 送信の宛先に登録します。
→ 詳しくは、2-26 ページをごらんください。
- 2 デジタル署名として E-mail に付加する本機の証明書を登録します。
→ 詳しくは、2-38 ページをごらんください。
- 3 管理者モードの [ネットワーク] - [E-mail 設定] - [S/MIME] で、次の設定をします。

設定	説明
[S/MIME]	S/MIME を使うときは、[有効] を選びます。 初期値は [無効] です。
[電子署名]	E-mail 送信時にデジタル署名を付加する場合は、デジタル署名を付加する方法を選びます。 <ul style="list-style-type: none">・ [署名を追加しない]：デジタル署名を付加しません。・ [常に署名を追加する]：常にデジタル署名を付加します。E-mail を送信する前に特別な設定をしなくても、自動的にデジタル署名が付加されます。・ [送信時に選択する]：デジタル署名を付加するかどうかを、E-mail を送信する前にユーザーに選ばせます。 初期値は [署名を追加しない] です。
[E-mail 本文の暗号化方式]	E-mail の本文の暗号化方式を選びます。 初期値は [3DES] です。
[署名タイプ]	E-mail 送信時にデジタル署名を付加する場合は、デジタル署名の認証方式を選びます。 初期値は [SHA-1] です。

参考

S/MIME 機能を使う場合は、管理者のメールアドレス（本機の証明書のメールアドレス）が発信元アドレスとなります。

2.2 SMB 送信の使用環境を設定する

概要

SMB 送信は、本機で読込んだ原稿データを、指定したコンピューターの共有フォルダーに送信する機能です。共有フォルダーは、SMB (Server Message Block) プロトコルを使用して共有されます。

名前解決のために、WINS サーバーを導入している場合は、WINS サーバーを登録します。

ダイレクトホスティング SMB サービスを有効にすると、IP アドレス (IPv4/IPv6) またはホスト名で通信できます。ダイレクトホスティング SMB サービスを有効にすることで、IPv6 環境でも SMB 送信機能を使用できます。

LLMNR (Link-local Multicast Name Resolution) を使うと、DNS サーバーがない環境でも名前解決ができます。Vista 以降の Windows コンピューター (Windows Vista/7/8/8.1/Server 2008/Server 2008 R2/Server 2012/Server 2012 R2) で対応しています。IPv6 環境で、名前解決を行いたい場合などに便利です。

SMB 送信を使う場合は、次の手順で設定してください。

- 1 本機の IP アドレスの設定など、ネットワークに接続して使うための設定をする
→ 設定のしかたは、1-3 ページをごらんください。
- 2 SMB 送信の基本設定をする
→ 設定のしかたは、2-8 ページをごらんください。
- 3 お使いの環境に応じて、次のオプション設定をする

目的	参照先
WINS サーバーを使って名前解決したい	2-8 ページ
送信先のコンピューターを、IP アドレス、ホスト名 (FQDN) で指定したい	2-9 ページ
IPv6 環境で SMB 送信機能を使いたい	2-9 ページ
DNS サーバーが稼動していない環境で、通信先をホスト名で指定したい (Vista 以降の Windows コンピューターで対応)	2-9 ページ
DFS 環境で SMB 送信機能を使いたい	2-9 ページ



参考

- IPv6 環境でお使いの場合に SMB 送信機能を利用するには、ダイレクトホスティング SMB サービスが有効に設定されている必要があります。
- IPv4 環境でお使いの場合、ダイレクトホスティング SMB サービスの有効/無効に関わらず、SMB 送信機能を利用できます。
- ダイレクトホスティング SMB サービスが有効の場合、次のように動作します (IPv4/IPv6 環境共通)
送信先のコンピューターを IP アドレス (IPv4/IPv6) で指定できます。
送信先のコンピューターをホスト名やコンピューター名 (NetBIOS 名) で指定する場合、DNS、LLMNR、NetBIOS (送信先のコンピューターの 137 番ポート) の順に、名前解決を実行します。
送信先のコンピューターの 445 番ポート、139 番ポートの順に接続を試み、送信を実行します。
- ダイレクトホスティング SMB サービスが無効の場合、次のように動作します。
送信先のコンピューターを IP アドレス (IPv4 のみ) で指定できます。
送信先のコンピューターをコンピューター名 (NetBIOS 名) やホスト名で指定する場合、NetBIOS (送信先のコンピューターの 137 番ポート)、DNS の順に、名前解決を実行します。
送信先のコンピューターの 139 番ポートに接続し、送信を実行します。
- 送信先のコンピューターをホスト名で指定する場合は、DNS や LLMNR により名前解決できるよう本機の設定や環境を準備する必要があります。
DNS で名前解決する場合は、「ホスト名 (例 : host1)」または「FQDN (例 : host1.test.local)」で指定できます。
LLMNR で名前解決する場合は、「ホスト名 (例 : host1)」でのみ指定できます。

SMB 送信の基本設定をする

SMB 送信を有効にします。あわせて、SMB 送信時の認証方式を選びます。

管理者モードの [ネットワーク] - [SMB 設定] - [SMB クライアント設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[SMB クライアント]	SMB 送信機能を使うときは、[有効] を選びます。 初期値は [有効] です。
[認証]	お使いの環境に合わせて、SMB 送信時の認証方式を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> • [NTLM v1] / [NTLM v2] / [NTLM v1/v2] : NT ドメイン環境でお使いの場合に選びます。[NTLM v1/v2] を選ぶと、NTLMv2 認証に失敗した場合に NTLMv1 認証を行います。 • [Kerberos] : Active Directory ドメイン環境でお使いの場合に選びます。 • [Kerberos, NTLM v1/v2] : Active Directory ドメインと NT ドメインの混在環境でお使いの場合に選びます。Kerberos 認証に失敗した場合に NTLMv2 認証を行い、NTLMv2 認証に失敗した場合に NTLMv1 認証を行います。 初期値は [NTLM v1] です。
[デフォルトドメイン名]	SMB 送信時に宛先のホスト名に付加するデフォルトドメイン名を入力します (ASCII 文字 64 バイト以内)。 SMB 送信時に宛先のドメイン名がユーザーにより指定されていない場合は、ここで指定したドメイン名が付加されます。認証サーバーとして Active Directory をお使いの場合は入力不要です。



参考

- Mac OS X 10.7/10.8/10.9 をお使いの場合は、[認証] を [NTLM v1/v2] に設定してください。
- Mac OS X 10.7/10.8/10.9 をお使いの場合は、ダイレクトホスティング SMB サービスが有効に設定されている必要があります (初期値 : [有効])。詳しくは、2-9 ページをごらんください。

WINS サーバーを使う

名前解決のために WINS サーバーを導入している場合は、WINS サーバーのアドレスや、名前解決の方法を設定します。

管理者モードの [ネットワーク] - [SMB 設定] - [WINS/NetBIOS 設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[WINS/NetBIOS]	WINS サーバーを使うときは、[有効] を選びます。 初期値は [有効] です。
[WINS 自動復帰]	WINS サーバーのアドレスを自動的に取得する場合は、[有効] を選びます。 DHCP などが有効の場合に設定します。 初期値は [有効] です。
[WINS サーバーアドレス 1] [WINS サーバーアドレス 2]	WINS サーバーのアドレスを入力します。 WINS サーバーのアドレスを、DHCP などで自動的に取得しない場合に設定します。 次のフォーマットで入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • 入力例 : 「192.168.1.1」
[ノードタイプ]	名前解決の方法を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> • [B ノード] : ブロードキャストで問い合わせ • [P ノード] : WINS サーバーに問い合わせ • [M ノード] : ブロードキャスト、WINS サーバーの順に問い合わせ • [H ノード] : WINS サーバー、ブロードキャストの順に問い合わせ 初期値は [H ノード] です。

ダイレクトホスティング SMB サービスを使う

ダイレクトホスティング SMB サービスを有効にすると、IP アドレス (IPv4/IPv6) またはホスト名で、通信先を指定できます。

管理者モードの [ネットワーク] - [SMB 設定] - [Direct Hosting 設定] で、[Direct Hosting] を [有効] に設定します。

LLMNR で名前解決する

LLMNR (Link-local Multicast Name Resolution) を使うと、DNS サーバーがない環境でも名前解決ができます。Vista 以降の Windows コンピューター (Windows Vista/7/8/8.1/Server 2008/Server 2008 R2/Server 2012/Server 2012 R2) で対応しています。IPv6 環境で、名前解決を行いたい場合などに便利です。

管理者モードの [ネットワーク] - [TCP/IP 設定] - [TCP/IP 設定] で、[LLMNR] を [有効] に設定します。



参考

LLMNR で名前解決を行うには、ダイレクトホスティング SMB サービスを有効に設定する必要があります。

DFS 環境で使う

お使いの環境で、DFS (Distributed File System) を導入している場合に、設定します。

管理者モードの [ネットワーク] - [SMB 設定] - [SMB クライアント設定] で、[DFS] を [有効] に設定します。

2.3 FTP 送信の使用環境を設定する

概要

FTP 送信は、本機で読込んだ原稿データを、FTP サーバーの指定したフォルダーに送信する機能です。

プロキシサーバーを使っている場合は、プロキシサーバー経由で FTP サーバーにアクセスするように設定できます。

FTP 送信を使う場合は、次の手順で設定してください。

- 1 本機の IP アドレスの設定など、ネットワークに接続して使うための設定をする
→ 設定のしかたは、1-3 ページをごらんください。
- 2 FTP 送信の基本設定をする
→ 設定のしかたは、2-10 ページをごらんください。
- 3 お使いの環境に応じて、次のオプション設定をする

目的	参照先
プロキシサーバーを経由して FTP サーバーへ送信したい	2-10 ページ

FTP 送信の基本設定をする

FTP 送信を有効にします。あわせて、FTP サーバーに接続するための設定をします。

管理者モードの [ネットワーク] - [FTP 設定] - [FTP 送信設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[FTP 送信]	FTP 送信機能を使うときは、[有効] を選びます。 初期値は [有効] です。
[接続タイムアウト]	必要に応じて、FTP サーバーとの通信のタイムアウト時間を変更します。 初期値は [60] 秒です。

プロキシサーバーを使う

お使いのネットワーク環境でプロキシサーバーを使っている場合に、プロキシサーバー経由で FTP サーバーにアクセスするように設定できます。

プロキシサーバーを使うには、本機にプロキシサーバーの情報を登録します。

管理者モードの [ネットワーク] - [FTP 設定] - [FTP 送信設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[プロキシサーバーアドレス]	プロキシサーバーのアドレスを入力します。 次のいずれかのフォーマットで入力します。 <ul style="list-style-type: none">・ ホスト名の入力例: 「host.example.com」・ IP アドレス (IPv4) の入力例: 「192.168.1.1」・ IP アドレス (IPv6) の入力例: 「fe80::220:6bff:fe10:2f16」
[プロキシサーバーのポート番号]	必要に応じて、プロキシサーバーのポート番号を変更します。 初期値は [21] です。

2.4 WebDAV 送信の使用環境を設定する

概要

WebDAV 送信は、本機で読込んだ原稿データを、WebDAV サーバー内の指定したフォルダーに送信する機能です。

WebDAV は HTTP の拡張仕様であるため、HTTP のセキュリティ技術をそのまま使えます。WebDAV サーバーとの通信を SSL で暗号化すれば、より安全にファイルを送信できます。

WebDAV 送信を使う場合は、次の手順で設定してください。

- 1 本機の IP アドレスの設定など、ネットワークに接続して使うための設定をする
→ 設定のしかたは、1-3 ページをごらんください。
- 2 WebDAV 送信の基本設定をする
→ 設定のしかたは、2-12 ページをごらんください。
- 3 お使いの環境に応じて、次のオプション設定をする

目的	参照先
プロキシサーバーを経由して WebDAV サーバーへ送信したい	2-12 ページ
WebDAV サーバーと SSL で通信したい	2-12 ページ

WebDAV 送信の基本設定をする

WebDAV 送信を有効にします。あわせて、WebDAV サーバーへの接続に関する設定を行います。

管理者モードの [ネットワーク] - [WebDAV 設定] - [WebDAV クライアント設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[WebDAV クライアント設定]	WebDAV 送信機能を使うときは、[有効] を選びます。 初期値は [有効] です。
[接続タイムアウト]	必要に応じて、WebDAV サーバーとの通信のタイムアウト時間を変更します。 初期値は [60] 秒です。
[ドメイン名]	WebDAV 送信時に宛先のホスト名に付加するデフォルトドメイン名を入力します (ASCII 文字 64 バイト以内)。

プロキシサーバーを使う

お使いのネットワーク環境でプロキシサーバーを使っている場合に、プロキシサーバー経由で WebDAV サーバーにアクセスするように設定できます。

プロキシサーバーを使うには、本機にプロキシサーバーの情報を登録します。あわせて、プロキシサーバーへの接続に関する設定を行います。

管理者モードの [ネットワーク] - [WebDAV 設定] - [WebDAV クライアント設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[プロキシサーバーアドレス]	プロキシサーバーのアドレスを入力します。 次のいずれかのフォーマットで入力します。 <ul style="list-style-type: none">・ ホスト名の入力例: 「host.example.com」・ IP アドレス (IPv4) の入力例: 「192.168.1.1」・ IP アドレス (IPv6) の入力例: 「fe80::220:6bff:fe10:2f16」
[プロキシサーバーのポート番号]	必要に応じて、プロキシサーバーのポート番号を変更します。 初期値は [8080] です。
[プロキシサーバーのユーザー名]	プロキシサーバーへログインするためのユーザー名を入力します (ASCII 文字 63 バイト以内)。
[プロキシサーバーのパスワード]	パスワードを入力します (ASCII 文字 63 バイト以内)。 パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードの変更] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。

SSL で通信する

本機と WebDAV サーバーとの通信を、SSL で暗号化します。

お使いの環境で、WebDAV サーバーとの通信を SSL で暗号化している場合に設定します。

管理者モードの [宛先] - [アドレス帳] で [WebDAV] を選び、[SSL] を [オン] に設定します (初期値: [オフ])。

2.5 WS スキャン送信の使用環境を設定する

概要

WS スキャン送信は、Vista 以降の Windows コンピューター（Windows Vista/7/8/8.1/Server 2008/Server 2008 R2/Server 2012/Server 2012 R2）で、本機で読込んだ原稿データを、ネットワーク上のコンピューターへ送信する機能です。

コンピューターでは、Windows の Web サービス機能を利用して、ネットワークに接続された本機を自動的に検出して、Web サービススキャナーとして簡単にインストールできます。

本機とコンピューターとの通信には、HTTP を使います。本機とコンピューターとの通信を SSL で暗号化すれば、より安全にファイルを送信できます。

WS スキャン送信を使う場合は、次の手順で設定してください。

- 1 本機の IP アドレスの設定など、ネットワークに接続して使うための設定をする
→ 設定のしかたは、1-3 ページをごらんください。
- 2 WS スキャン送信の基本設定をする
→ 設定のしかたは、2-14 ページをごらんください。
- 3 お使いの環境に応じて、次のオプション設定をする

目的	参照先
コンピューターと SSL で通信したい	2-14 ページ



参照

コンピューター側の設定について詳しくは、[ユーザズガイド スキャン機能編] をごらんください。

WS スキャン送信の基本設定をする

Web サービスによるスキャンを有効にします。あわせて、Web サービスを使って本機を検出するための設定や、スキャナーとしての本機の情報、本機との接続方法などを設定します。

- 1 管理者モードの [ネットワーク] - [Web サービス設定] - [一般設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[Friendly Name]	コンピューターから Web サービスを使って探索したときに表示する本機の名前を入力します (127 バイト以内)。

- 2 管理者モードの [ネットワーク] - [Web サービス設定] - [スキャナー設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[スキャン機能]	WS スキャン送信機能を使うときは、[有効] を選びます。 初期値は [有効] です。
[スキャナー名]	WS スキャナーとして使うときの、本機の名前を入力します (127 バイト以内)。
[スキャナーの場所]	必要に応じて、スキャナー設置場所を入力します (127 バイト以内)。
[スキャナーの情報]	必要に応じて、スキャナー情報を入力します (127 バイト以内)。
[接続タイムアウト]	必要に応じて、コンピューターとの通信のタイムアウト時間を変更します。 初期値は [120] 秒です。

SSL で通信する

本機とコンピューターとの通信を、SSL で暗号化します。

本機とコンピューターとの通信を暗号化するには、双方向で SSL 通信の設定を行う必要があります。あらかじめ、以下の確認をしてください。

- DNS サーバーで名前解決を行っている必要があります。
- 本機の証明書が CA (認証局) により発行されたものでない場合は、本機の証明書を、コンピューターの [信頼されたルート証明機関] に登録してください。
- あらかじめコンピューター側で証明書を作成して、TCP/IP の通信ポートと関連付けてください (初期値: ポート番号 5358)。

SSL で通信するには、SSL を有効にします。

管理者モードの [ネットワーク] - [Web サービス設定] - [一般設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[安全モード]	SSL で通信するときは、[有効] を選びます。 初期値は [無効] です。



参考

Windows 8/8.1 をお使いの場合、Web サービスを使った通信を SSL で暗号化することはできません。

2.6 WS 印刷の使用環境を設定する

概要

Vista 以降の Windows コンピューター（Windows Vista/7/8/8.1/Server 2008/Server 2008 R2/Server 2012/Server 2012 R2）で利用可能な Web サービス機能を使うと、ネットワークに接続された本機を自動的に検出して、Web サービスプリンターとして簡単にインストールできます。

本機とコンピューターとの通信には、HTTP を使います。本機とコンピューターとの通信を SSL で暗号化すれば、より安全に印刷できます。

WS 印刷を使う場合は、次の手順で設定してください。

- 1 本機の IP アドレスの設定など、ネットワークに接続して使うための設定をする
→ 設定のしかたは、1-3 ページをごらんください。
- 2 WS 印刷の基本設定をする
→ 設定のしかたは、2-16 ページをごらんください。
- 3 お使いの環境に応じて、次のオプション設定をする

目的	参照先
コンピューターと SSL で通信したい	2-16 ページ

参照

コンピューター側の設定について詳しくは、3-19 ページをごらんください。

WS 印刷の基本設定をする

Web サービスによる印刷を有効にします。あわせて、Web サービスを使って本機を検出するための設定や、プリンターとしての本機の情報などを設定します。

- 1 管理者モードの [ネットワーク] - [Web サービス設定] - [一般設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[Friendly Name]	コンピューターから Web サービスを使って探索したときに表示する本機の名前を入力します (127 バイト以内)。

- 2 管理者モードの [ネットワーク] - [Web サービス設定] - [プリンター設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[プリント機能]	WS 印刷機能を使うときは、[有効] を選びます。 初期値は [有効] です。
[プリンター名]	WS プリンターとして使うときの、本機の名前を入力します (! ¥ , を除く 127 バイト以内)。
[プリンターの場所]	必要に応じて、プリンター設置場所を入力します (127 バイト以内)。
[プリンターの情報]	必要に応じて、プリンター情報を入力します (127 バイト以内)。

SSL で通信する

本機とコンピューターとの通信を、SSL で暗号化します。

本機とコンピューターとの通信を暗号化するには、双方向で SSL 通信の設定を行う必要があります。あらかじめ、以下の確認をしてください。

- DNS サーバーで名前解決を行っている必要があります。
- 本機の証明書が CA (認証局) により発行されたものでない場合は、本機の証明書を、コンピューターの [信頼されたルート証明機関] に登録してください。
- あらかじめコンピューター側で証明書を作成して、TCP/IP の通信ポートと関連付けてください (初期値: ポート番号 5358)。

SSL で通信するには、SSL を有効にします。

管理者モードの [ネットワーク] - [Web サービス設定] - [一般設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[安全モード]	SSL で通信するときは、[有効] を選びます。 初期値は [無効] です。



参考

Windows 8/8.1 をお使いの場合、Web サービスを使った通信を SSL で暗号化することはできません。

2.7 インターネットファクスの使用環境を設定する

概要

インターネットファクスは、企業内ネットワークやインターネットを通じて、ファクスを送受信する機能です。インターネットファクスは、E-mail で送受信します。コンピューターと同じネットワークを使うので、遠隔地へ送信するときや、原稿の枚数が多いときでも、通信費を気にせず送受信できます。

本機では、SSL/TLS などの暗号化や、POP before SMTP 認証などにも対応しており、セキュリティへの対策もできます。

インターネットファクスを使う場合は、次の手順で設定してください。

- 1 本機の IP アドレスの設定など、ネットワークに接続して使うための 設定をする
→ 設定のしかたは、1-3 ページをごらんください。
- 2 インターネットファクス送受信の基本設定をする
→ 設定のしかたは、2-18 ページをごらんください。
- 3 お使いの環境に応じて、次のオプション設定をする

目的	参照先
ファクスの到着確認をしたい	2-20 ページ
通信相手に通知する本機の受信能力を変更したい	2-20 ページ
メールサーバーと SSL/TLS で通信したい	2-21 ページ
E-mail 送信時に SMTP 認証を使いたい	2-21 ページ
E-mail 送信時に POP before SMTP 認証を使いたい	2-22 ページ

インターネットファックス送受信の基本設定をする

インターネットファックス機能を有効にします。あわせて、本機の情報や、E-mail の送受信に必要な設定をします。

- 1 管理者モードの [ネットワーク] - [ネットワーク Fax 設定] - [ネットワーク Fax 機能設定] で、[I-Fax] を [有効] に設定します。

- 2 管理者モードの [システム] - [マシン設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[デバイス名]	本機の名前を入力します (127 バイト以内)。 ここで設定した名前が、インターネットファックスの件名の一部として使われます。

- 3 管理者モードの [システム] - [発信元登録] - [発信元登録] で、次の設定をします。

設定	説明
[発信元]	ファックスを送信するときに、発信元情報として印字する本機の名前や会社名 (発信元名) を入力します (30 バイト以内)。

- 4 管理者モードの [ネットワーク] - [E-mail 設定] - [E-mail 送信 (SMTP)] で、次の設定をします。

設定	説明
[E-mail 送信 (SMTP)]	インターネットファックスを使うときは、[有効] を選びます。 初期値は [有効] です。
[E-mail 送信]	インターネットファックスを使うときは、[有効] を選びます。 初期値は [有効] です。
[SMTP サーバーアドレス]	お使いのメールサーバー (SMTP) のアドレスを入力します。 次のいずれかのフォーマットで入力します。 ・ ホスト名の入力例: 「host.example.com」 ・ IP アドレス (IPv4) の入力例: 「192.168.1.1」 ・ IP アドレス (IPv6) の入力例: 「fe80::220:6bff:fe10:2f16」
[ポート番号]	必要に応じて、メールサーバー (SMTP) のポート番号を変更します。 通常はそのままお使いいただけます。 初期値は [25] です。
[接続タイムアウト]	必要に応じて、メールサーバー (SMTP) との通信のタイムアウト時間を変更します。 初期値は [60 秒] です。
[デバイスの E-mail アドレス]	本機のメールアドレスを入力します (ASCII 文字 320 バイト以内)。 このメールアドレスが、インターネットファックスの発信元アドレスとして使われます。
[最大メールサイズ]	お使いの環境で、送信メールのサイズを制限している場合は、[制限] を選びます。 初期値は [制限なし] です。
[サーバー容量]	[最大メールサイズ] で [制限] を選んだ場合は、添付ファイルを含めた、E-mail の最大サイズを入力します。 ここで指定したサイズを超えた E-mail は、破棄されます。 E-mail を分割するために [バイナリー分割] を設定した場合は、この設定は無効です。
[バイナリー分割]	E-mail を分割する場合は [オン] を選びます。[メール分割サイズ] の容量に従って E-mail を分割します。メールサーバー側で設定された最大容量を超える E-mail を送信することがある場合に設定します。 分割された E-mail を読むには、受信するメールソフトに、分割された E-mail の復元機能が必要です。復元機能がないメールソフトでは、分割された E-mail を読めない可能性があります。 初期値は [オフ] です。
[メール分割サイズ]	E-mail を分割するサイズを入力します。[バイナリー分割] を有効にした場合に設定します。 初期値は [500] KB です。

5 管理者モードの [ネットワーク] - [E-mail 設定] - [E-mail 受信 (POP)] で、次の設定をします。

設定	説明
[E-mail 受信 (POP)]	インターネットファックスを使うときは、[有効] を選びます。 初期値は [有効] です。
[POP サーバーアドレス]	お使いのメールサーバー (POP) のアドレスを入力します。 次のいずれかのフォーマットで入力します。 <ul style="list-style-type: none">・ ホスト名の入力例: 「host.example.com」・ IP アドレス (IPv4) の入力例: 「192.168.1.1」・ IP アドレス (IPv6) の入力例: 「fe80::220:6bff:fe10:2f16」
[ポート番号]	必要に応じて、メールサーバー (POP) のポート番号を変更します。 通常はそのままお使いいただけます。 初期値は [110] です。
[ログイン名]	メールサーバー (POP) で E-mail を受信するときのログイン名を入力します (ASCII 文字 63 バイト以内)。
[パスワード]	パスワードを入力します (ASCII 文字 15 バイト以内)。 パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードの変更] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
[接続タイムアウト]	必要に応じて、メールサーバー (POP) との通信のタイムアウト時間を変更します。 初期値は [60 秒] です。
[自動受信チェック]	本機からメールサーバー (POP) に定期的に接続して、ファックスの到着の有無の問い合わせをするかどうかを選びます。 初期値は [無効] です。
[受信間隔]	[自動受信チェック] で [有効] を選んだ場合に、メールサーバー (POP) に接続する間隔を設定します。 初期値は [15] 分です。

ファックスの到着確認をする

インターネットファックスを送受信した結果を要求または応答したり、装置の能力情報の交換に関する設定をします。

管理者モードの [ネットワーク] - [ネットワーク Fax 設定] - [I-Fax 拡張設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[MDN 要求]	送信先に対して、ファックスの受信結果を要求（MDN 要求）するかどうかを選びます。 MDN 要求をする場合、送信先がファックスを受信すると、応答メッセージが返ってきて、送信先が受信したことを確認できます。 また、送信先から応答メッセージを受信することで、送信先の受信能力情報を取得することもできます。宛先に登録されている送信先からの応答メッセージを受信した場合は、取得した受信能力情報が上書き登録されます。 初期値は [オン] です。
[DSN 要求]	送信先のメールサーバーに対して、ファックスの到着結果を要求（DSN 要求）するかどうかを選びます。 [MDN 要求] で [オン] を選んだ場合は、MDN 要求を優先します。 初期値は [オフ] です。
[MDN 応答]	送信元から本機に対して、ファックスの受信結果の要求（MDN 要求）があった場合に、応答メッセージを返すかどうかを選びます。 初期値は [オン] です。
[MDN/DSN 応答監視設定]	本機から MDN 要求または DSN 要求をしたときの送信先からの応答の待ち時間を設定する場合は、チェックをつけます。 必要に応じて、[監視時間] で、送信先からの応答の待ち時間を変更します。 待ち時間を過ぎて受信した応答メッセージは無視されます。 初期値は [ON]（チェックあり）です。

本機の受信能力を設定する

本機が MDN 応答を返すときに、本機の受信能力を通知します。必要に応じて、MDN 応答で通知する内容を変更します。

管理者モードの [ネットワーク] - [ネットワーク Fax 設定] - [I-Fax 自機受信能力] で、次の設定をします。

設定	説明
[圧縮方式]	本機が受信できる圧縮形式を変更します。
[用紙サイズ]	本機が受信できる用紙サイズを表示します。
[解像度]	本機が受信できる解像度を変更します。

SSL/TLS で通信する

本機とメールサーバー（SMTP）との通信を、SSL/TLS で暗号化します。本機は、SMTP over SSL と Start TLS に対応しています。

お使いの環境で、メールサーバーとの通信を SSL/TLS で暗号化している場合に設定します。

管理者モードの [ネットワーク] - [E-mail 設定] - [E-mail 送信 (SMTP)] で、次の設定をします。

設定	説明
[SSL/TLS]	メールサーバー（SMTP）との通信の暗号化方法を選びます。 お使いの環境に合わせて、[有効] または [TLS 開始] を選びます。 初期値は [無効] です。
[ポート番号 (SSL)]	[SSL/TLS] で [有効] を選んだ場合に、必要に応じて、SSL 通信用のポート番号を変更します。 通常はそのままお使いいただけます。 初期値は [465] です。

重要

他社機へ送信する場合は、SSL/TLS を使用しないでください。SSL/TLS を使用して送信すると、エラーになります。

SMTP 認証を使う

お使いの環境で、E-mail 送信時に SMTP 認証を使っている場合に設定します。

SMTP 認証を使うと、E-mail 送信するときに、本機からユーザー ID とパスワードを送信して認証を行います。

SMTP 認証を使うには、本機で SMTP 認証を有効にします。あわせて、認証に必要な情報を入力します。

管理者モードの [ネットワーク] - [E-mail 設定] - [E-mail 送信 (SMTP)] で、次の設定をします。

設定	説明
[SMTP 認証]	SMTP 認証を使うときは、[有効] を選びます。 初期値は [無効] です。
[アカウント]	[SMTP 認証] で [有効] を選んだ場合に、SMTP 認証のユーザー ID を入力します (255 バイト以内)。
[パスワード]	[SMTP 認証] で [有効] を選んだ場合に、パスワードを入力します (128 バイト以内)。 パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードの変更] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
[ドメイン名]	[SMTP 認証] で [有効] を選んだ場合に、SMTP 認証のドメイン名 (realm) を入力します (ASCII 文字 255 バイト以内)。 SMTP 認証の認証方式が、Digest-MD5 の場合に設定します。

POP before SMTP 認証を使う

お使いの環境で、E-mail 送信時に POP before SMTP 認証を使っている場合に設定します。

POP before SMTP 認証は、E-mail を送信する前に、メールサーバー（POP）で POP 認証を行い、認証に成功した場合のみ E-mail 送信の許可を与える、送信者認証機能です。

POP before SMTP 認証を使うには、本機で POP before SMTP を有効にします。あわせて、認証に使うメールサーバー（POP）への接続設定を行います。

- 1 管理者モードの [ネットワーク] - [E-mail 設定] - [E-mail 送信 (SMTP)] で、次の設定をします。

設定	説明
[POP Before SMTP]	POP before SMTP を使うときは、[有効] を選びます。 初期値は [無効] です。
[POP Before SMTP 時間]	必要に応じて、POP 認証してから E-mail 送信を開始するまでの待ち時間を変更します。 お使いの環境によっては、POP 認証後、E-mail 送信が許可されるまでに時間がかかることがあります。その場合、設定時間が短すぎると、E-mail を送信できないことがあります。 初期値は [5] 秒です。

- 2 管理者モードの [ネットワーク] - [E-mail 設定] - [E-mail 受信 (POP)] で、次の設定をします。

設定	説明
[E-mail 受信 (POP)]	POP before SMTP を使うときは、[有効] を選びます。 初期値は [有効] です。
[POP サーバーアドレス]	お使いのメールサーバー（POP）のアドレスを入力します。 次のいずれかのフォーマットで入力します。 ・ ホスト名の入力例：「host.example.com」 ・ IP アドレス (IPv4) の入力例：「192.168.1.1」 ・ IP アドレス (IPv6) の入力例：「fe80::220:6bff:fe10:2f16」
[ポート番号]	必要に応じて、メールサーバー（POP）のポート番号を変更します。 通常はそのままお使いいただけます。 初期値は [110] です。
[ログイン名]	メールサーバー（POP）で E-mail を受信するときのログイン名を入力します（ASCII 文字 63 バイト以内）。
[パスワード]	パスワードを入力します（ASCII 文字 15 バイト以内）。 パスワードを入力（変更）する場合は、[パスワードの変更] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
[接続タイムアウト]	必要に応じて、メールサーバー（POP）との通信のタイムアウト時間を変更します。 初期値は [60 秒] です。

- 3 お使いの環境に応じて、POP over SSL、APOP の設定をします。管理者モードの [ネットワーク] - [E-mail 設定] - [E-mail 受信 (POP)] で、次の設定をします。

設定	説明
[SSL/TLS]	メールサーバー（POP）との通信を SSL で暗号化する場合は、[有効] を選びます。 初期値は [無効] です。
[ポート番号 (SSL)]	必要に応じて、SSL 通信用のポート番号を変更します。 通常はそのままお使いいただけます。 初期値は [995] です。
[APOP 認証]	お使いのメールサーバー（POP）で APOP をお使いの場合は、[有効] を選びます。 初期値は [無効] です。

2.8 LDAP サーバーを使って宛先を検索する

概要

LDAP サーバーや Active Directory などのディレクトリサーバーでユーザーを管理している場合は、サーバーから宛先（メールアドレス、ファクス番号）を検索できます。

サーバーとの通信を SSL で暗号化すれば、より安全に通信できます。

LDAP サーバーを使って宛先を検索する場合は、次の手順で設定してください。

- ✓ Active Directory サーバーの LDAP 機能を利用する場合は、あらかじめ本機に、Active Directory と連携している DNS サーバーの登録が必要です。
- ✓ Active Directory サーバーの LDAP 機能を利用する場合は、本機と Active Directory とで、日時を合わせる必要があります。

- 1 本機の IP アドレスの設定など、ネットワークに接続して使うための設定をする
→ 設定のしかたは、1-3 ページをごらんください。
- 2 LDAP 検索の基本設定をする
→ 設定のしかたは、2-24 ページをごらんください。
- 3 お使いの環境に応じて、次のオプション設定をする

目的	参照先
LDAP サーバーと SSL で通信したい	2-25 ページ

LDAP 検索の基本設定をする

LDAP サーバーから宛先を検索できるように設定します。あわせて、お使いの LDAP サーバーの登録や、LDAP サーバーへの接続設定、検索方法の設定などを行います。

- 1 管理者モードの [ネットワーク] - [LDAP 設定] - [LDAP 設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[LDAP]	LDAP 検索を使うときは、[有効] を選びます。 初期値は [無効] です。

- 2 管理者モードの [ネットワーク] - [LDAP 設定] - [LDAP サーバー登録] で、次の設定をします。

項目	説明
[LDAP サーバー登録]	宛先検索に利用する LDAP サーバーを登録します。
[サーバーアドレス]	LDAP サーバーのアドレスを入力します。 次のいずれかのフォーマットで入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • ホスト名の入力例：「host.example.com」 • IP アドレス (IPv4) の入力例：「192.168.1.1」 • IP アドレス (IPv6) の入力例：「fe80::220:6bff:fe10:2f16」
[ポート番号]	必要に応じて、LDAP サーバーのポート番号を変更します。 通常はそのままお使いいただけます。 初期値は [389] です。
[サーチベース]	認証するユーザーを検索するときの、検索の起点を指定します (ASCII 文字 255 バイト以内)。 入力した起点から下のツリー構造も含めて検索します。 入力例：「cn=users,dc=example,dc=com」
[タイムアウト]	必要に応じて、LDAP サーバーとの通信のタイムアウト時間を変更します。 初期値は [60] 秒です。
[最大検索数]	必要に応じて、検索結果として表示する宛先の最大数を変更します。 初期値は [100] 件です。
[認証方法]	LDAP サーバーへログインするときの、認証方式を選びます。 お使いの LDAP サーバーで採用している認証方式に合わせて選びます。 初期値は [anonymous] です。
[ログイン名]	LDAP サーバーへログインして、宛先の検索が行えるログイン名を入力します (255 バイト以内)。
[パスワード]	パスワードを入力します (128 バイト以内)。 パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードの変更] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
[ドメイン名]	LDAP サーバーへログインするためのドメイン名を入力します (ASCII 文字 64 バイト以内)。 [認証方法] で [GSS-SPNEGO] を選んだ場合は、Active Directory のドメイン名を入力します。
[サーバー認証方式選択]	LDAP サーバーの認証方式を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> • [設定値]：[ログイン名]、[パスワード]、[ドメイン名] の設定値を使います。 • [Dynamic 認証]：LDAP 検索をするときに、ユーザー名とパスワードが要求されます。 初期値は [設定値] です。
[Referral の使用]	必要に応じて、referral 機能を使うかどうかを選びます。 LDAP サーバーの環境に応じて設定してください。 初期値は [オン] です。
[検索条件]	LDAP 検索をするときに指定する属性を選びます。[名称] (cn) と [ニックネーム] (displayName) で切換えることができます。 初期値は [名称] です。
[検索詳細の初期設定]	LDAP 検索を実行する条件を指定します。 初期値はすべて [OR] です。

SSL で通信する

本機と LDAP サーバーとの通信を、SSL で暗号化します。

お使いの環境で、LDAP サーバーとの通信を SSL で暗号化している場合に設定します。SSL で通信するには、SSL を有効にします。

管理者モードの [ネットワーク] - [LDAP 設定] - [LDAP サーバー登録] で、次の設定をします。

設定	説明
[SSL/TLS]	SSL で通信するときは、[有効] を選びます。 初期値は [無効] です。
[ポート番号 (SSL)]	必要に応じて、SSL 通信用のポート番号を変更します。 通常はそのままお使いいただけます。 初期値は [636] です。

2.9 宛先を登録する

2.9.1 短縮宛先を登録する

E-mail 宛先を登録する

Web Connection から、E-mail 宛先を登録／編集できます。

S/MIME 機能を使う場合は、E-mail 宛先にユーザーの証明書を登録できます。

管理者モードの [宛先] - [アドレス帳] - [アドレス帳一覧] - [新規登録] - [E-mail] - [次へ] をクリックし、次の設定をします。

設定	説明
[番号]	宛先の登録番号です。0 を入力すると、空いている小さい数字から自動的に登録されます。番号を指定したいときは、1 ～ 2000 の範囲で入力します。
[名称]	宛先の名前を入力します（72 バイト以内）。
[インデックス]	宛先を登録名でインデックス検索できるように、該当する文字を選びます。よく使う宛先は、[常用] にチェックをつけておくと、宛先の指定が簡単になります。
[E-mail アドレス]	宛先とするメールアドレスを入力します（ASCII 文字 320 バイト以内）。
[S/MIME 証明書]	S/MIME で使用する証明書の登録と削除を行います。 [証明書の編集] にチェックをつけ、[証明書の登録] または [証明書の削除] を選びます。 <ul style="list-style-type: none">証明書を登録するには、登録する宛先のメールアドレスと、証明書のメールアドレスが、一致している必要があります。証明書情報は、DER（Distinguished Encoding Rules）形式のファイルだけサポートしています。
[宛先制限]	必要に応じて、この宛先の参照を制限します。 詳しくは、2-41 ページをごらんください。

FTP 宛先を登録する

Web Connection から、FTP 宛先を登録／編集できます。

管理者モードの [宛先] - [アドレス帳] - [アドレス帳一覧] - [新規登録] - [FTP] - [次へ] をクリックし、次の設定をします。

設定	説明
[番号]	宛先の登録番号です。0 を入力すると、空いている小さい数字から自動的に登録されます。番号を指定したいときは、1 ～ 2000 の範囲で入力します。
[名称]	宛先の名前を入力します（72 バイト以内）。
[インデックス]	宛先を登録名でインデックス検索できるように、該当する文字を選びます。よく使う宛先は、[常用] にチェックをつけておくと、宛先の指定が簡単になります。
[ホストアドレス]	宛先とする FTP サーバーのホスト名または IP アドレスを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ホスト名の入力例：「host.example.com」 IP アドレス（IPv4）の入力例：「192.168.1.1」 IP アドレス（IPv6）の入力例：「fe80::220:6bff:fe10:2f16」
[ファイルパス]	[ホストアドレス] に入力した FTP サーバーの保存先フォルダー名を入力します（127 バイト以内）。 <ul style="list-style-type: none"> 入力例：「scan」 FTP フォルダー内のフォルダーを指定したいときは、フォルダー名の間に「/」を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> 入力例：「scan/document」 ファイルパスを入力しないときは、「/」のみを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> 入力例：「/」
[anonymous]	宛先の FTP サーバーで認証が不要なときは、[オン] を選びます。初期値は [オフ] です。
[ユーザー ID]	宛先の FTP サーバーで認証が必要なときは、ログインできるユーザー名を入力します（ASCII 文字 63 バイト以内）。
[パスワード]	パスワードを入力します（ASCII 文字 63 バイト以内）。パスワードを入力（変更）する場合は、[パスワードの変更] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
[PASV モード]	お使いの環境で PASV モードを利用しているときは、[オン] を選びます。初期値は [オン] です。
[プロキシ]	お使いの環境でプロキシサーバーを利用しているときは、[オン] を選びます。初期値は [オフ] です。
[ポート番号]	必要に応じて、ポート番号を変更します。通常はそのままお使いいただけます。初期値は [21] です。
[宛先制限]	必要に応じて、この宛先の参照を制限します。詳しくは、2-41 ページをごらんください。

SMB 宛先を登録する

Web Connection から、SMB 宛先を登録／編集できます。

管理者モードの [宛先] - [アドレス帳] - [アドレス帳一覧] - [新規登録] - [SMB] - [次へ] をクリックし、次の設定をします。

設定	説明
[番号]	宛先の登録番号です。0 を入力すると、空いている小さい数字から自動的に登録されます。番号を指定したいときは、1 ～ 2000 の範囲で入力します。
[名称]	宛先の名前を入力します（72 バイト以内）。
[インデックス]	宛先を登録名でインデックス検索できるように、該当する文字を選びます。よく使う宛先は、[常用] にチェックをつけておくと、宛先の指定が簡単になります。
[ホストアドレス]	宛先とするコンピューター名（ホスト名）または IP アドレスを入力します。 <ul style="list-style-type: none">コンピューター名（ホスト名）の入力例：「HOME-PC」IP アドレス（IPv4）の入力例：「192.168.1.1」IP アドレス（IPv6）の入力例：「fe80::220:6bff:fe10:2f16」
[ファイルパス]	[ホストアドレス] に入力したコンピューターの共有フォルダー名を入力します（255 バイト以内）。 <ul style="list-style-type: none">入力例：「scan」 共有フォルダー内のフォルダーを指定したいときは、フォルダー名の間に「\」を入力します。 <ul style="list-style-type: none">入力例：「scan\document」
[ユーザー ID]	[ファイルパス] に入力したフォルダーのアクセス権限を持つユーザー名を入力します（255 バイト以内）。
[パスワード]	パスワードを入力します（127 バイト以内）。パスワードを入力（変更）する場合は、[パスワードの変更] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
[宛先制限]	必要に応じて、この宛先の参照を制限します。詳しくは、2-41 ページをごらんください。

WebDAV 宛先を登録する

Web Connection から、WebDAV 宛先を登録／編集できます。

管理者モードの [宛先] - [アドレス帳] - [アドレス帳一覧] - [新規登録] - [WebDAV] - [次へ] をクリックし、次の設定をします。

設定	説明
[番号]	宛先の登録番号です。0 を入力すると、空いている小さい数字から自動的に登録されます。番号を指定したいときは、1 ～ 2000 の範囲で入力します。
[名称]	宛先の名前を入力します（72 バイト以内）。
[インデックス]	宛先を登録名でインデックス検索できるように、該当する文字を選びます。よく使う宛先は、[常用] にチェックをつけておくと、宛先の指定が簡単になります。
[ホストアドレス]	宛先とする WebDAV サーバーのホスト名または IP アドレスを入力します。 <ul style="list-style-type: none">ホスト名の入力例：「host.example.com」IP アドレス (IPv4) の入力例：「192.168.1.1」IP アドレス (IPv6) の入力例：「fe80::220:6bff:fe10:2f16」
[ファイルパス]	[ホストアドレス] に入力した WebDAV サーバーの保存先フォルダー名を入力します（142 バイト以内）。 <ul style="list-style-type: none">入力例：「scan」 WebDAV フォルダー内のフォルダーを指定したいときは、フォルダー名の間に「/」を入力します。 <ul style="list-style-type: none">入力例：「scan/document」
[ユーザー ID]	[ファイルパス] に入力したフォルダーのアクセス権限を持つユーザー名を入力します（ASCII 文字 63 バイト以内）。
[パスワード]	パスワードを入力します（ASCII 文字 63 バイト以内）。パスワードを入力（変更）する場合は、[パスワードの変更] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
[SSL]	お使いの環境で SSL を利用しているときは、[オン] を選びます。初期値は [オフ] です。
[プロキシー]	お使いの環境でプロキシサーバーを利用しているときは、[オン] を選びます。初期値は [オフ] です。
[ポート番号]	必要に応じて、ポート番号を変更します。通常はそのままお使いいただけます。初期値は [80] です。
[宛先制限]	必要に応じて、この宛先の参照を制限します。詳しくは、2-41 ページをごらんください。

Fax 宛先を登録する

Web Connection から、ファクス宛先を登録／編集できます。

管理者モードの [宛先] - [アドレス帳] - [アドレス帳一覧] - [新規登録] - [Fax] - [次へ] をクリックし、次の設定をします。

設定	説明
[番号]	宛先の登録番号です。0 を入力すると、空いている小さい数字から自動的に登録されます。番号を指定したいときは、1 ～ 2000 の範囲で入力します。
[名称]	宛先の名前を入力します（72 バイト以内）。
[インデックス]	宛先を登録名でインデックス検索できるように、該当する文字を選びます。よく使う宛先は、[常用] にチェックをつけておくと、宛先の指定が簡単になります。
[宛先]	宛先とするファクス番号を入力します（数字 38 桁以内、記号は #、*、-、T、P、E を使用可能）。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 構内回線（PBX）環境でお使いの場合は、先頭に「E-」を入力すると、登録されている外線番号が自動的に挿入されます。 ・ 構内回線（PBX）環境でお使いの場合は、外線番号のあとに「P」を入力すると、より確実なダイヤルができます。 ・ ダイヤル回線でブッシュ信号を発信したいときは、「T」を入力します。 ・ 「-」は、ダイヤルの区切り記号として入力します。ダイヤルには影響ありません。
[宛先（確認入力）]	確認のため、宛先とするファクス番号を再入力します。 操作パネルから [設定メニュー] - [管理者設定] - [ファクス設定] - [機能設定] - [宛先 2 度入力機能（登録）] を [ON] に設定した場合に表示されます。
[通信設定]	必要に応じて、登録する宛先に対するファクスの送信のしかたを指定します。ここで指定した内容は、ファクスの送信前に変更できます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [V34 Off]：V34 とは、スーパー G3 のファクス通信時に使われる通信方式です。相手機または本機が内線交換機経由で回線に接続されている場合など、回線の状況によってはスーパー G3 モードで通信できない場合があります。このような場合は V34 を OFF に設定して送信することをおすすめします。 ・ [ECM Off]：ECM モードは、ITU-T（国際電気通信連合）で定められた誤り再送方式の通信です。ECM モードをもつファクス間の通信では、送信したデータに誤りが無いことを確認しながら通信するため、電話回線の雑音などによる画像の乱れを防止できます。雑音が多い電話回線で送信する場合は、通信時間が長くなることがあります。このような場合は、ECM を OFF に設定して送信することで、通信時間を短縮できます。ただし、画像の乱れや通信エラーの原因となる場合がありますので、状況に応じて設定を変更してください。 ・ [宛先確認送信]：宛先確認送信機能を使うときにチェックをつけます。ファクス送信に指定したファクス番号と、送信先のファクス番号情報（CSI）とを照合し、一致した場合にファクスを送信します。
[宛先制限]	必要に応じて、この宛先の参照を制限します。 詳しくは、2-41 ページをごらんください。

I-Fax 宛先を登録する

Web Connection から、インターネットファクス宛先を登録／編集できます。

管理者モードの〔宛先〕 - 〔アドレス帳〕 - 〔アドレス帳一覧〕 - 〔新規登録〕 - 〔I-Fax〕 - 〔次へ〕 をクリックし、次の設定をします。

設定	説明
〔番号〕	宛先の登録番号です。0 を入力すると、空いている小さい数字から自動的に登録されます。番号を指定したいときは、1 ～ 2000 の範囲で入力します。
〔名称〕	宛先の名前を入力します（72 バイト以内）。
〔インデックス〕	宛先を登録名でインデックス検索できるように、該当する文字を選びます。よく使う宛先は、〔常用〕にチェックをつけておくと、宛先の指定が簡単になります。
〔E-mail アドレス〕	宛先とするメールアドレスを入力します（ASCII 文字 320 バイト以内）。
〔圧縮方式〕	宛先の装置が受信できる、原稿データの圧縮形式を選びます。
〔用紙サイズ〕	宛先の装置が受信できる、原稿データの用紙サイズを選びます。
〔解像度〕	宛先の装置が受信できる、原稿データの解像度を選びます。
〔宛先制限〕	必要に応じて、この宛先の参照を制限します。 詳しくは、2-41 ページをごらんください。

2.9.2 グループ宛先を登録する

Web Connection から、グループ宛先を登録／編集できます。

グループ宛先は、複数の短縮宛先をまとめて、ひとつのグループ宛先として管理できます。

- 1 管理者モードの [宛先] - [グループ] - [グループ一覧] - [新規登録] をクリックします。
- 2 グループ宛先として登録する宛先の種類を [スキャン] または [Fax] から選び、[次へ] をクリックします。
- 3 次の設定をして、[適用] をクリックします。

設定	説明
[名称]	宛先の名前を入力します (72 バイト以内)。
[宛先]	宛先の一覧で、グループ宛先として登録する短縮宛先にチェックをつけます。一覧に表示する宛先は、[番号検索]、[インデックス検索]、[機能検索] で絞り込むことができます。
[宛先制限]	必要に応じて、この宛先の参照を制限します。詳しくは、2-41 ページをごらんください。

2.9.3 プログラム宛先を登録する

Web Connection から、プログラムを登録／編集できます。

プログラムには、宛先の情報と、ファクス／スキャン送信のオプション設定を組合わせて登録できます。

- 1 管理者モードの [宛先] - [プログラム] - [プログラム一覧] - [編集] をクリックします。
- 2 宛先の種類を選び、[次へ] をクリックします。
- 3 宛先情報と宛先制限を設定し、[適用] をクリックします。
 - 宛先情報の設定内容については、2-26 ページをごらんください。
 - 宛先制限について詳しくは、2-41 ページをごらんください。
- 4 プログラム設定を変更し、[適用] をクリックします。
 - 手順 2 で選択した宛先の種類によって設定できる項目が異なります。

設定	説明
[解像度]	原稿を読み込むときの解像度を選びます。初期値は [300×300] です。
[ファイル種別]	読み込んだ原稿データを保存するファイル形式を選びます。初期値は [PDF] です。
[ページ設定]	原稿が複数ページあるときに、ファイルにするページ単位を選びます。初期値は [ページ一括] です。
[題名]	E-mail の件名に使う定型文を選びます。初期値は [指定なし] です。
[本文]	E-mail の本文に使う定型文を選びます。初期値は [指定なし] です。
[両面設定]	原稿の表と裏を自動で読み込むかどうかを選びます。原稿の最初のページだけ片面を読み込み、残りのページを両面で読み込んだりすることもできます。初期値は [片面] です。
[原稿画質]	原稿の記載内容に適した設定を選んで、最適な画質で読み込みます。初期値は [文字 / 写真] です。
[自動カラー設定]	原稿に合わせてカラーを自動設定するかどうかを選びます。初期値は [オン] です。
[カラーモード]	原稿を読み込むときのカラーモードを、フルカラー、グレースケール、白黒から選びます。初期値は [グレースケール] です。

設定	説明
[連続読み込み設定]	原稿の枚数が多く、1度のセットで ADF に載せきれないときでも、原稿を数回に分けて読んで1つのジョブとして扱う場合は、[オン] を選びます。初期値は [オフ] です。
[濃度]	原稿を読み込む濃度（こく、うすく）を調整します。初期値は [0] です。
[下地除去]	新聞紙や再生紙など、下地に色が付いている原稿や、裏面が透けてしまう薄い原稿などを読み込む場合の、下地の濃度を調整します。初期値は [0] です。
[シャープネス]	画像のエッジ部分を強調して、読みやすくします。画像の、ガタガタした輪郭を滑らかにしたり、ぼやけた輪郭をくっきりさせたりします。初期値は [0] です。
[原稿サイズ]	原稿サイズを指定します。
[E-mail 通知]	E-mail 通知を行う場合は、[オン] を選びます。あわせて、通知先のアドレスを入力します。初期値は [オフ] です。
[原稿セット方向]	両面原稿を読み込む場合などに、読んだあとの上下が正しくなるように原稿をセットした向きを設定できます。初期値は [左] です。
[原稿綴じ代]	原稿の両面を読み込むとき、原稿のとじ位置を選びます。初期値は [自動] です。
[特殊原稿]	長尺原稿を読み込む場合は、[長尺原稿] を選びます。初期値は [通常] です。
[Timer 送信]	ファクス通信を開始する時刻を指定して送信する場合は、[オン] を選びます。あわせて、通信を開始する時刻を指定します。初期値は [オフ] です。
[パスワード送信]	パスワードでファクスの通信相手を制限している（閉域受信機能を設定している）送信先に対して、パスワードをつけて送信する場合は、[オン] を選びます。あわせて、パスワードを入力します。初期値は [オフ] です。
[F-Code]	F コード送信する場合は、[有効] を選びます。あわせて、[SUB アドレス] と [パスワード] を入力します。初期値は [無効] です。
[Document Name]	必要に応じて、読んだ原稿データのファイル名を変更します。
[枠消し]	原稿の周囲 4 辺を、指定した幅だけ消去します。辺ごとに異なる幅を指定して消去できます。初期値は [オフ] です。

2.10 本体装置認証を導入する

概要

本機を使えるユーザーを、本機の認証機能（本体装置認証）で制限できます。ユーザーの認証情報は、本機の内部で管理します。

ユーザー認証を導入すると、本機を使えるユーザーを制限できるだけでなく、ユーザーごとに使える機能を制限したり、本機の使用状況を管理したりなど、セキュリティやコストを意識した、高度な使い方ができます。

ユーザー認証の基本設定をする

ユーザー認証を有効にします。あわせて、本機にユーザーを登録します。

- 1 管理者モードの [セキュリティ] - [認証] - [一般設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[ユーザー認証]	本体装置認証を導入するときは、[デバイス] を選びます。
[パブリック許可]	パブリックユーザー（登録されていないユーザー）の使用を許可するかどうかを選びます。 <ul style="list-style-type: none">・ [許可]：本機の認証機能を利用する場合に選びます。パブリックユーザーが本機を使うには、ログイン画面で [パブリックユーザー] を押し、本機にログインします。・ [許可する（ログインなし）]：パブリックユーザーは、本機へログインすることなく、本機を使えます。パブリックユーザーが多数存在する環境でお使いの場合は、ログイン操作が不要となるため便利です。・ [制限]：パブリックユーザーの使用を許可しません。 初期値は [許可] です。

- 2 管理者モードの [セキュリティ] - [認証] - [ユーザーリスト] - [新規登録] で、ユーザーを登録します。

設定	説明
[ユーザー認証名]	本機にログインするときのユーザーの名前を入力します（半角 64 文字／全角 32 文字以内）。
[E-mail アドレス]	必要に応じて、ユーザーのメールアドレスを入力します（ASCII 文字 320 バイト以内）。
[パスワード]	本機にログインするときのパスワードを入力します（スペースと " を除く 64 バイト以内）。 パスワードを入力（変更）する場合は、[パスワードの変更] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
[機能許可]	ユーザーが使える機能を制限します。 <ul style="list-style-type: none">・ [コピー]：コピー機能の使用を許可するかどうかを選びます。初期値は [許可] です。・ [ネットワーク送信]：ネットワーク送信機能の使用を許可するかどうかを選びます。初期値は [許可] です。・ [HDD 送信]：本機の HDD への保存を許可するかどうかを選びます。初期値は [許可] です。・ [USB メモリー送信]：USB メモリーへの保存を許可するかどうかを選びます。初期値は [許可] です。・ [Fax]：ファクス、インターネットファクス機能の使用を許可するかどうかを選びます。初期値は [許可] です。・ [プリント]：プリント動作を許可するかどうかを選びます。初期値は [許可] です。・ [手動宛先入力]：宛先の直接入力を許可するかどうかを選びます。初期値は [許可] です。・ [Web ブラウザー]：Web ブラウザーの使用を許可するかどうかを選びます。初期値は [許可] です。

設定	説明
[出力許可 (プリント)]	カラー印刷とモノクロ印刷をそれぞれ許可するかどうかを選びます。 <ul style="list-style-type: none">・ [カラー]：カラー印刷を許可するかどうかを選びます。[エコノミープリントのみ] を選ぶと、[トナー節約] を設定した印刷だけを許可します。初期値は [許可] です。・ [ブラック]：モノクロ印刷を許可するかどうかを選びます。初期値は [許可] です。
[出力許可 (スキャン)]	カラースキャンを許可するかどうかを選びます。 初期値は [許可] です。
[上限設定]	印刷できる枚数の上限を設定します。 <ul style="list-style-type: none">・ [合計]：カラー印刷とモノクロ印刷の合計で上限を管理するときは、チェックをつけてから、上限値を入力します。・ [カラー]：カラー印刷の上限を管理するときは、チェックをつけてから、上限値を入力します。・ [ブラック]：モノクロ印刷の上限を管理するときは、チェックをつけてから、上限値を入力します。
[宛先制限]	必要に応じて、ユーザーが参照できる宛先を制限します。 詳しくは、2-41 ページをごらんください。

2.11 Active Directory 認証を導入する

概要

ユーザー管理に Windows Server の Active Directory をお使いの場合は、本機を使えるユーザーを、Active Directory による認証で制限できます。

ユーザー認証を導入すると、本機を使えるユーザーを制限できるだけでなく、ユーザーごとに使える機能を制限したり、本機の使用状況を管理したりなど、セキュリティやコストを意識した、高度な使い方ができます。

Active Directory 認証を導入する場合は、次の手順で設定してください。

- 1 本機の IP アドレスの設定など、ネットワークに接続して使うための設定をする
→ 設定のしかたは、1-3 ページをごらんください。
- 2 本機の日時を設定する
→ 本機と Active Directory とで、日時を合わせる必要があります。本機の日時設定については、1-14 ページをごらんください。
- 3 Active Directory 認証の基本設定をする
→ 設定のしかたは、2-36 ページをごらんください。



参考

Active Directory 認証を導入する場合、次の設定を行うことで、Scan to Home 機能を利用できます。Scan to Home 機能は、本機で読込んだ原稿データを、サーバー上の共有フォルダーや自分のコンピューターの共有フォルダーに簡単に送信できる機能です。

- Active Directory に、ユーザーの登録情報として Home ディレクトリーを登録する
- 本機の Scan to Home 機能を有効にする（1-25 ページ）

Active Directory 認証の基本設定をする

本機の認証方式を変更し、外部の認証サーバーで認証するように設定します。

- 1 管理者モードの [セキュリティ] - [認証] - [一般設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[ユーザー認証]	外部の認証サーバーで認証するときは、[外部サーバー] を選びます。
[チケット保持時間 (Active Directory)]	必要に応じて、Kerberos 認証チケットを保持する時間を変更します。初期値は [600] 分です。

- 2 管理者モードの [セキュリティ] - [認証] - [外部サーバーリスト] - [編集] をクリックします。
- 3 [Active Directory] を選び、[次へ] をクリックします。
- 4 Active Directory の情報を登録します。

設定	説明
[名称]	お使いの認証サーバーの名前を入力します (ASCII 文字 32 バイト以内)。
[デフォルトドメイン名]	お使いの認証サーバーのデフォルトドメイン名を入力します (ASCII 文字 64 バイト以内)。



参照

外部の認証サーバーがダウンした場合に備えて、認証情報を本体に一時保存するように設定できます。詳しくは、1-25 ページをごらんください。

2.12 部門管理を導入する

概要

部門管理を導入すると、複数のユーザーをまとめて、部門単位で管理できます。部門の認証情報は、本機の内部で管理します。

部門ごとにパスワードを設定して本機の使用を制限できます。また、部門ごとに使える機能を制限したり、本機の使用状況を管理したりできます。

ユーザー認証と部門管理を組合わせて、各ユーザーを部門ごとに管理することもできます。本機にログインするときには、ユーザー名を入力するだけでログインできます。部門を指定する必要はありません。

部門管理の基本設定をする

部門管理を有効にします。あわせて、部門を登録します。

1 管理者モードの「セキュリティ」-「認証」-「一般設定」で、次の設定をします。

設定	説明
「部門認証」	部門管理を導入するときは、「オン」を選びます。 初期値は「オフ」です。
「部門認証方法」	部門認証の方法を選びます。部門管理だけを行う場合に設定します。 初期値は「アカウント名とパスワード」です。
「ユーザー認証 / 部門認証連動」	ユーザー認証と部門管理を組合わせて利用する場合は、ユーザー認証と部門管理を連動するかどうかを選びます。 初期値は「連動する」です。
「ユーザーカウンター割当て数」	ユーザー認証と部門管理を組合わせて利用する場合は、ユーザーに割当てるカウンターの数を入力します。 初期値は「500」です。

2 管理者モードの「セキュリティ」-「認証」-「部門リスト」-「新規登録」で、部門を登録します。

設定	説明
「アカウント名」	本機にログインするときの部門の名前を入力します（スペースと"を除く 8 バイト以内）。 名前は重複して設定することはできません。
「パスワード」	本機にログインするときのパスワードを入力します（スペースと"を除く 8 バイト以内）。 パスワードを入力（変更）する場合は、「パスワードの変更」にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
「出力許可（プリント）」	カラー印刷とモノクロ印刷をそれぞれ許可するかどうかを選びます。 ・「カラー」：カラー印刷を許可するかどうかを選びます。「エコノミープリントのみ許可」を選ぶと、「トナー節約」を設定した印刷だけを許可します。初期値は「許可」です。 ・「ブラック」：モノクロ印刷を許可するかどうかを選びます。初期値は「許可」です。
「出力許可（スキャン）」	カラースキャンを許可するかどうかを選びます。 初期値は「許可」です。
「上限設定」	印刷できる枚数の上限を設定します。 ・「合計」：カラー印刷とモノクロ印刷の合計で上限を管理するときは、チェックをつけてから、上限値を入力します。 ・「カラー」：カラー印刷の上限を管理するときは、チェックをつけてから、上限値を入力します。 ・「ブラック」：モノクロ印刷の上限を管理するときは、チェックをつけてから、上限値を入力します。

2.13 本機の証明書を利用する

2.13.1 本機の証明書を作成して SSL で通信する

概要

本機とコンピューターとの通信を SSL で暗号化して、セキュリティを強化できます。

本機で、証明書を利用する方法は次のとおりです。

利用方法	説明
自己作成した証明書を利用する	本機で証明書を作成します。 CA（認証局）を必要とせず、証明書の作成に必要な情報を入力するだけで、証明書を利用できます。 詳しくは、2-38 ページをごらんください。
CA（認証局）から発行された証明書を利用する	本機で、証明書発行要求データを作成し、信頼できる CA（認証局）に、本機の証明書の発行を依頼します。認証局での審査後、返送されてきたデータを本機に登録します。 詳しくは、2-39 ページをごらんください。

証明書を自己作成する

本機で証明書を作成します。CA（認証局）を必要とせず、証明書の作成に必要な情報を入力するだけで、証明書を利用できます。

- 1 管理者モードの [セキュリティ] - [PKI 設定] - [デバイス証明書] - [新規登録] - [証明書の自己作成] - [次へ] で、証明書の作成に必要な情報を入力し、[適用] をクリックします。

設定	説明
[Common Name]	本機の IP アドレスを表示します。
[Organization]	組織名、団体名を入力します（ASCII 文字 63 バイト以内）。
[Organization Unit]	部門名を入力します（ASCII 文字 63 バイト以内）。 空白でも登録できます。
[Locality]	市区町村名を入力します（ASCII 文字 127 バイト以内）。
[State/Province]	都道府県名を入力します（ASCII 文字 127 バイト以内）。
[Country]	国名を入力します。ISO03166 で規定されている国コードで入力します（ASCII 文字 2 バイト）。 アメリカ：US、イギリス：GB、イタリア：IT、オーストラリア：AU、オランダ：NL、カナダ：CA、スペイン：ES、チェコ：CZ、中国：CN、デンマーク：DK、ドイツ：DE、日本：JP、フランス：FR、ベルギー：BE、ロシア：RU
[E-mail アドレス]	本機の管理者のメールアドレスを入力します（ASCII 文字 127 バイト以内）。
[有効期間開始日]	証明書の有効期間の、開始日を表示します。 この画面を表示したときの本機の日時を表示します。
[有効期間]	証明書の有効期間を、開始日からの経過日数で入力します。

- 2 証明書のインストールが完了したら、SSL 通信を有効にします。

→ 詳しくは、1-28 ページをごらんください。

認証局に証明書の発行要求をする

本機で、証明書発行要求データを作成し、信頼できる CA（認証局）に、本機の証明書の発行を依頼します。認証局での審査後、返送されてきたデータを本機に登録します。

- 1 管理者モードの [セキュリティ] - [PKI 設定] - [デバイス証明書] - [新規登録] - [証明書の要求] - [次へ] で、証明書の発行に必要な情報を入力し、[適用] をクリックします。

設定	説明
[Common Name]	本機の IP アドレスを表示します。
[Organization]	組織名、団体名を入力します（ASCII 文字 63 バイト以内）。
[Organization Unit]	部門名を入力します（ASCII 文字 63 バイト以内）。空白でも登録できます。
[Locality]	市区町村名を入力します（ASCII 文字 127 バイト以内）。
[State/Province]	都道府県名を入力します（ASCII 文字 127 バイト以内）。
[Country]	国名を入力します。ISO03166 で規定されている国コードで入力します（ASCII 文字 2 バイト）。 アメリカ：US、イギリス：GB、イタリア：IT、オーストラリア：AU、オランダ：NL、カナダ：CA、スペイン：ES、チェコ：CZ、中国：CN、デンマーク：DK、ドイツ：DE、日本：JP、フランス：FR、ベルギー：BE、ロシア：RU
[E-mail アドレス]	本機の管理者のメールアドレスを入力します（ASCII 文字 127 バイト以内）。

- 2 [保存] をクリックします。
→ 証明書発行要求データをファイルとしてコンピューターに保存します。
- 3 証明書発行要求データを、認証局へ送ります。
認証局での審査後、返送されてきたデータを本機に登録します。
- 4 管理者モードの [セキュリティ] - [PKI 設定] - [デバイス証明書] - [編集] - [証明書のインストール] - [次へ] で、CA（認証局）から送られてきたテキスト形式のデータを指定し、[適用] をクリックします。
- 5 証明書のインストールが完了したら、SSL 通信を有効にします。
→ 詳しくは、1-28 ページをごらんください。

2.13.2 本機の証明書を管理する

証明書をエクスポートする

本機の証明書をエクスポートできます。証明書をコンピューター上で管理したい場合や、他の装置に移行したい場合に、証明書をエクスポートします。

管理者モードの〔セキュリティ〕 - 〔PKI 設定〕 - 〔デバイス証明書〕 - 〔編集〕 - 〔証明書のエクスポート〕 - 〔次へ〕 で、パスワードを入力し（ASCII 文字 32 バイト以内）、〔エクスポート〕 をクリックします。



参考

入力したパスワードは、証明書をインポートするときに必要です。

証明書をインポートする

エクスポートした証明書を、本機にインポートできます。

管理者モードの〔セキュリティ〕 - 〔PKI 設定〕 - 〔デバイス証明書〕 - 〔新規登録〕 - 〔証明書のインポート〕 - 〔次へ〕 で、インポートする証明書の指定とパスワードの入力を行い、〔適用〕 をクリックします。



参考

証明書をエクスポートするときに指定したパスワードを入力します。

証明書を削除する

必要に応じて、本機の証明書を削除できます。

管理者モードの〔セキュリティ〕 - 〔PKI 設定〕 - 〔デバイス証明書〕 - 〔編集〕 - 〔証明書の削除〕 - 〔次へ〕 をクリックします。

2.14 ユーザーごとに参照できる宛先を制限する

2.14.1 参照できる宛先の制限方法

本機では、ユーザーごとに、参照できる宛先を制限できます。参照できる宛先の制限方法には、次の3通りがあります。

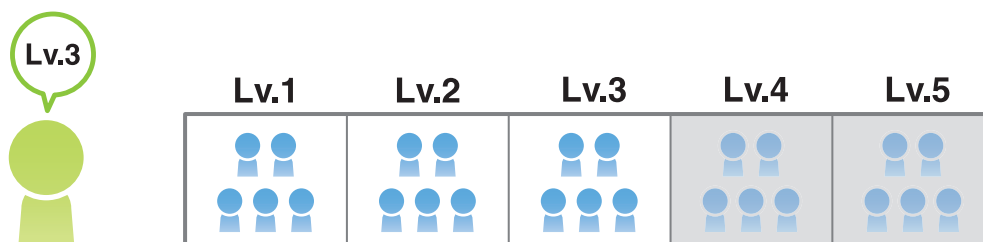
設定	説明
参照許可レベルで管理する	宛先を重要度でレベル分けし、ユーザーごとに参照できるレベルの上限を設定します。 詳しくは、2-41 ページをごらんください。
参照許可グループで管理する	宛先をグループ化します。ユーザーは許可されたグループの宛先だけを参照できます。 詳しくは、2-42 ページをごらんください。
参照許可レベルと参照許可グループを組合わせて管理する	宛先の重要度と、ユーザーとの関連性を組合わせて参照範囲を設定します。 詳しくは、2-43 ページをごらんください。

2.14.2 参照許可レベルで管理する

参照許可レベルとは

本機に登録した宛先を、重要度順に、レベル0～レベル5までに分類し、ユーザーごとに参照できるレベルの上限（参照許可レベル）を設定します。

たとえば、あるユーザーに、参照許可レベルとして3が設定されているとします。この場合、参照許可レベルが1～3の宛先は参照できますが、参照許可レベルが4と5の宛先は、参照できません。



参考

- 初期設定で、ユーザーに設定されている参照許可レベルは「0」です。レベル0のユーザーは、レベル0の宛先だけを参照できます。

参照許可レベルを設定する

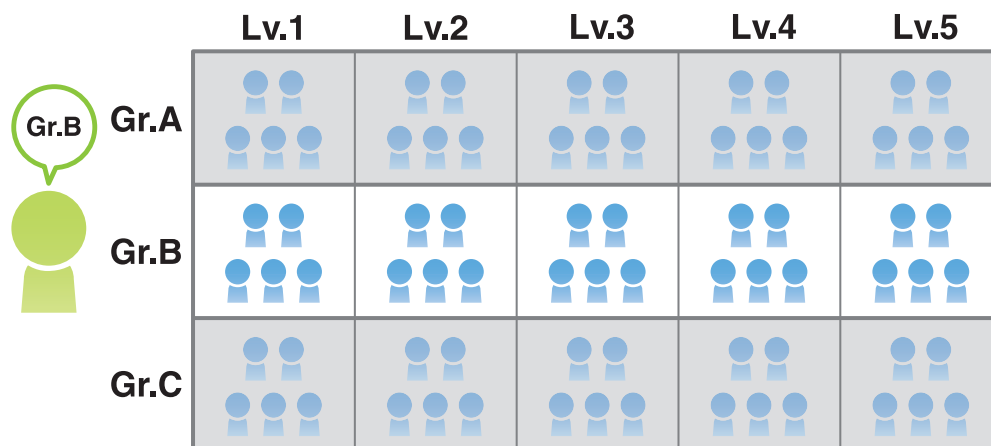
- 管理者モードの「宛先」 - 「アドレス帳」 - 「アドレス帳一覧」 - 「編集」で、「参照許可レベル」を選び、登録宛先に対して参照許可レベルを設定します。
- 管理者モードの「セキュリティ」 - 「認証」 - 「ユーザーリスト」 - 「編集」で、「参照許可レベル」を「有効」に設定し、登録ユーザーに対して参照許可レベルを設定します。

2.14.3 参照許可グループで管理する

参照許可グループとは

本機に登録した複数の宛先を、部署ごとの取引先など、関連のあるグループ（参照許可グループ）にまとめます。

ユーザーごとに、参照できるグループを設定し、参照できる宛先を制限します。たとえば、あるユーザーに、参照許可グループとしてグループBが設定されているとします。この場合、グループBの宛先は参照できますが、他の参照許可グループの宛先は、参照できません。



参照許可グループを割当てる

本機に、参照許可グループを登録します。また、宛先とユーザーに、それぞれ参照許可グループを割当てます。

- 1 管理者モードの［セキュリティ］ - ［アドレス帳の参照許可設定］ - ［参照許可グループリスト］ - ［編集］で、［参照許可グループ名］にグループの名前を入力し（半角 24 文字／全角 12 文字以内）、参照許可グループを登録します。
- 2 管理者モードの［宛先］ - ［アドレス帳］ - ［アドレス帳一覧］ - ［編集］で、［参照許可グループ］を選び、登録宛先に対して参照許可グループを割当てます。
- 3 管理者モードの［セキュリティ］ - ［認証］ - ［ユーザーリスト］ - ［編集］で、［参照許可グループ］を［有効］に設定し、登録ユーザーに対して参照許可グループを割当てます。

2.14.4 参照許可レベルと参照許可グループを組合わせて管理する

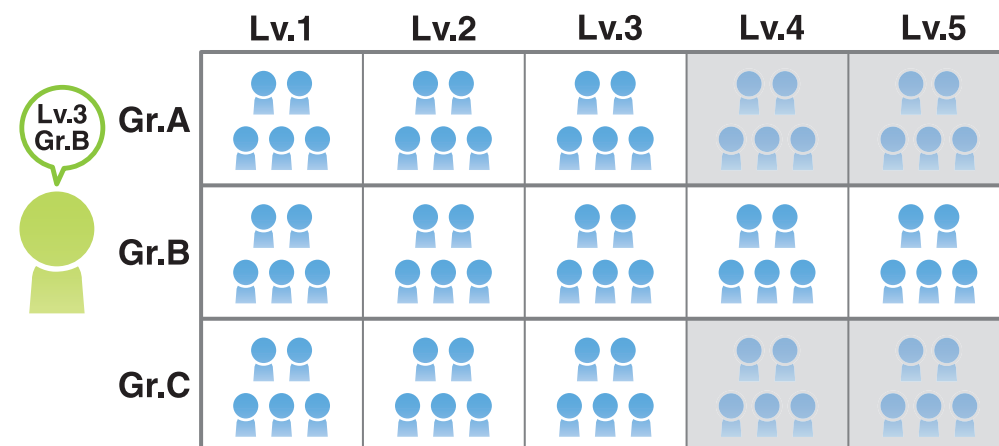
参照許可レベルと参照許可グループを組合わせる

参照許可レベルと、参照許可グループを組合わせることで、より柔軟に管理できます。

たとえば、あるユーザーに、参照許可レベルとして 3 が、また、参照許可グループとして、グループ B が設定されているとします。

この場合、ユーザーが参照できる宛先は、以下のようになります。

- 参照許可レベルが 1 ～ 3 までの宛先：A1 ～ 3、B1 ～ 3、C1 ～ 3
- 参照許可グループ B に属する宛先：B1 ～ 5



参考

- 参照許可グループには、参照許可レベルを設定できます。登録宛先に対して、参照許可レベルが設定された参照許可グループを割当てすることで、参照許可レベルと、参照許可グループを組合わせて管理できます。

参照許可レベルと参照許可グループを同時に設定する

ユーザーに対して、参照許可レベルと参照許可グループの両方を設定します。

参照許可レベルと参照許可グループを組合わせて登録宛先を管理するときは、参照許可レベルを設定した参照許可グループを登録し、登録宛先に対して割当てます。

- 1 管理者モードの [セキュリティ] - [アドレス帳の参照許可設定] - [参照許可グループリスト] - [編集] で、参照許可グループを登録します。

項目	説明
[番号]	参照許可グループの登録番号を表示します。
[参照許可グループ名]	参照許可グループの名前を入力します（半角 24 文字／全角 12 文字以内）。
[参照許可レベル]	参照許可レベルと参照許可グループを組合わせて登録宛先を管理するときは、参照許可グループの参照許可レベルを選びます。

- 2 管理者モードの [宛先] - [アドレス帳] - [アドレス帳一覧] - [編集] で、登録宛先に対して、参照許可グループまたは参照許可レベルを設定します。

→ 参照許可レベルと参照許可グループを組合わせて登録宛先を管理するときは、登録宛先に対して、参照許可レベルが設定された参照許可グループを割当てます。

- 3 管理者モードの〔セキュリティ〕 - 〔認証〕 - 〔ユーザーリスト〕 - 〔編集〕で、登録ユーザーに対して、参照許可グループと参照許可レベルをそれぞれ設定します。
 - 登録ユーザーに対して参照許可グループを指定する場合、参照許可グループそのものを指定することになります。したがって、選んだ参照許可グループに参照許可レベルが設定されていても、ここでは関係しません。

3

プリンタードライバーの手動インストール (Windows 環境)

3 プリンタードライバーの手動インストール (Windows 環境)

3.1 接続方法を確認する

Windows Vista/7/8/8.1/Server 2008/Server 2008 R2/Server 2012/Server 2012 R2 をお使いの場合

本機とコンピューターとの接続方法によって、プリンタードライバーのインストール方法が異なります。また、ネットワーク接続でお使いになる場合は、印刷のためのプロトコルが複数あり、プロトコルによってプリンタードライバーのインストール方法が異なります。

インストール方法	接続方法	
プリンターの追加ウィザードでセットアップが可能な接続方法	LPR	LPR (Line Printer Remote) プリントサービスによるネットワーク接続です。TCP/IP プロトコルを使い、印刷ポートに LPR を使います。 ・ インストールのしかたは、3-4 ページをごらんください。
	Port 9100	Port 9100 プリントサービスによるネットワーク接続です。TCP/IP プロトコルを使い、印刷ポートに RAW を使います。 ・ インストールのしかたは、3-4 ページをごらんください。
	IPP/IPPS	IPP (Internet Printing Protocol) プリントサービスによるネットワーク接続です。TCP/IP プロトコルの HTTP (HyperText Transfer Protocol) を利用し、インターネット経由で印刷できます。 IPPS は、SSL による暗号化通信をする IPP です。 ・ インストールのしかたは、3-14 ページをごらんください。
	Web サービスプリント	Windows Vista 以降の Windows OS の Web サービス機能に対応した接続で、ネットワーク上のプリンターを自動的に検出して接続します。 ・ インストールのしかたは、3-19 ページをごらんください。
	USB	USB ポートによる接続です。
プラグアンドプレイでセットアップが可能な接続方法	USB	USB ポートによる接続です。 ・ インストールのしかたは、3-20 ページをごらんください。

Windows Server 2003 をお使いの場合

本機とコンピューターとの接続方法によって、プリンタードライバーのインストール方法が異なります。また、ネットワーク接続でお使いになる場合は、印刷のためのプロトコルが複数あり、プロトコルによってプリンタードライバーのインストール方法が異なります。

セットアップ方法	接続方法	
プリンターの追加ウィザードでセットアップが可能な接続方法	LPR	LPR (Line Printer Remote) プリントサービスによるネットワーク接続です。TCP/IP プロトコルを使い、印刷ポートに LPR を使います。 <ul style="list-style-type: none">・ インストールのしかたは、3-4 ページをごらんください。
	Port 9100	Port 9100 プリントサービスによるネットワーク接続です。TCP/IP プロトコルを使い、印刷ポートに RAW を使います。 <ul style="list-style-type: none">・ インストールのしかたは、3-4 ページをごらんください。
	IPP/IPPS	IPP (Internet Printing Protocol) プリントサービスによるネットワーク接続です。TCP/IP プロトコルの HTTP (HyperText Transfer Protocol) を利用し、インターネット経由で印刷できます。IPPS は、SSL による暗号化通信をする IPP です。 <ul style="list-style-type: none">・ インストールのしかたは、3-14 ページをごらんください。
	USB	USB ポートによる接続です。
プラグアンドプレイでセットアップが可能な接続方法	USB	USB ポートによる接続です。 <ul style="list-style-type: none">・ インストールのしかたは、3-20 ページをごらんください。

3.2 LPR/Port9100 接続でインストールする

お使いになるために必要な作業（管理者向け）

LPR/Port9100 の使用環境を設定します。

- Port 9100 を利用する場合：
RAW ポート番号が指定されていることを確認します（通常は、初期設定の状態でお使いいただけます）。設定のしかたについては、1-56 ページをごらんください。
- LPR を利用する場合：
LPD が有効になっていることを確認します（通常は、初期設定の状態でお使いいただけます）。設定のしかたについては、1-54 ページをごらんください。

3.2.1 プリンターを自動検出してインストールする

Windows 8/8.1/Server 2012/Server 2012 R2 をお使いの場合

ネットワーク上のプリンターを自動検出してインストールする方法と、新しくポートを作成してインストールする方法があります。

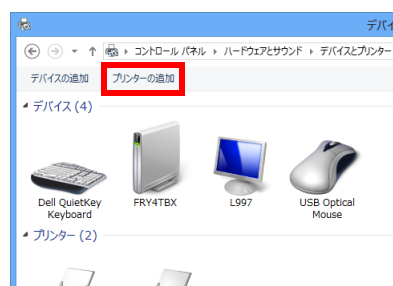
- ✓ この作業を行うには、コンピューターの管理者権限が必要です。
- ✓ インストール途中でプリンターを検索するため、本機をネットワークに接続した状態で電源を ON にしてください。

1 プリンタードライバーの CD-ROM をコンピューターの CD-ROM ドライブに入れます。

2 プリンターのウィンドウを表示します。

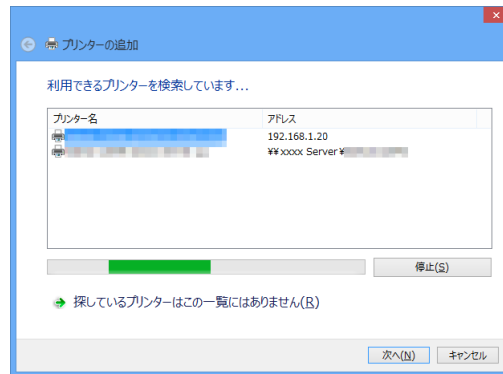
- Windows 8.1 の場合は、スタート画面で [⬇] をクリックし、[コントロール パネル] - [ハードウェアとサウンド] の [デバイスとプリンターの表示] をクリックします。
- Windows 8 の場合は、スタート画面を右クリックし、[すべてのアプリ] - [コントロール パネル] - [ハードウェアとサウンド] の [デバイスとプリンターの表示] をクリックします。
- Windows Server 2012/Server 2012 R2 の場合は、スタート画面で [コントロール パネル] - [ハードウェア] - [デバイスとプリンターの表示] をクリックします。

3 プリンターの追加を選びます。



[プリンターの追加] ウィザードが表示されます。

- 4 一覧から本機を選び、[次へ] をクリックします。
 - プリンターが検出されない場合は、本機を再起動してください。
 - 画面に表示されているプリンター一覧から、目的のプリンターを IP アドレスで確認して選びます。
 - すべてのプリンターを検索するまでに時間がかかる場合があります。



- 5 [ディスク使用 ...] をクリックします。
- 6 [参照 ...] をクリックします。
- 7 CD-ROM 内の目的のプリンタードライバーが入っているフォルダーを指定し、[開く] をクリックします。
 - 指定するフォルダーは、使用するプリンタードライバー、OS、言語に応じて選んでください。
選択できるプリンタードライバー：PCL ドライバー、PS ドライバー、XPS ドライバー
- 8 [OK] をクリックします。
[プリンター] リストが表示されます。
- 9 [次へ] をクリックします。
- 10 画面の指示に従って操作します。
 - [ユーザー アカウント制御] に関する画面が表示された場合は、[続行] または [はい] をクリックします。
- 11 [完了] をクリックします。
- 12 インストール終了後、インストールしたプリンターアイコンが [デバイスとプリンター] ウィンドウに表示されていることを確認します。
- 13 CD-ROM を CD-ROM ドライブから取出します。
以上で、プリンタードライバーのインストールの完了です。

Windows Vista/7/Server 2008/Server 2008 R2 をお使いの場合

ネットワーク上のプリンターを自動検出してインストールする方法と、新しくポートを作成してインストールする方法があります。

ネットワーク上のプリンターを自動検出してインストールする場合の手順は以下のとおりです。

- ✓ この作業を行うには、コンピューターの管理者権限が必要です。
- ✓ インストール途中でプリンターを検索するため、本機をネットワークに接続した状態で電源を ON にしてください。

1 プリンタードライバーの CD-ROM をコンピューターの CD-ROM ドライブに入れます。

2 プリンターのウィンドウを表示します。

- Windows 7/Server 2008 R2 の場合は、スタートメニューから [デバイスとプリンター] をクリックします。
[デバイスとプリンター] が表示されていない場合は、[コントロール パネル] - [ハードウェアとサウンド] の [デバイスとプリンターの表示] をクリックします。[コントロール パネル] がアイコン表示になっている場合は、[デバイスとプリンター] をダブルクリックします。
- Windows Vista/Server 2008 の場合は、スタートメニューから [コントロール パネル] - [ハードウェアとサウンド] の [プリンタ] をクリックします。[コントロール パネル] がクラシック表示になっている場合は、[プリンタ] をダブルクリックします。

3 プリンターの追加を選びます。

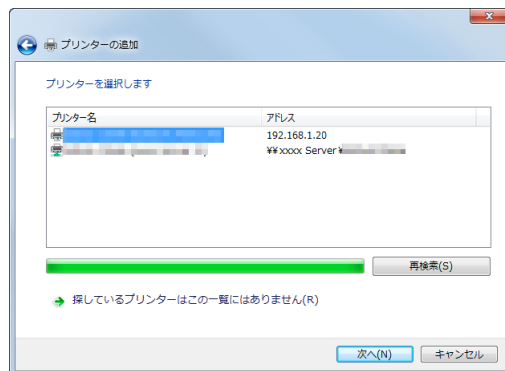
- Windows 7/Server 2008 R2 の場合は、[プリンターの追加] をクリックします。
- Windows Vista/Server 2008 の場合は、[プリンタのインストール] をクリックします。



[プリンターの追加] ウィザードが表示されます。

4 [ネットワーク、ワイヤレスまたは Bluetooth プリンターを追加します] をクリックします。
接続されているプリンターが検出されます。

- 5 一覧から本機を選び、[次へ] をクリックします。
- プリンターが検出されない場合は、本機を再起動してください。
 - 画面に表示されているプリンター一覧から、目的のプリンターを IP アドレスで確認して選びます。
 - すべてのプリンターを検索するまでに時間がかかる場合があります。



- 6 [ディスク使用 ...] をクリックします。
- 7 [参照 ...] をクリックします。
- 8 CD-ROM 内の目的のプリンタードライバーが入っているフォルダーを指定し、[開く] をクリックします。
- 指定するフォルダーは、使用するプリンタードライバー、OS、言語に応じて選んでください。
選択できるプリンタードライバー：PCL ドライバー、PS ドライバー、XPS ドライバー
- 9 [OK] をクリックします。
- [プリンター] リストが表示されます。
- 10 [次へ] をクリックします。
- 11 画面の指示に従って操作します。
- [ユーザー アカウント制御] に関する画面が表示された場合は、[続行] または [はい] をクリックします。
- 12 [完了] をクリックします。
- 13 インストール終了後、インストールしたプリンターアイコンが [プリンタ] ウィンドウまたは [デバイスとプリンター] ウィンドウに表示されていることを確認します。
- 14 CD-ROM を CD-ROM ドライブから取出します。
- 以上で、プリンタードライバーのインストールの完了です。

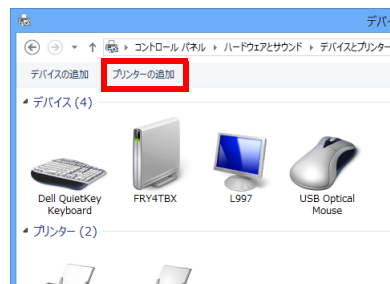
3.2.2 新しくポートを作成してインストールする

Windows 8/8.1/Server 2012/Server 2012 R2 をお使いの場合

新しくポートを作成してインストールする場合の手順は以下のとおりです。

- ✓ この作業を行うには、コンピューターの管理者権限が必要です。
- ✓ インストール途中でプリンターを検索するため、本機をネットワークに接続した状態で電源を ON にしてください。

- 1 プリンタードライバーの CD-ROM をコンピューターの CD-ROM ドライブに入れます。
- 2 プリンターのウィンドウを表示します。
 - Windows 8.1 の場合は、スタート画面で [⬇] をクリックし、[コントロール パネル] - [ハードウェアとサウンド] の [デバイスとプリンターの表示] をクリックします。
 - Windows 8 の場合は、スタート画面を右クリックし、[すべてのアプリ] - [コントロール パネル] - [ハードウェアとサウンド] の [デバイスとプリンターの表示] をクリックします。
 - Windows Server 2012/Server 2012 R2 の場合は、スタート画面で [コントロール パネル] - [ハードウェア] - [デバイスとプリンターの表示] をクリックします。
- 3 プリンターの追加を選びます。



- 4 プリンターが検出された画面で、[探しているプリンターはこの一覧にはありません] をクリックします。
- 5 [ローカル プリンターまたはネットワーク プリンターを手動設定で追加する] をクリックします。
- 6 [新しいポートの作成 :] をクリックし、[Standard TCP/IP Port] を選びます。
- 7 [次へ] をクリックします。
- 8 [TCP/IP デバイス] を選び、IP アドレスを入力します。
- 9 [次へ] をクリックします。
- 10 [ディスク使用 ...] をクリックします。
- 11 [参照 ...] をクリックします。
- 12 CD-ROM 内の目的のプリンタードライバーが入っているフォルダーを指定し、[開く] をクリックします。
 - 指定するフォルダーは、使用するプリンタードライバー、OS、言語に応じて選んでください。
選択できるプリンタードライバー：PCL ドライバー、PS ドライバー、XPS ドライバー
- 13 [OK] をクリックします。
[プリンター] リストが表示されます。
- 14 [次へ] をクリックします。
- 15 画面の指示に従って操作します。
 - [ユーザー アカウント制御] に関する画面が表示された場合は、[続行] または [はい] をクリックします。

- 16 [完了] をクリックします。
- 17 インストール終了後、インストールしたプリンターアイコンが [デバイスとプリンター] ウィンドウに表示されていることを確認します。
- 18 CD-ROM を CD-ROM ドライブから取出します。
以上で、プリンタードライバーのインストールの完了です。

Windows Vista/7/Server 2008/Server 2008 R2 をお使いの場合

新しくポートを作成してインストールする場合の手順は以下のとおりです。

- ✓ この作業を行うには、コンピューターの管理者権限が必要です。
- ✓ インストール途中でプリンターを検索するため、本機をネットワークに接続した状態で電源を ON にしてください。

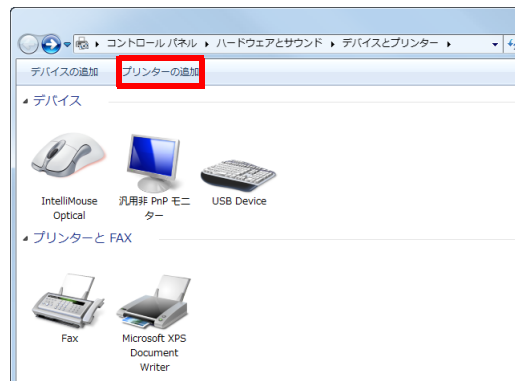
1 プリンタードライバーの CD-ROM をコンピューターの CD-ROM ドライブに入れます。

2 プリンターのウィンドウを表示します。

- Windows 7/Server 2008 R2 の場合は、スタートメニューから [デバイスとプリンター] をクリックします。
[デバイスとプリンター] が表示されていない場合は、[コントロール パネル] - [ハードウェアとサウンド] の [デバイスとプリンターの表示] をクリックします。[コントロール パネル] がアイコン表示になっている場合は、[デバイスとプリンター] をダブルクリックします。
- Windows Vista/Server 2008 の場合は、スタートメニューから [コントロール パネル] - [ハードウェアとサウンド] の [プリンタ] をクリックします。[コントロール パネル] がクラシック表示になっている場合は、[プリンタ] をダブルクリックします。

3 プリンターの追加を選びます。

- Windows 7/Server 2008 R2 の場合は、[プリンターの追加] をクリックします。
- Windows Vista/Server 2008 の場合は、[プリンタのインストール] をクリックします。



[プリンターの追加] ウィザードが表示されます。

4 [ローカル プリンターを追加します] をクリックします。

[プリンター ポートの選択] ダイアログボックスが表示されます。

5 [新しいポートの作成:] をクリックし、[Standard TCP/IP Port] を選びます。

6 [次へ] をクリックします。

7 [TCP/IP デバイス] を選び、IP アドレスを入力します。

8 [次へ] をクリックします。

→ [ポート情報がさらに必要です] または [追加のポート情報が必要です] 画面が表示される場合は、手順 9 へ進みます。

→ [プリンター ドライバのインストール] ダイアログボックスが表示される場合は、手順 12 へ進みます。

9 [カスタム] をチェックし、[設定 ...] をクリックします。

- 10 ポートに合わせて設定を変更し、[OK] をクリックします。
 - LPR 接続の場合は、[LPR] にチェックをつけ、[キュー名:] に「Print」と入力します。大文字、小文字も正確に入力する必要があります。
 - Port 9100 接続の場合は、[Raw] にチェックをつけ、[ポート番号:] に RAW ポート番号（初期設定では [9100]）を入力します。
 - 本機で LPR と Port 9100 の両方が有効の場合、プリンタードライバーと本機は LPR で接続されます。
- 11 [次へ] をクリックします。

[プリンター ドライバのインストール] ダイアログボックスが表示されます。
- 12 [ディスク使用 ...] をクリックします。
- 13 [参照 ...] をクリックします。
- 14 CD-ROM 内の目的のプリンタードライバーが入っているフォルダーを指定し、[開く] をクリックします。
 - 指定するフォルダーは、使用するプリンタードライバー、OS、言語に応じて選んでください。
選択できるプリンタードライバー：PCL ドライバー、PS ドライバー、XPS ドライバー
- 15 [OK] をクリックします。

[プリンター] リストが表示されます。
- 16 [次へ] をクリックします。
- 17 画面の指示に従って操作します。
 - [ユーザー アカウント制御] に関する画面が表示された場合は、[続行] または [はい] をクリックします。
- 18 [完了] をクリックします。
- 19 インストール終了後、インストールしたプリンターアイコンが [プリンタ] ウィンドウまたは [デバイスとプリンター] ウィンドウに表示されていることを確認します。
- 20 CD-ROM を CD-ROM ドライブから取出します。

以上で、プリンタードライバーのインストールの完了です。

Windows Server 2003 をお使いの場合

- ✓ この作業を行うには、コンピューターの管理者権限が必要です。
- 1 プリンタードライバーの CD-ROM をコンピューターの CD-ROM ドライブに入れます。
- 2 スタートメニューから [プリンタと FAX] をクリックします。
 - [プリンタと FAX] が表示されていない場合は、スタートメニューから [コントロール パネル] - [プリンタとその他のハードウェア] - [プリンタと FAX] をクリックします。
- 3 [プリンタの追加] をダブルクリックします。
[プリンタの追加ウィザード] が表示されます。
- 4 [次へ >] をクリックします。
- 5 [このコンピュータに接続されているローカル プリンタ] を選び、[次へ >] をクリックします。
 - [プラグ アンド プレイ対応プリンタを自動的に検出してインストールする] のチェックははずしておきます。
 - [プリンタポートの選択] ダイアログボックスが表示されます。
- 6 [新しいポートの作成 :] をクリックし、[ポートの種類 :] で [Standard TCP/IP Port] を選びます。
- 7 [次へ >] をクリックします。
[標準 TCP/IP プリンタ ポートの追加ウィザード] が起動します。
- 8 [次へ >] をクリックします。
- 9 [プリンタ名または IP アドレス :] ボックスに本機の IP アドレスを入力し、[次へ >] をクリックします。
 - [ポート情報がさらに必要です。] 画面が表示される場合は、手順 10 へ進みます。
 - [完了] 画面が表示される場合は、手順 13 へ進みます。
- 10 [カスタム] にチェックをつけ、[設定 :] をクリックします。
- 11 ポートに合わせて設定を変更し、[OK] をクリックします。
 - LPR 接続の場合は、[LPR] にチェックをつけ、[キュー名 :] に「Print」と入力します。大文字、小文字も正確に入力する必要があります。
 - Port 9100 接続の場合は、[Raw] にチェックをつけ、[ポート番号 :] に RAW ポート番号（初期設定では [9100]）を入力します。
- 12 [次へ >] をクリックします。
- 13 [完了] をクリックします。
[プリンタの追加ウィザード] が表示されます。
- 14 [ディスク使用 ...] をクリックします。
- 15 [参照 ...] をクリックします。
- 16 CD-ROM 内の目的のプリンタードライバーが入っているフォルダーを指定し、[開く] をクリックします。
 - 指定するフォルダーは、使用するプリンタードライバー、OS、言語に応じて選んでください。
選択できるプリンタードライバー：PCL ドライバー、PS ドライバー
- 17 [OK] をクリックします。
[プリンタ] リストが表示されます。
- 18 [次へ >] をクリックします。

- 19 画面の指示に従って操作します。
→ ネットワーク接続の場合は、ネットワーク設定完了後にテスト印刷で確認してください。
- 20 [完了] をクリックします。
- 21 インストール終了後、インストールしたプリンターアイコンが [プリンタと FAX] ウィンドウに表示されていることを確認します。
- 22 CD-ROM を CD-ROM ドライブから取出します。
以上で、プリンタードライバーのインストールの完了です。

3.3 IPP 接続でインストールする

お使いになるために必要な作業（管理者向け）

IPP の使用環境を設定します。

設定のしかたについては、1-61 ページをごらんください。



参考

本機で IPP 印刷を行うときに、コンピューターと本機の通信を SSL で暗号化してセキュリティを強化できます（IPPS 印刷）。SSL で通信するには、あらかじめ本機に証明書を登録する必要があります。設定のしかたについては、2-38 ページをごらんください。

Windows 8/8.1/Server 2012/Server 2012 R2 をお使いの場合

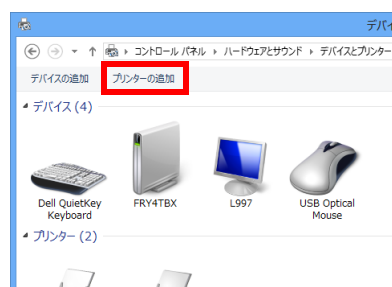
✓ この作業を行うには、コンピューターの管理者権限が必要です。

1 プリンタードライバーの CD-ROM をコンピューターの CD-ROM ドライブに入れます。

2 プリンターのウィンドウを表示します。

- Windows 8.1 の場合は、スタート画面で [⬇] をクリックし、[コントロール パネル] - [ハードウェアとサウンド] の [デバイスとプリンターの表示] をクリックします。
- Windows 8 の場合は、スタート画面を右クリックし、[すべてのアプリ] - [コントロール パネル] - [ハードウェアとサウンド] の [デバイスとプリンターの表示] をクリックします。
- Windows Server 2012/Server 2012 R2 の場合は、スタート画面で [コントロール パネル] - [ハードウェア] - [デバイスとプリンターの表示] をクリックします。

3 プリンターの追加を選びます。



[プリンターの追加] ウィザードが表示されます。

4 プリンターが検出された画面で、[探しているプリンターはこの一覧にはありません] をクリックします。

5 [共有プリンターを名前で作成する] に、次の形式で本機の URL を入力し、[次へ] をクリックします。

- `http:// <本機の IP アドレス> /ipp`
入力例：`http://192.168.1.20/ipp`
- IPPS 印刷に設定するときは「`https:// [ホスト名] . [ドメイン名] /ipp`」を入力します。
[ホスト名]、[ドメイン名] には、お使いの DNS サーバーに登録されているものを指定してください。
- 本機の証明書が証明機関により発行されたものでない場合は、本機の証明書を、Windows 8/8.1/Server 2012/Server 2012 R2 でコンピューターアカウント用の信頼されたルート証明機関の証明書として登録しておく必要があります。
- 本機に証明書を登録するとき、[ホスト名]、[ドメイン名] が証明書のコモンネームに表示されていることを確認してください。

6 [ディスク使用 ...] をクリックします。

7 [参照 ...] をクリックします。

- 8 CD-ROM 内の目的のプリンタードライバーが入っているフォルダーを指定し、[開く] をクリックします。
→ 指定するフォルダーは、使用するプリンタードライバー、OS、言語に応じて選んでください。
選択できるプリンタードライバー：PCL ドライバー、PS ドライバー、XPS ドライバー
- 9 [OK] をクリックします。
[プリンター] リストが表示されます。
- 10 [次へ] をクリックします。
- 11 画面の指示に従って操作します。
→ [ユーザー アカウント制御] に関する画面が表示された場合は、[続行] または [はい] をクリックします。
- 12 [完了] をクリックします。
- 13 インストール終了後、インストールしたプリンターアイコンが [デバイスとプリンター] ウィンドウに表示されていることを確認します。
- 14 CD-ROM を CD-ROM ドライブから取出します。
以上で、プリンタードライバーのインストールの完了です。

Windows Vista/7/Server 2008/Server 2008 R2 をお使いの場合

✓ この作業を行うには、コンピューターの管理者権限が必要です。

1 プリンタードライバーの CD-ROM をコンピューターの CD-ROM ドライブに入れます。

2 プリンターのウィンドウを表示します。

→ Windows 7/Server 2008 R2 の場合は、スタートメニューから [デバイスとプリンター] をクリックします。

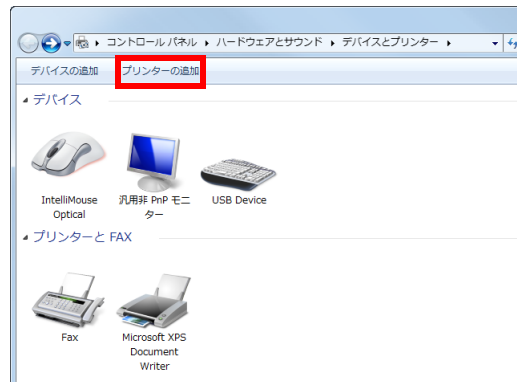
[デバイスとプリンター] が表示されていない場合は、[コントロール パネル] - [ハードウェアとサウンド] の [デバイスとプリンターの表示] をクリックします。[コントロール パネル] がアイコン表示になっている場合は、[デバイスとプリンター] をダブルクリックします。

→ Windows Vista/Server 2008 の場合は、スタートメニューから [コントロール パネル] - [ハードウェアとサウンド] の [プリンタ] をクリックします。[コントロール パネル] がクラシック表示になっている場合は、[プリンタ] をダブルクリックします。

3 プリンターの追加を選びます。

→ Windows 7/Server 2008 R2 の場合は、[プリンターの追加] をクリックします。

→ Windows Vista/Server 2008 の場合は、[プリンタのインストール] をクリックします。



[プリンターの追加] ウィザードが表示されます。

4 [ネットワーク、ワイヤレスまたは Bluetooth プリンターを追加します] をクリックします。

接続されているプリンターが検索されます。

5 プリンターが検出された画面で、[探しているプリンターはこの一覧にはありません] をクリックします。

6 [共有プリンターを名前で作成する] に、次の形式で本機の URL を入力し、[次へ] をクリックします。

→ `http:// <本機の IP アドレス> /ipp`
入力例 : `http://192.168.1.20/ipp`

→ IPPS 印刷に設定するときは「`https:// [ホスト名] . [ドメイン名] /ipp`」を入力します。
[ホスト名]. [ドメイン名] には、お使いの DNS サーバーに登録されているものを指定してください。

→ 本機の証明書が証明機関により発行されたものでない場合は、本機の証明書を、Windows Vista/7/Server 2008/Server 2008 R2 でコンピューターアカウント用の信頼されたルート証明機関の証明書として登録しておく必要があります。

→ 本機に証明書を登録するとき、[ホスト名]. [ドメイン名] が証明書のコモンネームに表示されていることを確認してください。

7 [ディスク使用 ...] をクリックします。

8 [参照 ...] をクリックします。

- 9 CD-ROM 内の目的のプリンタードライバーが入っているフォルダーを指定し、[開く] をクリックします。
→ 指定するフォルダーは、使用するプリンタードライバー、OS、言語に応じて選んでください。
選択できるプリンタードライバー：PCL ドライバー、PS ドライバー、XPS ドライバー
- 10 [OK] をクリックします。
[プリンター] リストが表示されます。
- 11 [OK] をクリックします。
- 12 画面の指示に従って操作します。
→ [ユーザー アカウント制御] に関する画面が表示された場合は、[続行] または [はい] をクリックします。
- 13 [完了] をクリックします。
- 14 インストール終了後、インストールしたプリンターアイコンが [プリンタ] ウィンドウまたは [デバイスとプリンター] ウィンドウに表示されていることを確認します。
- 15 CD-ROM を CD-ROM ドライブから取出します。
以上で、プリンタードライバーのインストールの完了です。設定が完了したプリンターは、通常のローカルプリンターと同様にお使いいただけます。

Windows Server 2003 をお使いの場合

- ✓ この作業を行うには、コンピューターの管理者権限が必要です。
- 1 プリンタードライバーの CD-ROM をコンピューターの CD-ROM ドライブに入れます。
- 2 スタートメニューから [プリンタと FAX] をクリックします。
 - [プリンタと FAX] が表示されていない場合は、スタートメニューから [コントロール パネル] - [プリンタとその他のハードウェア] - [プリンタと FAX] をクリックします。
- 3 [プリンタの追加] をダブルクリックします。
[プリンタの追加ウィザード] が表示されます。
- 4 [次へ >] をクリックします。
- 5 [ローカル プリンタまたはネットワーク プリンタ] 画面で、[ネットワーク プリンタまたはほかのコンピュータに接続されているプリンタ] を選び、[次へ >] をクリックします。
- 6 [プリンタの指定] 画面で、[インターネット上または自宅 / 会社のネットワーク上のプリンタに接続する] を選びます。
- 7 [URL:] に、次の形式で本機の URL を入力し、[次へ >] をクリックします。
 - http:// <本機の IP アドレス> /ipp
入力例 : http://192.168.1.20/ipp
 - IPPS 印刷に設定するときは「https:// [本機の IP アドレス] /ipp」を入力します。
 - [次へ >] をクリックしたあとに、確認のダイアログボックスが表示される場合は、[OK] をクリックします。
- 8 [ディスク使用 ...] をクリックします。
- 9 [参照 ...] をクリックします。
- 10 CD-ROM 内の目的のプリンタードライバーが入っているフォルダーを指定し、[開く] をクリックします。
 - 指定するフォルダーは、使用するプリンタードライバー、OS、言語に応じて選んでください。
選択できるプリンタードライバー : PCL ドライバー、PS ドライバー
- 11 [OK] をクリックします。
[プリンタ] リストが表示されます。
- 12 [OK] をクリックします。
- 13 画面の指示に従って操作します。
- 14 [完了] をクリックします。
- 15 インストール終了後、インストールしたプリンターアイコンが [プリンタと FAX] ウィンドウに表示されていることを確認します。
- 16 CD-ROM を CD-ROM ドライブから取出します。
以上で、プリンタードライバーのインストールの完了です。設定が完了したプリンターは、通常のローカルプリンターと同様にお使いいただけます。

3.4 Web サービス接続でインストールする

Web サービスについて

Web サービスは、ネットワーク上の機器を自動的に検出して必要なプリンタードライバーを組み込む機能です。

Windows Vista/7/8/8.1/Server 2008/Server 2008 R2/Server 2012/Server 2012 R2 をお使いの場合は、ネットワーク上にある Web サービス印刷機能に対応したプリンターを検索してインストールできます。

お使いになるために必要な作業（管理者向け）

Web サービスの使用環境を設定します。

設定のしかたについては、2-15 ページをごらんください。

インストールのしかた

- ✓ この作業を行うには、コンピューターの管理者権限が必要です。
- ✓ プリンタードライバーをインストールしたあとに、異なる種類のプリンタードライバーをインストールする場合は、先に既存のプリンタードライバーをパッケージごとアンインストールしてください。

- 1 本機のプリンタードライバーをインストールします。
 - 詳しくは、[ユーザーズガイド プリント機能編]をごらんください。インストールするポートはどのポートでも構いません。
- 2 本機をネットワークに接続した状態で電源を ON にします。
- 3 コンピューターの [ネットワークと共有センター] で [ネットワーク探索] が有効になっていることを確認します。
- 4 [ネットワーク] ウィンドウを開きます。
 - Windows 8/8.1/Server 2012/Server 2012 R2 の場合は、[コントロール パネル] の [ネットワークとインターネット] カテゴリをクリックし、[ネットワークのコンピューターとデバイスの表示] をクリックします。
 - Windows 7/Server 2008 R2 の場合は、[コンピューター] を開いて、[ネットワーク] をクリックします。
[ネットワーク] が表示されないときは、[コントロール パネル] の [ネットワークとインターネット] カテゴリをクリックし、[ネットワークのコンピューターとデバイスの表示] をクリックします。
 - Windows Vista/Server 2008 の場合は、スタートメニューから [ネットワーク] をクリックします。接続されているコンピューターとデバイスが検索されます。
- 5 本機のデバイス名を選び、ツールバーの [インストール] をクリックします。
 - Windows 8/8.1/Server 2012/Server 2012 R2 の場合は、ツールバーから [ネットワーク] - [デバイスとプリンターの追加] をクリックします。表示された画面で、本機のデバイス名を選び、[次へ] をクリックします。本機のプリンタードライバーが検索され、印刷の準備が完了します。
- 6 インストール終了後、インストールしたプリンターアイコンが [プリンタ] ウィンドウまたは [デバイスとプリンター] ウィンドウに表示されていることを確認します。



参照

プリンタードライバーが正しくインストールされない場合は、[ドライバーの更新 ...] が必要です。詳しくは、3-21 ページをごらんください。

3.5 USB 接続でインストールする

Windows Vista/7/8/8.1/Server 2008/Server 2008 R2/Server 2012/Server 2012 R2 をお使いの場合

Windows Vista/7/8/8.1/Server 2008/Server 2008 R2/Server 2012/Server 2012 R2 で USB ポートに接続する場合は、プリンタードライバーを先にインストールしてからプラグアンドプレイでプリンタードライバーと本機を関連付けます。

- ✓ Windows 7/8/8.1/Server 2008 R2/Server 2012/Server 2012 R2 の場合は、接続したあとにインストールディスクを指定できません。あらかじめプリンタードライバーをインストールしてください。
- ✓ Windows Vista/Server 2008 の場合は、先にプリンタードライバーをインストールしていない状態でも、引き続きプリンタードライバーのインストールディスクを指定してインストールできます。
- ✓ この作業を行うには、コンピューターの管理者権限が必要です。

- 1 本機のプリンタードライバーをインストールします。
→ 詳しくは、[ユーザズガイド プリント機能編] をごらんください。
- 2 本機とコンピューターを USB ケーブルで接続します。
- 3 本機の電源を入れます。
本機のプリンタードライバーが検索され、印刷の準備が完了します。
→ プリンタードライバーが検索されない場合は、本機を再起動してください。
- 4 インストール終了後、インストールしたプリンターアイコンが [プリンタ] ウィンドウまたは [デバイスとプリンター] ウィンドウに表示されていることを確認します。



参照

プリンタードライバーが正しくインストールされない場合は、[ドライバーの更新...] が必要です。詳しくは、3-21 ページをごらんください。


Windows Server 2003 をお使いの場合

- ✓ この作業を行うには、コンピューターの管理者権限が必要です。
- 1 本機とコンピューターを USB ケーブルで接続後、コンピューターを起動します。
 - 2 プリンタードライバーの CD-ROM をコンピューターの CD-ROM ドライブに入れます。
 - 3 本機の電源を入れます。
[新しいハードウェアの検出ウィザード] ダイアログボックスが表示されます。
→ [新しいハードウェアの検出ウィザード] ダイアログボックスが表示されない場合は、本機を再起動してください。
→ [Windows アップデートに接続する] 画面が表示された場合は、[いいえ、今回は接続しません] を選びます。
 - 4 [一覧または特定の場所からインストールする (詳細)] を選び、[次へ >] をクリックします。
 - 5 [次の場所で最適のドライバを検索する] から [次の場所を含める:] を選び、[参照] をクリックします。
 - 6 CD-ROM 内の目的のプリンタードライバーが入っているフォルダーを指定し、[OK] をクリックします。
→ 指定するフォルダーは、使用するプリンタードライバー、OS、言語に応じて選んでください。
選択できるプリンタードライバー：PCL ドライバー、PS ドライバー
 - 7 [次へ >] をクリックし、画面の指示に従って操作します。
 - 8 [完了] をクリックします。

- 9 インストール終了後、インストールしたプリンターアイコンが「プリンタと FAX」ウィンドウに表示されていることを確認します。
- 10 CD-ROM を CD-ROM ドライブから取出します。
以上で、プリンタードライバーのインストールの完了です。

プリンタードライバーの更新

Windows 7/8/8.1/Server 2008/Server 2008 R2/Server 2012/Server 2012 R2 でプリンタードライバーを先にインストールせずに本機を接続した場合、プリンタードライバーが正しく認識されません。この場合は、「ドライバーの更新 ...」が必要です。

- 1 プリンターのウィンドウを表示します。
 - Windows 8.1 の場合は、スタート画面で「」をクリックし、「コントロール パネル」 - 「ハードウェアとサウンド」の「デバイスとプリンターの表示」をクリックします。
「コントロール パネル」がアイコン表示になっている場合は、「デバイスとプリンター」をダブルクリックします。
 - Windows 8 の場合は、スタート画面を右クリックし、「すべてのアプリ」 - 「コントロール パネル」 - 「ハードウェアとサウンド」の「デバイスとプリンターの表示」をクリックします。
「コントロール パネル」がアイコン表示になっている場合は、「デバイスとプリンター」をダブルクリックします。
 - Windows Server 2012/Server 2012 R2 の場合は、スタート画面の「コントロール パネル」 - 「ハードウェア」の「デバイスとプリンターの表示」をクリックします。
「コントロール パネル」がアイコン表示になっている場合は、「デバイスとプリンター」をダブルクリックします。
 - Windows 7/Server 2008 R2 の場合は、スタートメニューから「デバイスとプリンター」をクリックします。
「デバイスとプリンター」が表示されていない場合は、「コントロール パネル」 - 「ハードウェアとサウンド」の「デバイスとプリンターの表示」をクリックします。
「コントロール パネル」がアイコン表示になっている場合は、「デバイスとプリンター」をダブルクリックします。
- 2 「未指定」カテゴリに表示されている本機のデバイス名を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
 - 本機のデバイス名でなく「不明なデバイス (Unknown Device)」と表示されているときは、右クリックでデバイスを削除してから、プリンタードライバーをインストールしてください。
- 3 「ハードウェア」タブの「プロパティ」をクリックします。
- 4 「全般」タブの「設定の変更」をクリックします。
- 5 「ドライバー」タブの「ドライバーの更新 ...」をクリックします。
- 6 ドライバーソフトウェアの検索方法を選ぶ画面で「コンピューターを参照してドライバーソフトウェアを検索します」をクリックします。
- 7 「参照 ...」をクリックします。
- 8 CD-ROM 内の目的のプリンタードライバーが入っているフォルダーを指定し、「OK」をクリックします。
 - 指定するフォルダーは、使用するプリンタードライバー、OS、言語に応じて選んでください。
選択できるプリンタードライバー：PCL ドライバー、PS ドライバー、XPS ドライバー
- 9 「次へ」をクリックします。
- 10 画面の指示に従って操作します。
- 11 「閉じる」をクリックします。
- 12 インストール終了後、インストールしたプリンターアイコンが「デバイスとプリンター」ウィンドウに表示されていることを確認します。

- 13 CD-ROM を CD-ROM ドライブから取出します。
以上で、プリンタードライバーの更新の完了です。

3.6 プリンタードライバーを手動で削除する

インストーラーを使わずにインストールした場合は、手動でプリンタードライバーを削除します。

- 1 プリンターのウィンドウを表示します。
 - Windows 8.1 の場合は、スタート画面で [⬇] をクリックし、[コントロール パネル] - [ハードウェアとサウンド] の [デバイスとプリンターの表示] をクリックします。
 - Windows 8 の場合は、スタート画面を右クリックし、[すべてのアプリ] - [コントロール パネル] - [ハードウェアとサウンド] の [デバイスとプリンターの表示] をクリックします。
 - Windows Server 2012/Server 2012 R2 の場合は、スタート画面で [コントロール パネル] - [ハードウェア] の [デバイスとプリンターの表示] をクリックします。
 - Windows 7/Server 2008 R2 の場合は、スタートメニューから [デバイスとプリンター] をクリックします。
[デバイスとプリンター] が表示されていない場合は、[コントロール パネル] - [ハードウェアとサウンド] の [デバイスとプリンターの表示] をクリックします。
 - Windows Vista/Server 2008 の場合は、スタートメニューから [コントロール パネル] - [ハードウェアとサウンド] の [プリンタ] をクリックします。[コントロール パネル] がクラシック表示になっている場合は、[プリンタ] をダブルクリックします。
 - Windows Server 2003 の場合は、スタートメニューから [プリンタと FAX] をクリックします。
[プリンタと FAX] が表示されていない場合は、[コントロール パネル] - [プリンタとその他のハードウェア] - [プリンタと FAX] をクリックします。[コントロール パネル] がクラシック表示になっている場合は、[プリンタ] をダブルクリックします。
- 2 削除するプリンターのアイコンをクリックします。
- 3 プリンタードライバーを削除します。
 - Windows 7/8/8.1/Server 2008 R2/Server 2012/Server 2012 R2 の場合は、ツールバーの [デバイスの削除] をクリックします。
 - Windows Vista/Server 2003/Server 2008 の場合は、キーボードの [Delete] を押します。
- 4 以降は、画面の指示に従って操作します。
削除が終了すると、ウィンドウからアイコンが消えます。
- 5 [サーバーのプロパティ] を開きます。
 - Windows 7/8/8.1/Server 2008 R2/Server 2012/Server 2012 R2 の場合は、ほかのプリンターを選び、ツールバーの [プリント サーバー プロパティ] をクリックします。
 - Windows Vista/Server 2008 の場合は、[プリンタ] ウィンドウの何もない部分を右クリックし、[管理者として実行] - [サーバーのプロパティ] をクリックします。
 - Windows Server 2003 の場合は、[ファイル] メニューをクリックし、[サーバーのプロパティ] をクリックします。
 - [ユーザー アカウント制御] に関する画面が表示されるときは、[続行] または [はい] をクリックします。
- 6 [ドライバ] タブをクリックします。
- 7 [インストールされたプリンタ ドライバ:] 一覧から、削除したいプリンタードライバーを選び、[削除 ...] をクリックします。
 - Windows Vista/7/8/8.1/Server 2008 R2/Server 2012/Server 2012 R2 の場合は、手順 8 へ進みます。
 - Windows Server 2003 の場合は、手順 9 へ進みます。
- 8 削除の対象を確認する画面で [ドライバとドライバパッケージを削除する] または [ドライバーとパッケージを削除する] を選び、[OK] をクリックします。
- 9 削除を確認する画面で [はい] をクリックします。
 - Windows Vista/7/8/8.1/Server 2008 R2/Server 2012/Server 2012 R2 をお使いの場合は、さらに削除を確認する画面が表示されますので [削除] をクリックします。

10 開いている画面を閉じ、コンピューターを再起動します。

→ 必ず再起動してください。

以上で、プリンタードライバーの削除の完了です。



参考

Windows Server 2003 をお使いの場合は、先の手順でプリンタードライバーを削除しても、機種情報ファイルがコンピューターに残ります。このため同一バージョンのプリンタードライバーを再インストールするとき、ドライバーの書換えができない場合があります。その場合は以下のファイルも削除してください。

- 「C:¥WINDOWS¥system32¥spool¥drivers¥w32x86」フォルダー（x64 システムの場合は、「C:¥WINDOWS¥system32¥spool¥drivers¥x64」フォルダー）を確認し、該当機種のフォルダーがあれば削除します。ただし、PCL コニカミノルタ製ドライバーと PostScript コニカミノルタ製ドライバー、ファクスドライバーなど複数のドライバーがインストールされている場合は、全てのドライバーの機種情報が削除されます。ほかのドライバーを残す場合は削除しないでください。
- 「C:¥WINDOWS¥inf」フォルダーにある「oem*.inf」と「oem*.PNF」を削除します（ファイル名の「*」は番号を示し、番号はコンピューターの環境により異なります）。削除する前に inf ファイルを開いて、最後の数行に記述してある機種名を確認し、該当機種のファイルであることを確認してください。PNF ファイルは inf ファイルと同じ番号となります。
- Windows Vista/7/8/8.1/Server 2008/Server 2008 R2/Server 2012/Server 2012 R2 で「ドライバとドライバ パッケージを削除する」または「ドライバーとパッケージを削除する」で操作した場合は、この作業は不要です。

4

LPR/IPP 接続によるプリン
ターの追加（Mac OS 環境）

4 LPR/IPP 接続によるプリンターの追加（Mac OS 環境）

4.1 LPR 接続で使う

お使いになるために必要な作業（管理者向け）

LPR の使用環境を設定します。

設定のしかたについては、1-54 ページをごらんください。

Mac OS X 10.4 以降をお使いの場合

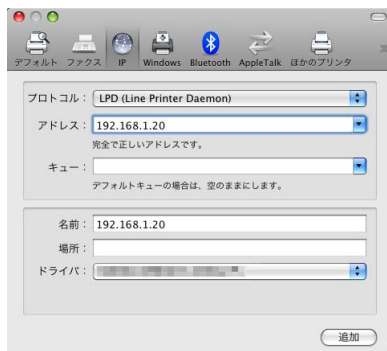
Mac OS X 10.4 以降をお使いの場合に、LPR 接続でプリンターを追加する手順を説明します。

- 1 アップルメニューの [システム環境設定 ...] を選びます。
- 2 [ネットワーク] アイコンをクリックします。
- 3 Ethernet の設定画面を表示します。
 - Mac OS X 10.5 以降をお使いの場合は、[Ethernet] を選び、[詳細 ...] をクリックします。
 - Mac OS X 10.4 をお使いの場合は、[内蔵 Ethernet] を選び、[設定 ...] をクリックします。
- 4 [TCP/IP] タブをクリックします。
- 5 コンピューターを接続するネットワークの設定に応じて、設定方法と IP アドレスやサブネットマスクなどを設定します。
- 6 画面左上のクローズボタンをクリックします。
 - [このサービスには未保存の変更があります] というメッセージが表示されたら [適用] をクリックします。続いて、コンピューターにプリンターを追加します。
- 7 アップルメニューの [システム環境設定 ...] を選びます。
- 8 [プリントとファクス] アイコンをクリックします。
 - Mac OS X 10.7/10.8 の場合は、[プリントとスキャン] アイコンをクリックします。Mac OS X 10.9 の場合は、[プリンタとスキャナ] アイコンをクリックします。
- 9 画面左下の [+] をクリックします。
 - Mac OS X 10.7/10.8/10.9 の場合は、[+] をクリックした一覧から [ほかのプリンタまたはスキャナを追加 ...] または [プリンタまたはスキャナを追加 ...] を選択します。
- 10 [IP] または [IP プリンタ] をクリックします。
- 11 [プロトコル:] で [LPD (Line Printer Daemon)] を選びます。

12 [アドレス:] に本機の IP アドレスを入力します。

IP アドレスで指定した本機に対応するプリンタードライバーが [ドライバ:] に表示されます。

- プリンタードライバーが表示された場合は、手順 14 へ進みます。
- プリンタードライバーが正しく表示されない場合は、手順 13 へ進みます。



13 プリンタードライバーを手動で選びます。

- Mac OS X 10.9 をお使いの場合は、[ドライバ:] で [ソフトウェアを選択 ...] を選び、別ウィンドウで表示される一覧から目的のプリンターのドライバーをクリックします。
- Mac OS X 10.6/10.7/10.8 をお使いの場合は、[ドライバ:] で [プリンタソフトウェアを選択 ...] を選び、別ウィンドウで表示される一覧から目的のプリンターのドライバーをクリックします。
- Mac OS X 10.5 をお使いの場合は、[ドライバ:] で [使用するドライバを選択 ...] を選び、一覧から目的のプリンターのドライバーをクリックします。
- Mac OS X 10.4 をお使いの場合は、[使用するドライバ:] で [KONICA MINOLTA] を選び、一覧から目的のプリンターのドライバーをクリックします。

14 [追加] をクリックします。

以上で、プリンターの追加の完了です。

Mac OS X 10.3 をお使いの場合

Mac OS X 10.3 をお使いの場合に、LPR 接続でプリンターを追加する手順を説明します。

- 1 アップルメニューの [システム環境設定 ...] を選びます。
- 2 [ネットワーク] アイコンをクリックします。
- 3 [表示] で [内蔵 Ethernet] を選びます。
- 4 [TCP/IP] タブをクリックします。
- 5 コンピューターを接続するネットワークの設定に応じて、該当する [設定:] 項目を選び、IP アドレスやサブネットマスクなどを設定します。
- 6 画面左上のクローズボタンをクリックします。
 - [設定の変更を適用しますか?] というメッセージが表示されたら [適用] をクリックします。
 続いて、コンピューターにプリンターを追加します。
- 7 [Macintosh HD] (システムのハードディスク) - [アプリケーション] - [ユーティリティ] 内にある [プリンタ設定ユーティリティ] をダブルクリックして開きます。
- 8 [使用可能なプリンタがありません。] 画面が表示された場合は、[追加] をクリックします。プリンタリストが表示された場合は、[追加] をクリックします。
 - すでに使用可能なプリンターを設定している場合は、[使用可能なプリンタがありません。] 画面は表示されません。
- 9 接続方法として [IP プリント] を選びます。

- 10 [プリンタのタイプ:] で [LPD/LPR] を選びます。
- 11 [プリンタのアドレス:] に本機の IP アドレスを入力します。
- 12 [プリンタの機種:] で [KONICA MINOLTA] を選び、機種名一覧から目的のプリンターのドライバーをクリックします。



- 13 [追加] をクリックします。
以上で、プリンターの追加の完了です。

4.2 IPP 接続で使う

お使いになるために必要な作業（管理者向け）

IPP の使用環境を設定します。

設定のしかたについては、1-61 ページをのぞいてください。

Mac OS X 10.4 以降をお使いの場合

Mac OS X 10.4 以降をお使いの場合に、IPP 接続でプリンターを追加する手順を説明します。

- 1 アップルメニューの [システム環境設定 ...] を選びます。
- 2 [ネットワーク] アイコンをクリックします。
- 3 Ethernet の設定画面を表示します。
 - Mac OS X 10.5 以降をお使いの場合は、[Ethernet] を選び、[詳細 ...] をクリックします。
 - Mac OS X 10.4 をお使いの場合は、[内蔵 Ethernet] を選び、[設定 ...] をクリックします。
- 4 [TCP/IP] タブをクリックします。
- 5 コンピューターを接続するネットワークの設定に応じて、設定方法と IP アドレスやサブネットマスクなどを設定します。
- 6 画面左上のクローズボタンをクリックします。
 - [このサービスには未保存の変更があります] というメッセージが表示されたら [適用] をクリックします。続いて、コンピューターにプリンターを追加します。
- 7 アップルメニューの [システム環境設定 ...] を選びます。
- 8 [プリントとファクス] アイコンをクリックします。
 - Mac OS X 10.7/10.8 の場合は、[プリントとスキャン] アイコンをクリックします。Mac OS X 10.9 の場合は、[プリンタとスキャナ] アイコンをクリックします。
- 9 画面左下の [+] をクリックします。
 - Mac OS X 10.7/10.8/10.9 の場合は、[+] をクリックした一覧から [ほかのプリンタまたはスキャナを追加 ...] または [プリンタまたはスキャナを追加 ...] を選択します。
- 10 [IP] または [IP プリンタ] をクリックします。
- 11 [プロトコル:] で [IPP (Internet Printing Protocol)] を選びます。
- 12 [アドレス:] に本機の IP アドレスを入力し、[キュー:] に「ipp」を入力します。

IP アドレスで指定した本機に対応するプリンタードライバーが [ドライバ:] に表示されます。

 - プリンタードライバーが表示された場合は、手順 14 へ進みます。
 - プリンタードライバーが正しく表示されない場合は、手順 13 へ進みます。



13 プリンタードライバーを手動で選びます。

- Mac OS X 10.9 をお使いの場合は、[ドライバ:] で [ソフトウェアを選択 ...] を選び、別ウィンドウで表示される一覧から目的のプリンターのドライバーをクリックします。
- Mac OS X 10.6/10.7/10.8 をお使いの場合は、[ドライバ:] で [プリンタソフトウェアを選択 ...] を選び、別ウィンドウで表示される一覧から目的のプリンターのドライバーをクリックします。
- Mac OS X 10.5 をお使いの場合は、[ドライバ:] で [使用するドライバを選択 ...] を選び、一覧から目的のプリンターのドライバーをクリックします。
- Mac OS X 10.4 をお使いの場合は、[使用するドライバ:] で [KONICA MINOLTA] を選び、一覧から目的のプリンターのドライバーをクリックします。

14 [追加] をクリックします。

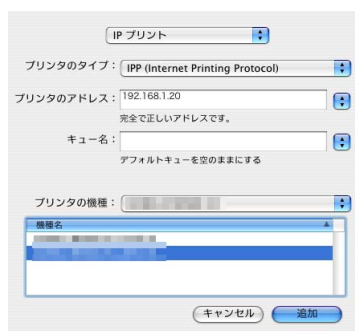
以上で、プリンターの追加の完了です。

Mac OS X 10.3 をお使いの場合

Mac OS X 10.3 をお使いの場合に、IPP 接続でプリンターを追加する手順を説明します。

- 1 アップルメニューの [システム環境設定 ...] を選びます。
- 2 [ネットワーク] アイコンをクリックします。
- 3 [表示] で [内蔵 Ethernet] を選びます。
- 4 [TCP/IP] タブをクリックします。
- 5 コンピューターを接続するネットワークの設定に応じて、該当する [設定:] 項目を選び、IP アドレスやサブネットマスクなどを設定します。
- 6 画面左上のクローズボタンをクリックします。
 - [設定の変更を適用しますか?] というメッセージが表示されたら [適用] をクリックします。続いて、コンピューターにプリンターを追加します。
- 7 [Macintosh HD] (システムのハードディスク) - [アプリケーション] - [ユーティリティ] 内にある [プリンタ設定ユーティリティ] をダブルクリックして開きます。
- 8 [使用可能なプリンタがありません。] 画面が表示された場合は、[追加] をクリックします。プリンタリストが表示された場合は、[追加] をクリックします。
 - すでに使用可能なプリンターを設定している場合は、[使用可能なプリンタがありません。] 画面は表示されません。
- 9 接続方法として [IP プリント] を選びます。
- 10 [プリンタのタイプ:] で [IPP (Internet Printing Protocol)] を選びます。
- 11 [プリンタのアドレス:] に本機の IP アドレスを入力します。
 - [キュー名:] は空欄にします。

- 12 [プリンタの機種:] で [KONICA MINOLTA] を選び、機種名一覧から目的のプリンターのドライバーをクリックします。



- 13 [追加] をクリックします。
以上で、プリンターの追加の完了です。



Linux 環境で印刷する

5 Linux 環境で印刷する

5.1 必要なシステム環境

プリンタードライバーのインストールを行う前に、以下の動作環境を確認してください。

項目	仕様
OS	Red Hat Enterprise Linux 4/5/6 Desktop SUSE Linux Enterprise Desktop 9/10/11 Red Hat Enterprise Linux 4/5/6 server SUSE Linux Enterprise Server 9/10/11
CPU	OS が推奨する環境以上
メモリー	OS が推奨するメモリー容量
ドライブ	CD-ROM ドライブ



参考

ここでは、Red Hat Enterprise Linux 5 での操作を例に説明します。

5.2 印刷の準備

5.2.1 プリンターを追加する

- ✓ プリンタードライバのインストールをする前に、すべてのアプリケーションを終了させてください。
 - ✓ プリンターを追加するにはルート権限が必要です。
- 1 本機を USB 接続またはネットワーク接続します。
 - USB 接続した場合に、プリンタードライバを指定するダイアログボックスが表示されたときは、[キャンセル] をクリックしてダイアログボックスを閉じてください。
 - 2 プリンタードライバの CD-ROM をコンピューターの CD-ROM ドライブに入れます。
 - 3 [システム] メニューから [管理] - [印刷] を選びます。
 - 4 [新規プリンタ] をクリックします。
 - 5 [プリンタ名]、[説明]、[場所] を入力し、[進む] をクリックします。
デバイス欄にプリンターが自動検出されます。
 - 6 接続方法を選びます。
 - USB 接続の場合は、デバイス欄で「本機の名前 USB #1」を選びます。
 - ネットワーク接続の場合は、デバイス欄で自動検出された本機を選びます。
 - デバイス欄に本機が表示されない場合は、接続方法に応じてポートを選びます。
[AppSocket/HP jetDirect]、[Internet Printing Protocol (ipp)]、[LPD/LPR Host or Printer]
 - 7 [進む] をクリックします。
 - 8 [PPD ファイルを提供する] を選びます。
 - 9 フォルダーアイコンをクリックし、CD-ROM 内の PPD ファイルを指定します。
 - 各言語の PPD ファイルは、「Drivers/LinuxPPD/<language>」フォルダーから取得できます。
言語に適した PPD ファイルを使用してください。
 - 10 [進む] をクリックします。
 - 11 [適用] をクリックします。
 - 12 CD-ROM を CD-ROM ドライブから取出します。
以上で、プリンタードライバのインストールの完了です。

5.2.2 プリンターを手動で追加する

PPD ファイルを手動インストールする

- ✓ プリンタードライバのインストールをする前に、すべてのアプリケーションを終了させてください。
 - ✓ プリンタードライバをインストールするにはルート権限が必要です。
- 1 プリンタードライバの CD-ROM をコンピューターの CD-ROM ドライブに入れます。
 - 2 CD-ROM から PPD ファイルを「/usr/share/cups/model」にコピーします。
 - ➔ 各言語の PPD ファイルは、「Drivers/LinuxPPD/<language>」フォルダーから取得できます。言語に適した PPD ファイルを使用してください。
 - 3 メインメニューから [アプリケーション] - [アクセサリ] - [GNOME 端末] を選択します。
 - 4 CUPS を再起動します。
 - ➔ 「/etc/init.d/cups restart」と入力し、Enter キーを押します。
 - 5 [GNOME 端末] を終了します。
 - 6 CD-ROM を CD-ROM ドライブから取出します。

以上で、プリンタードライバのインストールの完了です。続いて、「CUPS Administration Web Page からプリンターを追加する」へ進みます。

CUPS Administration Web Page からプリンターを追加する

- ✓ プリンタードライバをインストールするにはルート権限が必要です。
- 1 本機を USB 接続またはネットワーク接続します。
 - ➔ USB 接続した場合に、プリンタードライバを指定するダイアログボックスが表示されたときは、[キャンセル] をクリックしてダイアログボックスを閉じてください。
 - 2 Web ブラウザーを起動します。
 - 3 URL に「http://localhost:631」と入力します。

CUPS Administration Web page が表示されます。
 - 4 [プリンタの追加] をクリックします。
 - 5 [名前]、[場所]、[説明]、を入力し、[続ける] をクリックします。
 - 6 デバイスリストから接続方法を選び、[続ける] をクリックします。
 - ➔ TCP/IP 接続の場合：[AppSocket/HP jetDirect]、[Internet Printing Protocol (ipp)]、[LPD/LPR Host or Printer] のいずれかを選びます。
 - ➔ USB 接続の場合：[USB Printer #1] を選び、手順 8 へ進みます。
 - 7 以下の形式でデバイス URI を入力し、[続ける] をクリックします。
 - ➔ socket:// (プリンター名もしくは本機の IP アドレス) : (ポート番号)
 - IP アドレスの場合の入力例：socket://192.168.1.190:9100
 - プリンター名の場合の入力例：socket://Hostname:9100
 - (プリンター名は IP アドレスで代用できます。また、ポート番号は省略できます。)
 - 8 メーカー欄で [KONICA MINOLTA] を選び、[続ける] をクリックします。
 - ➔ 各言語の PPD ファイルは、「Drivers/LinuxPPD/<language>」フォルダーから取得できます。言語に適した PPD ファイルを使用してください。
 - 9 モデル欄で本機を選び、[プリンタの追加] をクリックします。
 - 10 管理者権限を使用するために、ユーザー名とパスワードを入力したあと、[OK] をクリックします。

5.2.3 プリンタードライバーの初期設定

はじめてお使いになるときは、本機のオプションの装着状態などを正しくプリンタードライバーに設定します。必要に応じて、プリンタードライバーの印刷設定の初期値を変更できます。



参考

- 設定項目の名称や表示順序は、お使いの OS やそのバージョン、または CUPS のバージョンによって異なります。
- ここでは、本機固有の印刷機能について説明します。

- 1 Web ブラウザーを起動します。
- 2 URL に「http://localhost:631」と入力します。
- 3 [プリンタの管理] をクリックします。
- 4 [プリンタオプション設定] をクリックします。
プリンタードライバーの設定ページが表示されます。

[インストールされたオプション]

項目	説明
[給紙ユニット]	本機に装着している給紙ユニットを選びます。 初期値は [なし] です。
[ハードディスク]	本機では [インストール済み] を選びます。

重要

本機の機種名や装着されているオプションが設定されていないと、オプションの機能を使用できません。オプションを装着している場合は、必ず設定を行ってください。

[General]

項目	説明
[ソート (1 部ごと)]	複数の部数を印刷するときに、1 部ずつ区別して排紙するかどうかを選びます。 初期値は [オン] です。
[用紙トレイ]	印刷する用紙の給紙トレイを選びます。
[用紙種類]	印刷する用紙の種類を選びます。
[解像度]	印刷時の解像度を選びます。 初期値は [600dpi] です。
[用紙サイズ]	印刷する用紙のサイズを選びます。
[近似サイズに拡大縮小]	トレイにある用紙サイズがページサイズに合わないときに、自動的にページを縮小もしくは拡大して適切な用紙を使用するかどうかを選びます。 初期値は [オフ] です。
[印刷種類]	用紙の印刷面を選びます。 初期値は [両面] です。
[原稿の向き]	原稿の向きを指定します。 初期値は [縦] です。
[開き方向 / とじ方向]	とじ位置を選びます。 初期値は [左とじ] です。
[カラー選択]	印刷する色を選びます。 初期値は [カラー] です。
[光沢モード]	画像に光沢をつけて印刷するかどうかを選びます。 初期値は [オフ] です。
[エッジ強度]	エッジ部分を強調する場合に、エッジ部分を強調する度合いを選びます。 初期値は [中] です。

[イメージ設定]

項目	説明
[イメージ RGB カラー]	入力 RGB の色空間を指定します。 初期値は [sRGB] です。
[イメージ RGB 色変換]	入力 RGB からデバイス CMYK への変換特性を指定します。 初期値は [写真調] です。
[イメージ RGB グレー再現]	黒、グレーの印刷方法を指定します。 初期値は [全て黒 (K) トナー] です。
[イメージ スクリーン]	ハーフトーンの処理方法を選びます。 初期値は [精細] です。
[イメージ エッジ強調]	エッジ部分を強調するかどうかを選びます。 初期値は [オフ] です。

[テキスト設定]

項目	説明
[テキスト RGB カラー]	入力 RGB の色空間を指定します。 初期値は [sRGB] です。
[テキスト RGB 色変換]	入力 RGB からデバイス CMYK への変換特性を指定します。 初期値は [鮮やか] です。
[テキスト RGB グレー再現]	黒、グレーの印刷方法を指定します。 初期値は [全て黒 (K) トナー] です。
[テキスト スクリーン]	ハーフトーンの処理方法を選びます。 初期値は [高精細] です。
[テキスト エッジ強調]	エッジ部分を強調するかどうかを選びます。 初期値は [オン] です。

[グラフィックス設定]

項目	説明
[グラフィックス RGB カラー]	入力 RGB の色空間を指定します。 初期値は [sRGB] です。
[グラフィックス RGB 色変換]	入力 RGB からデバイス CMYK への変換特性を指定します。 初期値は [鮮やか] です。
[グラフィックス RGB グレー再現]	黒、グレーの印刷方法を指定します。 初期値は [全て黒 (K) トナー] です。
[グラフィックス スクリーン]	ハーフトーンの処理方法を選びます。 初期値は [精細] です。
[グラフィックス エッジ強調]	エッジ部分を強調するかどうかを選びます。 初期値は [オン] です。

[シミュレーション]

項目	説明
[シミュレーションプロファイル]	入力 CMYK のシミュレーションプロファイルを選びます。 初期値は [なし] です。
[用紙下地色にあわせる]	シミュレーションを実施するときに用紙の下地色にあわせて印刷するかどうかを選びます。 初期値は [オフ] です。
[CMYK グレー再現]	シミュレーションを実施するときの CMYK 入力データにおける K 版の印刷方法を指定します。 初期値は [4 色 (CMYK) トナー] です。

5.3 印刷のしかた

ここでは、Red Hat Enterprise Linux 5 上で OpenOffice を使用した場合の印刷手順を説明します。

- ✓ アプリケーションによって、印刷ダイアログおよび印刷設定ダイアログの内容が異なります。
- ✓ お使いの OS のバージョンによっては下記の手順と操作が異なる場合があります。

- 1 アプリケーションソフトウェアで原稿データを開き、[ファイル] メニューから [印刷] をクリックします。
- 2 印刷したいプリンターを指定します。
- 3 [印刷] をクリックします。
印刷が実行されます。

6

認証装置（IC カード認証タイプ）を使う

6 認証装置（IC カード認証タイプ）を使う

6.1 認証装置（IC カード認証タイプ）について

認証装置（IC カード認証タイプ）は、IC カードの読取りにより個人認証を行う「IC カード認証」のシステムです。社員証など対応する非接触 IC カードを登録しておけば、ユーザーの入退室管理などと連動して本機を使うことができ、認証システムを一本化することができます。

本機でユーザー認証を導入している場合、IC カードによる認証で本機のログインやプリントジョブの印刷を行うことができます。



参考

IC カードによるユーザー認証を導入するには、オプションの認証装置に加えて、サービスエンジニアによる設定が必要です。詳しくは、サービス実施店にお問い合わせください。

6.2 お使いになるために必要な作業（管理者向け）

6.2.1 本機の認証設定をする

本機には本体装置認証の形式でユーザー認証を設定する必要があります。

- 1 Web Connection の管理者モードにログインします。
- 2 管理者モードの [セキュリティ] - [認証] - [一般設定] で次の設定をします。

設定	説明
[ユーザー認証]	本体装置認証を導入するときは、[デバイス] を選びます。

- 3 管理者モードの [セキュリティ] - [認証デバイス設定] - [一般設定] で次の設定をします。

設定	説明
[認証タイプ]	本機へのログインのしかたを選びます。 <ul style="list-style-type: none">・ [カード認証]：IC カードを置くだけでログインします。・ [カード認証 + パスワード]：IC カードを置き、パスワードを入力することでログインします。 初期値は [なし] です。

以上で、認証設定の完了です。

本機の認証機能（本体装置認証）の設定が終わったら、ユーザーの認証情報を登録します。

6.2.2 ユーザーの認証情報を登録する

認証装置をコンピューターに接続し、コンピューターから Data Administrator を使ってユーザーを登録します。

Data Administrator について

Data Administrator は、対応する装置の認証情報や宛先情報を、ネットワーク上のコンピューターから編集／登録するための管理用ツールです。

装置から認証情報や宛先情報を取込み、編集したあとに再び装置に書出すことができます。

Data Administrator をセットアップする

セットアップは、認証装置の IC CardDriver（USB-Driver）をインストールして、次に Data Administrator Plugin for IC Card Authentication Unit AU-201 をインストールする手順で行います。

- ✓ ここでは、Windows 7/8/8.1 環境でのセットアップ方法を説明します。
- ✓ あらかじめ、コンピューターに Data Administrator V4.1.30000 以降のインストールが必要です。インストール方法について詳しくは、Data Administrator のマニュアルをごらんください。
- ✓ お使いの Data Administrator のバージョン情報は、Data Administrator の [ヘルプ] メニューから [バージョン情報] - [プラグインバージョン情報] で確認できます。
- ✓ IC CardDriver (USB-Driver) および Data Administrator Plugin は、認証装置に同梱されている CD-ROM に収録されています。

1 本機の電源スイッチを OFF にし、本機から認証装置を取外します。

2 IC CardDriver（USB-Driver）をインストールします。

→ 認証装置をコンピューターの USB ポートに接続します。

重要

USB ケーブルの抜き差しは、プラグの部分を持って行ってください。故障の原因となります。

認証装置と同一のポートに他の USB 機器を接続しないでください。USB パワーが供給不足になり正しく動作できなくなります。

USB ハブを使う場合は、500 mA 以上の電力を供給できるセルフパワーの USB ハブをお使いください。

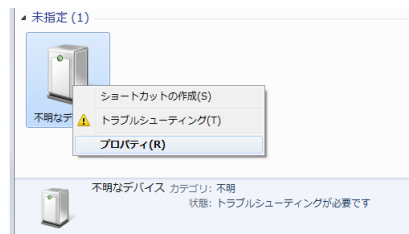
3 [デバイスとプリンター] ウィンドウを開きます。

→ Windows 8.1 の場合は、スタート画面で [⬇] をクリックし、[コントロール パネル] - [ハードウェアとサウンド] の [デバイスとプリンターの表示] をクリックします。

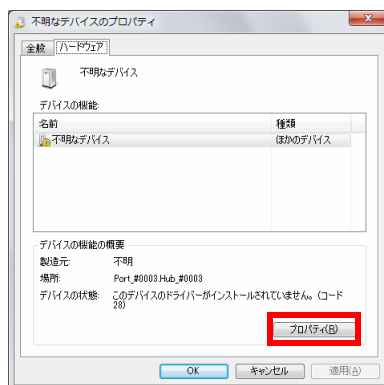
→ Windows 8 の場合は、スタート画面を右クリックし、[すべてのアプリ] - [コントロール パネル] - [ハードウェアとサウンド] の [デバイスとプリンターの表示] をクリックします。

→ Windows 7 の場合は、スタートメニューから [デバイスとプリンター] をクリックします。[デバイスとプリンター] が表示されていない場合は、[コントロール パネル] - [ハードウェアとサウンド] の [デバイスとプリンターの表示] をクリックします。

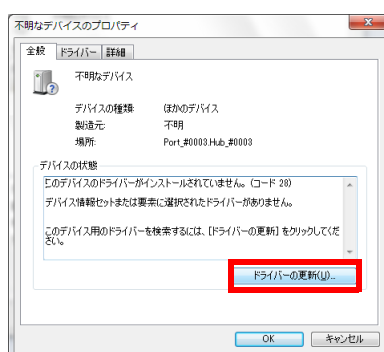
4 [未指定] カテゴリに表示されている認証装置のデバイス名（もしくは [不明なデバイス]）を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。



- 5 [ハードウェア] タブの [プロパティ] をクリックします。



- 6 [全般] タブの [ドライバーの更新...] をクリックします。

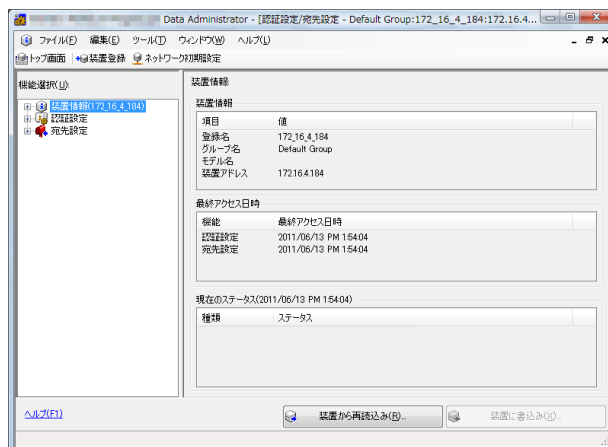


- 7 ドライバーソフトウェアの検索方法を選択する画面で [コンピューターを参照してドライバーソフトウェアを検索します] をクリックします。
- 8 [参照...] をクリックします。
- 9 コンピューター内の IC CardDriver (USB-Driver) ファイルを選び、[OK] をクリックします。
- 10 [次へ] をクリックし、画面の指示に従って操作します。
→ [Windows セキュリティ] の発行元検証に関する画面が表示されるときは、[このドライバー ソフトウェアをインストールします] をクリックします。
- 11 インストールが完了したら、[閉じる] をクリックします。
続いて、Data Administrator PlugIn for IC Card Authentication Unit AU-201 をインストールします。
- 12 Data Administrator PlugIn の setup.exe をクリックします。
- 13 必要に応じて、セットアップ言語を選び、[OK] をクリックします。
- 14 画面の指示に従って、インストールを行います。
- 15 [次へ] をクリックします。
- 16 [使用許諾契約の条項に同意します] を選び、[次へ] をクリックします。
- 17 [インストール] をクリックします。
- 18 インストールが完了したら、[完了] をクリックします。
Data Administrator PlugIn for IC Card Authentication Unit AU-201 のインストールが完了し、セットアップの完了です。

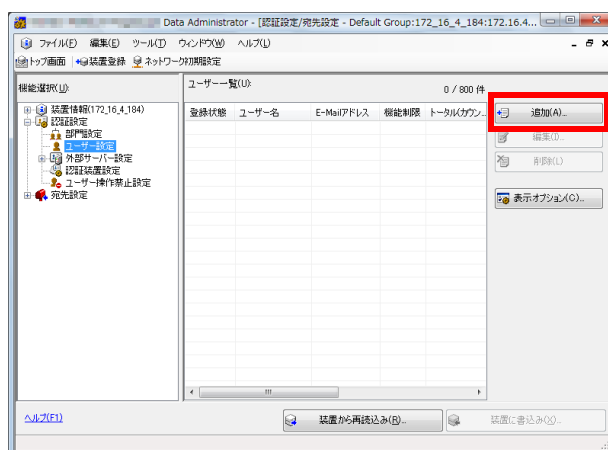
ユーザーの認証情報を登録する

- ✓ Data Administrator でユーザーの認証情報を登録するには、認証装置がコンピューターの USB ポートに接続され、コンピューターと本機がネットワークで接続されている必要があります。

- 1 本機の電源スイッチを ON にします。
- 2 Data Administrator を起動し、本機の装置情報を読み込みます。
 - 認証装置を接続後、5 秒以上経過してから操作を行ってください。
 - 装置情報の読み込みについては、Data Administrator のマニュアルをごらんください。

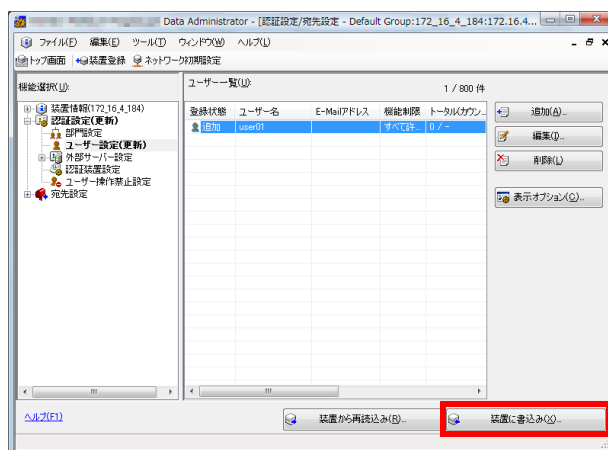


- 3 [機能選択] から [認証設定] - [ユーザ設定] を選び、[追加] をクリックします。



- 4 ユーザーのテンプレートを選び、[OK] をクリックします。
 - テンプレートについては、Data Administrator のマニュアルをごらんください。ユーザーの登録画面が表示されます。
- 5 ユーザー名、パスワードを入力して、[IC カード認証] タブを選びます。
- 6 IC カードを認証装置に置いて、[読取開始] をクリックします。
 - カード ID を直接入力して登録することもできます。
- 7 [OK] をクリックして、次のユーザーの認証情報を登録します。

- 8 すべてのユーザーの認証情報の登録が終わったら、[装置に書込み] をクリックします。
→ ユーザー名を選び、[編集] をクリックすると、登録情報を変更できます。



- 9 [書込み] をクリックします。
→ Data Administrator には一括コピー機能があります。登録した認証情報を複数の装置にまとめて書込むこともできます。
- 10 本機への書込みが完了したら、[OK] をクリックします。
- 11 コンピューターの USB ポートから認証装置を取外します。
重要
USB ケーブルの抜き差しは、プラグの部分を持って行ってください。故障の原因となります。
- 12 認証装置を本機の USB ポートに接続します。
重要
USB ケーブルの抜き差しは、プラグの部分を持って行ってください。故障の原因となります。
- 13 本機を再起動します。
重要
本機を再起動するときは、電源スイッチを OFF にして、10 秒以上経過してから ON にしてください。間隔をあげないと、正常に機能しないことがあります。

ユーザー情報とカード ID を関連付ける

ユーザー情報とカード ID が関連付けられていない場合や、登録済みのカード ID を変更する場合などに、ユーザー情報とカード ID の関連付けを、**操作パネル**から行うことができます。

- 1 **操作パネル**の「設定メニュー」 - 「管理者設定」 - 「ユーザー認証 / 部門管理」 - 「IC カード認証」をタップします。
- 2 カード ID を登録するユーザーを指定し、「OK」をタップします。
- 3 「編集」をタップします。
→ 「削除」をタップすると、登録済みのカード ID を削除できます。
- 4 IC カードを認証装置にかざして（置いて）、「OK」をタップします。

重要

読取り中は、IC カードをカード読取部から 40 mm 以内に近づけたまま放置しないでください。

- 5 「閉じる」をタップします。

6.3 本機にログインする

本機の認証設定によって、ログインの方法が異なります。

- [カード認証] の場合は、IC カードをかざす（置く）だけでログインできます。
- [カード認証 + パスワード] の場合は、IC カードをかざして（置いて）、パスワードを入力することでログインできます。

1 [認証方法] で [認証装置] が選ばれていることを確認します。

2 IC カードを認証装置にかざし（置き）ます。

→ [カード認証 + パスワード] の場合は、パスワードを入力して、[ログイン] をタップします。
認証が開始されます。認証に成功すると、本機にログインします。



参考

認証の失敗が多く発生する場合は、正しく IC カードの情報が登録されていない可能性があります。IC カードの情報を登録しなおしてください。

7

索引

7 索引

D

Data Administrator 6-4

E

E-mail 送信
準備 2-2

F

FTP 送信
準備 2-10

L

LDAP サーバー
準備 2-23

Linux
プリンターの追加 5-3

M

Mac OS
プリンターの追加 (IPP) 4-5
プリンターの追加 (LPR) 4-2

S

SMB 送信
準備 2-7

W

Web Connection
アイコン 1-6
アクセスのしかた 1-4
概要 1-2
画面構成 1-4
準備 1-3
ログイン画面 1-7
ログインモード 1-8

WebDAV 送信
準備 2-11

Web ブラウザー 1-3

Windows
プリンタードライバ (IPP) 3-14
プリンタードライバ (LPR) 3-4
プリンタードライバ (Port9100) 3-4
プリンタードライバ (USB) 3-20
プリンタードライバ (Web サービス) 3-19

WS 印刷
準備 2-15

WS スキャン
準備 2-13

あ行

宛先 1-12, 1-50
宛先制限 2-41
宛先登録 2-26
E-mail 2-26
FTP 2-27
SMB 2-28
WebDAV 2-29
インターネットファクス 2-31

グループ宛先 2-32
ファクス 2-30
プログラム宛先 2-32

インターネットファクス
準備 2-17

か行

管理者モード 1-9, 1-13

さ行

システム 1-10, 1-13
証明書 2-38
インポート 2-40
エクスポート 2-40
削除 2-40
自己作成 2-38
発行要求 2-39
ジョブ 1-10, 1-42
ストレージ 1-11, 1-50
セキュリティ 1-20

な行

認証装置
概要 6-2
準備 6-3
ログイン 6-9
ネットワーク 1-51
ネットワーク設定 1-3

は行

部門認証 2-37
プリント 1-11, 1-42

や行

ユーザー認証 (Active Directory)
準備 2-36
ユーザー認証 (本体装置認証)
準備 2-34
ユーザーモード 1-9, 1-10



KONICA MINOLTA

国内総販売元
コニカミノルタ ビジネスソリューションズ株式会社
製造元
コニカミノルタ株式会社